

平成 20 年 度

専門科目教育要項

東京医科歯科大学歯学部口腔保健学科

ま え が き

この教育要項は、口腔保健学科専門科目の授業を受ける学生の皆さんに、平成20年度に行われる予定の専門教育科目を示し、それらの授業計画および授業内容の概要を知らせるためのものです。

学生の皆さんが、本学における口腔保健学教育の内容を把握すると共に、充実した履修が行えるよう本要項を有意義に活用されることを希望します。

平成20年3月

歯学部口腔保健学科教育委員会

基本的理念

温かく豊かな人間性を有し、口腔保健・福祉の立場から、人々の健康で幸せな生活の実現のため、専門的知識および技術をもって広く社会貢献し、指導的役割を果たすことのできる人材を育成する。

一般教育目標

- ・ 生命の尊厳と基本的な科学原理・概念を理解し、生命科学の知識を修得する。
- ・ 基本的人権を尊重し、相手の心情と行動を理解して人と接する能力を身につける。
- ・ 社会における口腔保健・福祉の果たす役割とその重要性を理解する。
- ・ 心身の様々な状態を理解し、口腔保健に関する知識および技術を修得する。
- ・ 科学的探究心と問題解決能力を身につけ、生涯学習への意欲を培う。
- ・ 保健・医療・福祉等の関連職種と連携して活動できる能力を身につける。
- ・ 口腔保健の立場から国際貢献ができる能力を修得する。

歯学部長あいさつ

歯学部長 田 上 順 次

歯学部口腔保健学科では、温かく豊かな人間性を有し、口腔保健・福祉の立場から、人々の健康で幸せな生活の実現のため、専門的知識および技術をもって広く社会貢献し、指導的役割を果たすことのできる人材を育成することを教育の基本理念に掲げています。日本で最初の口腔保健専門の学科としてスタートしたばかりですので、学生の皆さんには歯科界の各方面から大きな期待が寄せられています。こうした社会的な責任を果たすためにも、最善と思われる専門課程のカリキュラムが組まれています。

非常に多くの科目がありますが、いずれも実践できなければ人々や社会に貢献することはできません。実習の時間が多いのも一つの特徴ですが、しっかりとした理論に支えられてこそその実習です。かなりタイトなカリキュラムですが、必ず得られるものも大きいはずです。既に教養課程でも自学自習の態度、問題認識、問題解決型のアプローチについては、PBL、テュートリアル教育などを通じて身につけてきたことと思います。もちろん専門教育においてもこうした手法は当然役立ちます。また、臨床実習の充実が本学の大きな特徴です。ここでは包括的な専門知識、コミュニケーション、チームアプローチなど、実際の患者さんとの接触を通して、得がたい時間を過ごすことになります。人々の健康で幸せな生活を実現するために、本当に役に立つ専門的知識と技術を実践・体得して、社会に貢献できる専門家になってください。

教員の先生方のほか、歯学科の先生方や外部の先生方も皆さんの教育を担当してまいります。いずれも業界のリーダーとして活躍する先生方ばかりです。こんなに素晴らしい将来の目標となる人物が身近にたくさんいらっしゃるのですから、積極的に先生方にアプローチして、少しでも多くのことを学んでください。さらに皆さんには4年制の口腔保健学科の卒業生として、将来は口腔保健学をリードして行く立場にあります。社会的に期待されるということはとても幸せなことです。この期待に応えることができるように充実した専門教育課程を過ごしてください。期待しています。

第 2 学年 授業科目

科目名	科学英語 I
ユニット名	科学英語 I
授業形態	講義
開講時期・単位・時間数	2 学年前期・必修 1 単位・15 時間
科目・ユニット責任者	坂本裕次郎
授業担当者	坂本裕次郎、森尾郁子（医歯総合教育開発学分野）
主な授業場所	口腔保健学科 第2 講義室、演習室

学習目標

- ・口腔保健に関連する基本的英語表現を身につける。
- ・科学英語論文の構成を学ぶとともに、基礎的読解能力を身につける。
- ・口腔保健に関して、英語で意思疎通をする基礎的能力を身につける。

到達目標

- ・口腔保健関連の専門用語を英語で表現できる。
- ・口腔保健関連の英文を読解し、内容を説明できる。
- ・科学英語論文の論理構成を把握し、批判できる。

授業計画 2 学年前期・必修 1 単位・15 時間

回	授業題目	授業内容
1-6	歯学の基本英語	歯科・口腔保健学に必要な基本的英語表現を学ぶ
7-8	学術論文とは	・学術論文の構成について ・抄読する英文の紹介
9-15	英文抄読	歯科・口腔保健の英語論文の読解

評価方法

- ・随時の小テスト等で形成的評価を行う。
- ・提出レポート、課題発表等で総括的評価を行う場合があります。
- ・グループ別の授業や発表では、各個人の参加態度も総括的評価に加味する。

参考図書等

- ・必要な文献はプリントで配布します。

留意事項

- ・ 英語の辞書等は持参すること。
- ・ 授業に各自のパソコンを持参してもらう場合があります。

科目名	科学英語Ⅱ
ユニット名	科学英語Ⅱ
授業形態	講義
開講時期・単位・時間数	2 学年後期・選択 1 単位・15 時間
科目・ユニット責任者	坂本裕次郎
授業担当者	坂本裕次郎
主な授業場所	口腔保健学科 第2 講義室、演習室

学習目標

- ・口腔保健に関して、英語で意思疎通をする基礎的能力を身につける。
- ・英語論文作成の模擬体験を通して、科学的思考力を身につける。

到達目標

- ・科学英語論文の論理構成を把握し、批判できる。
- ・口腔保健に関連した基本的内容を英語で表現できる。

授業計画 2 学年後期・選択 1 単位・15 時間

回	授業題目	授業内容
1-5	科学英語文献の検索	仮の研究テーマを決めて文献検索の方法を学ぶ。
6-10	科学英語文献の活用	文献から得られる情報と疑問や問題点を抽出する
11-15	緒言（イントロダクション）の英作文	テーマの現状と問題点を整理して、研究目的を論理的に英文で説明する。

評価方法

- ・提出レポート、課題発表等で総括的評価を行う場合があります。
- ・グループ別の授業や発表では、各個人の参加態度も総括的評価に加味する。

参考図書等

- ・必要な文献はプリントで配布します。

留意事項

- ・英語の辞書等は持参すること。
- ・授業に各自のパソコンを持参してもらう場合があります。

科目名	人体の構造と機能Ⅱ
ユニット名	人体の構造と機能Ⅱ
授業形態	講義
開講時期・単位・時間数	2 学年前期・必修 2 単位・30 時間
科目・ユニット責任者	杉本久美子
授業担当者	杉本久美子、坂本裕次郎、井関祥子（分子発生学分野）

学習目標

人体の正常な構造、機能と分子的基礎、ならびに発生、成長、加齢に伴う変化について学ぶことにより、生命現象が営まれるメカニズムを分子レベルから個体レベルに至るまで系統的に理解する。

到達目標

- ・ 生命における遺伝子の分子機構ならびに働きを説明できる。（1 年）
- ・ 生命の基本単位である細胞の構造、構成要素と働きを説明できる。（1 年）
- ・ 人体の発生、成長と発達を説明できる。（1 年）
- ・ 上皮組織、支持組織、筋組織および神経組織の構成成分、構造および機能を説明できる。（1 年）
- ・ 循環器系の構造と機能、および発生機序を説明できる。（1 年）
- ・ 血液の成分と働き、および造血器、リンパ網内系の構造と機能を説明できる。（1 年）
- ・ 運動器系の構造と機能、および発生、成長、加齢に伴う変化を説明できる。（1 年）
- ・ 感覚器系の構造と機能、および発生、成長、加齢に伴う変化を説明できる。
- ・ 末梢神経系および中枢神経系の構造と機能、およびその発生、成長、加齢に伴う変化を説明できる。
- ・ 呼吸器系の構造と機能、および発生、成長に伴う変化を説明できる。
- ・ 消化器系の構造と機能および発生機序を説明できる。
- ・ 泌尿器系の構造と機能、尿の生成機序を説明できる。
- ・ 内分泌系の構造、機能、およびホルモンの作用を説明できる。
- ・ 生殖器の構造と機能、および発生、成長、加齢に伴う変化を説明できる。
- ・ 生体の恒常性維持機構（体温調節、体液組成および体液量の調節）を説明できる。

授業計画 2 学年前期・必修 2 単位・30 時間

回	授業題目	授業内容
1	神経系の基本構造	神経系の構成要素、ニューロン（神経細胞）の構造、化学シナプスの構造
2	全身の神経系	全身の神経系の種類と走行

3	全身の神経系	全身の神経系の種類と走行
4	神経系の発生	神経系の発生過程とその機構
5	神経系の働き 1	興奮伝導・興奮伝達のしくみ、神経伝達物質の働き
6	神経系の働き 2	末梢神経系の構造と働き
7	神経系の働き 3	中枢神経系の構造、脊髄と脳（大脳皮質、大脳辺縁系、間脳、小脳、脳幹ほか）の働き
8	神経系の働き 4	脊髄と脳（大脳皮質、大脳辺縁系、間脳、小脳、脳幹ほか）の働き、脊髄反射
9	一般体性感覚、内臓感覚	感覚器の基本構造、一般体性感覚器・内臓感覚器の構造、機能および伝導路
10	特殊感覚 1	視覚・嗅覚の感覚器の構造と機能、視覚・嗅覚の伝導路
11	特殊感覚 2	聴覚・平衡感覚の感覚器の構造と機能、聴覚・平衡感覚の伝導路
12	神経系・感覚器の組織観察	神経系および感覚器組織の顕微鏡観察
13	呼吸器系の構造	呼吸器系の構成と組織
14	呼吸器系の発生	呼吸器系の発生過程とその機構
15	呼吸器系の組織観察	呼吸器系組織の顕微鏡観察
16	呼吸器系の働き	呼吸運動、ガス交換のしくみ、呼吸調節、肺気量の分画
17, 18	泌尿器系の構造と発生	泌尿器系の構造と発生のしくみ
19, 20	尿の生成と体液の調節	尿生成のメカニズム、排尿、体液量および体液組成の調節
21, 22	内分泌系の構造と発生	内分泌系の構造と発生のしくみ
23, 24	ホルモンの働き	ホルモンによる恒常性維持と機能相関、視床下部－脳下垂体系
25	体温調節	発汗、体温調節機構
26	生殖器の構造と発生	生殖器の構造と発生のしくみ
27	〃	〃
28-30	人体解剖見学	医学部における人体解剖の見学

評価方法

提出レポート、期末の客観試験、論述試験で総合的評価を行う。

出席状況、授業態度を総括的評価に加味する。

参考図書等

- ・「解剖生理学」 高野廣子著 南山堂
- ・「図解生理学」第2版 中野昭一編 医学書院
- ・「カラーで学ぶ解剖生理学」 ゲーリー・A・ティボドー、ケビン・T・パットン著 コメディカルサポート研究会訳 医学書院
- ・「標準生理学」第5版 本郷利憲、廣重力監修 医学書院
- ・新歯科衛生士教本「生理学」 全国歯科衛生士教育協議会編 医歯薬出版
- ・歯科衛生士教本「組織・発生」 全国歯科衛生士教育協議会編 医歯薬出版
- ・歯科衛生士教本「解剖」 全国歯科衛生士教育協議会編 医歯薬出版
- ・歯科衛生士教本「口腔解剖」 全国歯科衛生士教育協議会編 医歯薬出版

留意事項

事前に資料の配付、e-learning へのアップロード等があった場合は、予習して授業に臨むこと。

科目名	人体の構造と機能Ⅱ
ユニット名	歯・口腔の構造と機能
授業形態	講義・実習
開講時期・単位・時間数	2 学年前期・必修・30 時間 2 学年後期・必修・45 時間 } 5 単位
科目・ユニット責任者	杉本久美子・坂本裕次郎
授業担当者	坂本裕次郎、杉本久美子
主な授業場所	口腔保健学科 第2・4 講義室、第4 実習室 解剖学実習室

学習目標

顎・顔面・口腔領域の組織、器官の構造と機能およびその分子的基盤を学ぶとともに、それらの発生と成長について学び、顎・顔面・口腔領域の健康と全身の健康との関連について理解を深める。

到達目標

- ・口腔諸器官の構造、構成分子と機能および発生と成長について説明できる。
- ・歯と歯周組織の形態と構成成分ならびに機能について説明できる。
- ・歯と歯周組織の発生、成長過程を説明できる。
- ・歯の石灰化の機序とカルシウム・リン代謝について説明できる。
- ・唾液線の構造と分泌機構および唾液の成分とその作用について説明できる。
- ・口腔諸器官（歯・歯周組織・唾液線を含む）の機能と全身の正常機能とを関連づけられる。
- ・頭頸部の主要な骨（頭蓋骨、下顎骨等）の形態、発生と成長について説明できる。
- ・頭頸部の主要な筋（表情筋、咀嚼筋）の形態とその機能を説明できる。
- ・脳神経の支配様式と働きについて説明できる。
- ・頭頸部の脈管系（血管系、リンパ系）について説明できる。
- ・頭頸部と全身の骨・筋・神経・脈管系を互いに関連づけられる。
- ・口腔領域の体性感覚器・味覚器官の構造と働きおよび発生と成長について説明できる。
- ・下顎反射のしくみとその役割について説明できる。
- ・咀嚼運動の神経機構を説明できる。
- ・嚥下・吸引・嘔吐反射のしくみを説明できる。
- ・発声・構音のしくみを説明できる。
- ・頭頸部・口腔領域と全身の感覚・反射・運動のしくみを対比できる。

授業計画

2 学年前期・必修・30 時間

回	授業題目	授業内容
1	口腔諸器官の構造と機能	口腔諸器官の構造と機能
2	歯と歯周組織の総論	歯と歯周組織の構成要素、歯列と咬合の基礎知識 歯の種類と記号・方向用語
3, 4	歯の構成成分	歯の構成成分の物理化学的性状
5-10	永久歯の解剖学	切歯・犬歯・小臼歯・大臼歯の形態
11, 12	乳歯の解剖学	乳切歯・乳犬歯・乳臼歯の形態
13	顎顔面領域の発生	顎顔面領域の初期発生
14	歯の発生 1	硬組織形成前までの歯胚の発生過程
15	歯の発生 2	象牙質・歯髄複合体の形成機構
16	歯の発生 3	エナメル質の形成機構
17	顔面の発生・初期歯胚の組織像	顔面の発生と初期歯胚の顕微鏡観察
18	硬組織形成期歯胚の組織像	象牙質・エナメル質の形成初期の顕微鏡観察
19	歯周組織の形成機構	歯周組織の形成機構
20	象牙質・歯髄複合体	象牙質・歯髄複合体の構造と象牙質の成長線
21	エナメル質	エナメル質の構造と成長線
22	歯周組織	歯周組織の構造
23	歯列形成と歯の萌出と交換	歯列と咬合の形成と歯の萌出と交換のしくみ
24-26	脳神経／歯と口腔の神経支配	歯と口腔の感覚をつかさどる神経
27, 28	歯髄感覚・歯根膜感覚	歯髄感覚・歯根膜感覚のしくみ
29, 30	歯と歯周組織の組織像	象牙質・エナメル質、歯周組織の顕微鏡観察

2 学年後期・必修・45 時間

回	授業題目	授業内容
31-33	体幹・体肢の骨格系・筋系	骨格標本を使って体幹・体肢の骨格と筋の総括
34, 35	脊髄神経系・自律神経系	体幹・体肢の末梢神経系の総括
36	体幹・体肢の脈管系	体幹・体肢の脈管系の総括
37-39	頭蓋と頭頸部の脈管系	頭蓋の外景・内景、頭頸部の動・静脈

40-42	解剖体慰霊式	東京医科歯科大学・解剖体慰霊式に出席
43-45	頭蓋と頭頸部の脈管系	頭蓋を構成する骨、頭頸部のリンパ管・リンパ節
46	頭頸部の筋系	表情筋・咀嚼筋・浅頸筋・外側頸筋
47	頭頸部の筋系と頸筋膜	前頸筋（舌骨上筋・舌骨下筋）・後頸筋、頸筋膜
48	顎関節と顎運動	顎関節の構造と機能および顎運動
49, 50	中枢神経系	中枢神経系の構造と伝導路
51	記憶・学習・情動行動	記憶・学習・情動行動のしくみ
52	口腔粘膜・舌	口腔粘膜・舌の構造
53, 54	口腔粘膜感覚・味覚・嗅覚	口腔粘膜感覚・味覚・嗅覚のしくみ
55, 56	唾液腺	唾液腺の構造と唾液の分泌機構
57	唾液	唾液の性状・成分・生理作用
58	消化器系	消化器系の発生と基本構造
59, 60	口腔領域の消化器系の組織観察	口唇・舌・扁桃・唾液腺の顕微鏡観察
61	咽頭～食道・喉頭	咽頭～食道・喉頭の構造と機能
62	顎関節感覚・咀嚼運動	顎関節感覚・咀嚼運動の制御機構
63	開口反射・閉口反射	開口反射・閉口反射のしくみ
64	嚥下、吸引、嘔吐	嚥下、吸引、嘔吐のしくみ
65	発声と構音	発声のしくみと構音
66	胃腸、肝胆膵	胃、小腸、大腸、肝臓、胆のう、膵臓の構造と機能
67	消化管の運動	消化管運動のしくみ
68	消化液の作用	消化液の成分と作用および分泌調節
69	消化と吸収	栄養素の消化と吸収のしくみ
70	排便反射	排便反射のしくみ
71, 72	消化器系の組織観察	口腔領域以外の消化器系の顕微鏡観察
73-75	肉眼解剖見学実習	頭頸部の局所解剖学の見学

評価方法

- ・随時の小テスト等で形成的評価を行う。
- ・期末の客観試験、論述試験で総括的評価を行う。
- ・授業態度、製作品、提出レポート等を総括的評価に加味する。

参考図書等

- ・「基礎歯科生理学」第4版 中村嘉男他編 医歯薬出版
- ・「入門人体解剖学」改訂第4版 藤田恒夫 南江堂
- ・「人体解剖学」改訂第42版 藤田恒太郎 南江堂
- ・「解剖生理学」 高野廣子著 南山堂
- ・「図解生理学」第2版 中野昭一編 医学書院
- ・「標準生理学」第5版 本郷利憲、廣重力監修 医学書院
- ・新歯科衛生士教本「解剖学・組織発生学・口腔解剖学」第2版 全国歯科衛生士教育協議会編 医歯薬出版
- ・新歯科衛生士教本「生理学」 全国歯科衛生士教育協議会編 医歯薬出版
- ・歯科衛生士教本「組織・発生」第2版 全国歯科衛生士教育協議会編 医歯薬出版
- ・歯科衛生士教本「解剖」第2版 全国歯科衛生士教育協議会編 医歯薬出版
- ・歯科衛生士教本「口腔解剖」 全国歯科衛生士教育協議会編 医歯薬出版

留意事項

- ・解剖実習室で授業が行われる場合は、白衣と上履きを用意すること。
- ・東京医科歯科大学解剖体慰霊式の「会場と時間、服装と心得など」については、日が近くなったら大学側から掲示で連絡されるので各自注意して確認すること。

科目名	疾病の成立過程と生体防御
ユニット名	病理学総論
授業形態	講義
開講時期・単位・時間数	2 学年前期・必修 2 単位・30 時間
科目・ユニット責任者	坂本裕次郎
授業担当者	石川雅章、坂本啓（口腔病理学分野）、坂本裕次郎
主な授業場所	口腔保健学科 第2講義室

学習目標

疾病の原因と病態に関する基本的知識を体系的に修得する。

到達目標

- ・代謝障害と退行性・進行性病変の病因・病態について説明できる。
- ・遺伝のしくみと遺伝疾患、奇形の原因について説明できる。
- ・循環障害の病因・病態について説明できる。
- ・腫瘍の概念と病因・病態について説明できる。
- ・歯と口腔の発育異常について説明できる。
- ・歯の付着物と疾患との関連について説明できる。
- ・う蝕の病因と分類について概説できる。
- ・口腔粘膜疾患の病因・病態について説明できる。
- ・消化器疾患の病因・病態について説明できる。
- ・疼痛の病因・病態について説明できる。
- ・顎・顔面・口腔領域の神経痛の病因・病態について説明できる。
- ・内分泌系疾患の病因・病態について説明できる

授業計画 2 学年前期・必修 2 単位・30 時間

回	授業題目	授業内容
1, 2	病理学とは	病因論、細胞障害、組織障害
3, 4	物質代謝障害（退行性病変）	変性、萎縮、壊死の病理学
5, 6	増殖と再生（進行性病変）	増殖、肥大、化生、再生、修復の病理学
7-9	遺伝と疾患	遺伝子異常とその発生機構、遺伝性疾患と先天奇形
10, 11	循環障害	循環障害の発生機序、分類と病理学

12, 13	腫瘍 1	腫瘍の概念と発生機序
14, 15	腫瘍 2	腫瘍の分類と病理学
16	歯の付着物と疾患（基礎）	歯の付着物と疾患との関連に関する基礎的概念
17, 18	歯と口腔の発育異常	歯と口腔の発育異常の病因と病理学的所見
19, 20	う蝕総論	う蝕の病因と分類
21, 22	口腔粘膜疾患	口腔粘膜疾患の病因と病理学的所見
23, 24	消化器疾患	消化器疾患の病因と病理学的所見
25, 26	疼痛総論	疼痛の概念と分類、疼痛発生の原因と機序
27, 28	顎・顔面領域の疼痛	脳神経と顎・顔面領域の疼痛の原因と機序
29, 30	内分泌系疾患	内分泌系疾患の病因と病理学的所見

評価方法

- ・随時の小テスト等で形成的評価を行うことがある。
- ・期末の客観試験、論述試験で総括的評価を行う。

参考図書等

- ・「エッセンシャル病理学」 沢井高志他編 医歯薬出版
- ・「わかりやすい病理学」 改訂第3版 岩田隆子他編 南江堂
- ・「これだけは知っておきたい疾病のなりたち」 井上泰訳 医学書院
- ・新歯科衛生士教本「病理学」 全国歯科衛生士教育協議会編 医歯薬出版

科目名	疾病の成立過程と生体防御
ユニット名	口腔病理学
授業形態	講義
開講時期・単位・時間数	2 学年後期・必修 1 単位・15 時間
科目・ユニット責任者	坂本裕次郎
授業担当者	坂本裕次郎
主な授業場所	口腔保健学科 第2 講義室

学習目標

顎・顔面・口腔疾患の原因と病態の特徴および全身疾患との関連性について理解する。

到達目標

- ・う蝕の病因・病態について説明できる。
- ・歯髄炎および根尖性歯周炎の病因・病態について説明できる。
- ・辺縁性歯周炎の病因・病態について説明できる。
- ・顎骨疾患の病因・病態について説明できる。
- ・顎口腔領域の嚢胞の病因・病態について説明できる。
- ・唾液腺疾患の病因・病態について説明できる。
- ・顎口腔領域の腫瘍の病因・病態について説明できる。

授業計画 2 学年後期・必修 1 単位・15 時間

回	授業題目	授業内容
1, 2	う蝕（基礎）	う蝕の病因と病理学的分類と病理学
3, 4	歯髄の病変（基礎）	歯髄炎・その他の疾患の病因と病理学
5	歯周疾患（基礎）1	根尖性歯周炎の病因と病理学
6, 7	歯周疾患（基礎）2	歯肉炎・辺縁性歯周炎・その他の病因と病理学
8, 9	顎骨の疾患	顎骨の疾患の病因と病理学的所見
10, 11	顎口腔領域の嚢胞	顎口腔領域の嚢胞の病因と病理学的所見
12, 13	唾液腺疾患	唾液腺疾患の病因と病理学的所見
14, 15	顎口腔領域の腫瘍	顎口腔領域の腫瘍の病因と病理学的所見

評価方法

- ・ 随時の小テスト等で形成的評価を行う。
- ・ 期末の客観試験、論述試験で総括的評価を行う。

参考図書等

- ・ 新歯科衛生士教本「病理学」全国歯科衛生士教育協議会編 医歯薬出版

科目名	疾病の成立過程と生体防御
ユニット名	病原微生物と生体防御
授業形態	講義
開講時期・単位・時間数	2 学年後期・必修 1 単位・15 時間
科目・ユニット責任者	坂本裕次郎
授業担当者	荒川真一（歯周病外来）、坂本裕次郎、高柳広（分子情報伝達学分野）、森田育男（分子細胞機能学分野）
主な授業場所	口腔保健学科 第2 講義室

学習目標

病原微生物の特徴と病原性および生体の防御反応のしくみについて理解する。

到達目標

- ・病原微生物の分類と病原性について説明できる。
- ・口腔細菌の特徴と病原性について説明できる。
- ・炎症の病因・病態について説明できる。
- ・免疫獲得と免疫寛容の機構および免疫疾患の病因・病態について説明できる。
- ・病原微生物や様々な外来刺激に対する生体の防御系を説明できる。

授業計画 2 学年後期・必修 1 単位・15 時間

回	授業題目	授業内容
1, 2	微生物学各論 1	グラム陽性菌、グラム陰性菌
3, 4	微生物学各論 2	スピロヘータ、マイコプラズマ、リケッチア、クラミジア、真菌、ウイルス
5, 6	口腔細菌	う蝕関連細菌、歯周疾患関連細菌
7, 8	炎症総論	炎症の分類と病態・組織変化
9, 10	炎症の発生機構	炎症の発生機構と媒介因子
11, 12	免疫学総論	免疫のしくみ、免疫獲得と免疫寛容
13, 14	免疫反応とアレルギー	免疫とアレルギーの関係
15	免疫・アレルギー疾患	疾患の種類と病態

評価方法

- ・随時の小テスト等で形成的評価を行うことがある。
- ・期末の客観試験、論述試験で総括的評価を行う。

参考図書等

- ・新歯科衛生士教本「微生物学」全国歯科衛生士教育協議会編 医歯薬出版
- ・新歯科衛生士教本「病理学」全国歯科衛生士教育協議会編 医歯薬出版
- ・「エッセンシャル病理学」沢井高志他編 医歯薬出版
- ・「わかりやすい病理学」改訂第3版 岩田隆子他編 南江堂
- ・「これだけは知っておきたい疾病のなりたち」 井上泰訳 医学書院

科目名	薬理・薬剤学
ユニット名	薬理・薬剤学
授業形態	講義
開講時期・単位・時間数	2 学年前期・必修 2 単位・30 時間
科目・ユニット責任者	杉本久美子
授業担当者	杉本久美子、大谷啓一・下川仁彌太・青木和広・田村幸彦（硬組織薬理学分野）、長谷川望（非常勤講師）、土屋文人（歯学部附属病院・薬剤部）
主な授業場所	口腔保健学科 第2講義室

学習目標

医薬品の薬理作用を理解し、薬物を安全かつ効果的に利用するために必要な基本的知識を修得する。

到達目標

- ・薬の作用、有効量、中毒量、致死量について概説できる。
- ・薬物の投与法と生体内分布について概説できる。
- ・薬物の連用および併用に伴う現象について概説できる。
- ・中枢神経系作用薬物の種類と作用について概説できる。
- ・末梢神経系作用薬物の種類と作用について概説できる。
- ・呼吸・循環器系作用薬の種類と作用について概説できる。
- ・消化器系作用薬の種類と作用について概説できる。
- ・ホルモン剤の種類と作用について概説できる。
- ・ビタミンの種類と作用について概説できる。
- ・血液・造血系作用薬の種類と作用について説明できる。
- ・抗炎症薬の種類と作用について説明できる。
- ・免疫系作用薬の種類と作用について概説できる。
- ・病原微生物作用薬（消毒薬・化学療法薬）の種類と作用について説明できる。
- ・悪性腫瘍治療薬の種類と作用について概説できる。
- ・腐食・収斂薬の種類と作用について概説できる。
- ・歯科領域で用いられる薬物の種類と作用を説明できる。
- ・医薬品の剤形、処方箋および保管方法について概説できる。
- ・薬事関連法規について概説できる。
- ・歯科用医薬品の特徴および使用の留意点について説明できる。

授業計画 2 学年前期・必修 2 単位・30 時間

回	授業題目	授業内容
1, 2	薬理学とは、薬理作用と薬物の作用機序、薬理作用への影響因子	薬理学の構成、作用と副作用（薬の有効量・中毒量・致死量）、薬の作用点、情報伝達系、薬物の有害作用、薬物作用に影響する因子、薬物の連用に伴う現象、薬物の併用
3, 4	薬の投与法と生体内運命、薬物療法	薬物の投与経路、吸収、分布・代謝・排泄、薬物体内動態と薬効、ライフステージと薬物療法、薬物送達システムほか
5, 6	中枢神経系作用薬	中枢神経系に対する薬物作用、全身麻酔薬、麻薬性鎮痛薬、鎮静睡眠薬、向精神薬、抗パーキンソン薬、抗てんかん薬、中枢神経興奮薬、抗痴呆薬
7, 8	末梢神経系作用薬	自律神経作用薬 2（アドレナリン作動薬、抗アドレナリン作動薬、コリン作動薬、抗コリン作動薬）、運動神経系作用薬、局所麻酔薬
9, 10	循環器系作用薬	降圧薬、高脂血症治療薬、抗狭心症薬、強心薬、抗不整脈薬
11	呼吸器系作用薬	鎮咳薬、去痰薬、気管支拡張薬、喘息治療薬、呼吸促進薬
12	消化器系作用薬	食欲・消化作用薬、消化性潰瘍治療薬、胃腸運動改善薬、腸疾患作用薬
13	内分泌系作用薬・ビタミン	ホルモン拮抗薬、ビタミン
14	血液・造血系作用薬	貧血治療薬、止血薬、抗血栓療法薬、血液製剤
15	抗炎症薬・解熱鎮痛薬	生体防御反応と生体警告反応、ステロイド性抗炎症薬、非ステロイド性抗炎症薬、解熱鎮痛薬、消炎酵素薬、痛風治療薬
16	免疫調節薬・免疫療法薬	免疫抑制薬、免疫増強薬、ワクチン製剤、抗アレルギー薬、特異的抗リウマチ薬、抗ヒスタミン薬
17, 18	化学療法薬 1	感染症治療薬（抗生物質）、その他の感染症治療薬（抗真菌薬、抗結核薬、抗ウィルス薬）
19	化学療法薬 2	悪性腫瘍治療薬
20	毒物と解毒薬	毒物の吸収阻害・遅延、毒物の排泄促進、特異的拮抗薬、有機リン剤中毒、金属・重金属中毒

21	硬組織に作用する薬物	骨代謝調節ホルモン、骨粗鬆症の治療薬
22	歯科領域で使用する薬物、う蝕予防に用いる薬	歯科領域で使用する薬物の種類、う蝕予防薬の分類、フッ化物、フッ化物以外のう蝕予防薬、プラーク染色剤、洗口剤
23	口腔粘膜疾患治療薬	口腔粘膜疾患と治療薬、口腔内用薬（洗浄剤、口腔用軟膏剤、口腔用貼付性製剤など）
24	歯内療法薬	う蝕消毒剤および歯髄鎮静剤、覆髄剤、裏層剤、歯髄失活剤、歯髄乾屍剤、根管拡大補助剤と根管清掃剤、根管消毒剤、根管充填剤、象牙質知覚過敏症治療薬
25	歯周疾患治療薬	歯周疾患の分類、歯周炎の発症、プラークコントロールに用いる薬剤、歯周治療の処置に用いる薬剤
26	薬事関連法規	薬事法、日本薬局方、関連法規、麻薬及び向精神薬取締法、覚醒剤取締法、大麻取締法
27	医薬品の剤形、処方箋	医薬品の定義、薬剤の剤形、処方箋、調剤と製剤
28	医薬品の保管	医薬品の保存方法、医薬品の混合（配合変化）など
29	歯科用医薬品の特徴と使用	歯科用医薬品の特徴と剤形、歯科用医薬品の使用方法と留意点
30	まとめ	まとめ

評価方法

提出レポート、期末の客観試験、論述試験で総括的評価を行う。

出席状況および授業態度を総括的評価に加味する。

参考図書等

- ・「シンプル薬理学」改訂第3版 植松俊彦 他編 南江堂
- ・新歯科衛生士教本「薬理学」 全国歯科衛生士教育協議会編 医歯薬出版
- ・「現代歯科薬理学」第3版 小椋秀亮監修 医歯薬出版
- ・「スタンダード歯科薬理学」第2版 川口充幹事編集 学建書院

留意事項

事前に資料の配付、e-learning へのアップロード等があった場合は、予習して授業に臨むこと。

科目名	関係法規・衛生行政
ユニット名	関係法規・衛生行政
授業形態	講義
開講時期・単位・時間数	2 学年前期・必修 2 単位・30 時間
科目・ユニット責任者	寺岡加代
授業担当者	佐々木好幸（口腔保健教育研究センター）、矢澤正人（東京都立多摩立川保健所）
主な授業場所	口腔保健学科 第2講義室

学習目標

憲法および保健・医療・福祉に関連する法律ならびに衛生行政のシステムを理解する。

到達目標

- ・憲法の人権・生活権・健康権等に関する条項を説明できる。
- ・保健・医療・福祉関係従事者の身分を規定する法律を説明できる。
- ・保健・医療・福祉の業務遂行に必要な法律を説明できる。
- ・地域保健法、健康増進法および健康日本 21 施策を説明できる。
- ・衛生行政のシステムを概説できる。

授業計画 2 学年前期・必修 2 単位・30 時間

回	授業題目	授業内容
1, 2	憲法	憲法が保健・医療・福祉に果たす役割
3, 4	医療制度・医療法	保健・医療・福祉制度の概要と相互関係
5, 6	医師法・歯科医師法	医師法・歯科医師法の特徴と意義
7, 8	歯科衛生士法	歯科衛生士法の制定・改正の経緯と意義
9, 10	〃	歯科衛生士法および関連する省令・通達等
11, 12	関連する医療関係者の身分法	医師・歯科医師・歯科衛生士以外の医療に関わる身分法
13, 14	母子保健法	母子保健の動向と規則
15, 16	学校保健法	学校保健の動向と規則
17, 18	労働安全衛生法	産業保健の動向と規則
19, 20	老人保健法	老人保健の動向と規則

21, 22	地域保健法	地域保健の動向と規則
23, 24	健康増進法	健康増進施策の経緯と健康増進法の意義
25, 26	衛生行政	中央の保健行政組織とその機能
27, 28	〃	特定の地域の保健行政組織と保健事業の実例
29, 30	〃	保健行政組織のネットワークと今後のあり方

評価方法

期末の客観試験、記述試験で総括的評価を行う。

参考図書等

- ・「国民衛生の動向」（厚生指標 臨時増刊） 厚生統計協会毎年発行
- ・新歯科衛生士教本「衛生行政・社会福祉」第2版 全国歯科衛生士教育協議会編 医歯薬出版
- ・「歯科でいかそう健康増進法」8020推進財団編 医歯薬出版
- ・「歯科六法必携」能美光房、宮武光吉、石井拓男編 ヒョーロンパブリッシャーズ
- ・新歯科衛生士教本「衛生学・公衆衛生学」 全国歯科衛生士教育協議会編 医歯薬出版

科目名	社会福祉原論Ⅰ
ユニット名	社会福祉原論Ⅰ
授業形態	講義
開講時期・単位・時間数	2 学年前期・必修 1 単位・15 時間
科目・ユニット責任者	杉本久美子
授業担当者	田中恵美子
主な授業場所	口腔保健学科 第2講義室

学習目標

- ・現代社会における社会福祉の理念と意義について理解し、社会福祉の実施体制および財政全体の概要、その課題について考察する。
- ・社会福祉の対象と援助法について理解するとともに、サービス体系と利用者保護制度について理解する。
- ・社会福祉の専門性と倫理を修得し、社会福祉の法体系、社会福祉士法および介護福祉士法について理解する。
- ・外国を含めた今後の社会福祉の動向について理解する。

到達目標

- ・現代社会における社会福祉の意義、理念を説明できる。
- ・社会福祉の成立過程、歴史、法体系、行・財政の問題・課題等の概容を説明できる。
- ・我が国の昨今の“少子・高齢社会”における社会福祉制度・サービスのあり方を考察できる。
- ・生活者の立場から、ライフサイクルと社会福祉施策および実践との密接な関連を説明できる。

授業計画 2 学年前期・必修 1 単位・15 時間

回	授業題目	授業内容
1	イントロダクション	社会福祉という世界の前提
2	生活と社会福祉 1	現代生活の構造と社会福祉
3	生活と社会福祉 2	「生活の必要（ニーズ）」と生活困難
4	生活と社会福祉 3	生活困難の社会問題化と社会福祉へのニーズ
5	社会制度としての社会福祉 1	社会福祉の概念－理念と実体－
6	社会制度としての社会福祉 2	社会福祉の範囲（広義と狭義）
7	福祉のフィールド 1 問題発見	身近な福祉問題を発見しよう

8	福祉のフィールド2 問題発見	身近な福祉問題を発見しよう
9	社会福祉の歴史的展開 1	イギリスの救貧法から福祉国家の成立
10	社会福祉の歴史的展開 2	日本の戦前社会事業と戦後社会福祉の展開
11	社会福祉の原理 1	福祉国家の類型－普遍主義と選別主義
12	社会福祉の原理 2	日本の社会福祉論の展開
13	現代の社会福祉 1	社会福祉基礎構造改革－措置、そして契約へ
14	現代の社会福祉 2	社会福祉に関わる行財政構造
15	現代の社会福祉 3	社会福祉の取組主体とその考え方

評価方法

講義、フィールドワーク、グループディスカッション等への参加の度合い、提出レポートおよび期末の筆記試験で総括的評価を行う。

参考図書等

- ・「社会福祉の原理と思想」岩田正美、武川正吾、永岡正己、平岡公一編 有斐閣
- ・「ウェルビーイング・タウン 社会福祉入門」岩田正美、上野谷加代子、藤村正之著 有斐閣アルマ
- ・他随時授業中に紹介する。

留意事項

事前に資料の配付、e-learning システム上へのアップロード等があった場合は、各自予習して授業に臨むこと。講義における質疑応答やグループディスカッションには主体的に参加し、学ぶ意欲を持って授業に参加することを望む。

科目名	社会福祉原論Ⅱ
ユニット名	社会福祉原論Ⅱ
授業形態	講義
開講時期・単位・時間数	2 学年前期・選択・15 時間 2 学年後期・選択・30 時間 } 3 単位
科目・ユニット責任者	杉本久美子
授業担当者	田中恵美子
主な授業場所	口腔保健学科 第2 講義室

学習目標

- ・ 現代社会における社会福祉の理念と意義について理解し、社会福祉の実施体制および財政全体の概要、その課題について考察する。
- ・ 社会福祉の対象と援助法について理解するとともに、サービス体系と利用者保護制度について理解する。
- ・ 社会福祉の専門性と倫理を修得し、社会福祉の法体系、社会福祉士法および介護福祉士法について理解する。
- ・ 外国を含めた今後の社会福祉の動向について理解する。

到達目標

- ・ 社会福祉士に必要とされる現代社会における社会福祉の意義、理念を説明できる。
- ・ 社会福祉を歴史的産物として理解し、説明できる。
- ・ 現在の社会福祉の法体系、行・財政問題を説明できる。
- ・ ヴォランティアな活動を含めた社会福祉実践の意義と役割を説明できる。
- ・ ジェンダーの視点を理解し、社会福祉制度や実践における女性の立場を説明できる。
- ・ 諸外国におけるポスト福祉国家を展望する新たな政策的動向や社会福祉の援助技術に関する理論や方法を説明できる。
- ・ 社会福祉教育や福祉専門職の特色と問題について歴史的に把握し、説明できる。

授業計画

2 学年前期・選択・15 時間

回	授業題目	授業内容
1	福祉国家と福祉多元主義	福祉国家の危機と供給主体の多元化
2, 3	社会福祉援助の歴史的展開	COS の活動、セツルメント活動、ソーシャルケースワーク

4, 5	社会福祉援助の現状 1	民間非営利組織の活動と日本の現状
6, 7	社会福祉援助の現状 2	ソーシャルワーカーと社会福祉士他福祉専門職
8, 9	社会福祉援助の現状 3	官僚制度と専門性
10, 11	社会福祉援助の現状 4	利用者主体の援助と専門職アイデンティティ
12-15	福祉のフィールド	施設見学

2 学年後期・選択・30 時間

16, 17	ジェンダーと社会福祉 1	ジェンダーとは ジェンダー政策の展開
18, 19	ジェンダーと社会福祉 2	社会制度・慣習における男女格差
20, 21	ジェンダーと社会福祉 3	少子・高齢社会と女性、現代の社会問題と女性
22, 23	社会福祉の国際動向 1	先進諸国の動向 1
24, 25	社会福祉の国際動向 2	先進諸国の動向 2
26, 27	社会福祉の国際動向 3	東南アジア諸国と国際社会福祉
28, 29	現代社会の問題と社会福祉 1	福祉の人材不足 現状
30, 31	現代社会の問題と社会福祉 2	福祉の人材不足 課題整理
32, 33	現代社会の問題と社会福祉 3	格差社会の現状
34, 35	現代社会の問題と社会福祉 4	社会的排除と包摂
36, 37	現代社会の問題と社会福祉 5	家族機能の低下と要援護者、社会保障制度改革
38, 39	現代社会の問題と社会福祉 6	年金制度問題と改革
40, 41	現代社会の問題と社会福祉 7	医療制度改革
42, 43	現代社会の問題と社会福祉 8	終末期医療と在宅福祉
44, 45	まとめ	「生き続けていくこと」と社会福祉

評価方法

講義、フィールドワーク、グループディスカッション等への参加の度合い、提出レポートおよび期末の筆記試験で総括的評価を行う。

参考図書等

- ・「社会福祉の原理と思想」岩田正美、武川正吾、永岡正己、平岡公一編 有斐閣
- ・「ウェルビーイング・タウン 社会福祉入門」岩田正美、上野谷加代子、藤村正之著 有斐閣アルマ
- ・他随時授業中に紹介する。

留意事項

事前に資料の配付、e-learning システム上へのアップロード等があった場合は、各自予習して授業に臨むこと。講義における質疑応答やグループディスカッションには主体的に参加し、学ぶ意欲を持って授業に参加することを望む。

科目名	口腔健康科学
ユニット名	口腔健康科学
授業形態	講義
開講時期・単位・時間数	2 学年前期・必修 2 単位・30 時間
科目・ユニット責任者	寺岡加代(講義)、吉田直美(PBL テュートリアル)
授業担当者	寺岡加代、口腔保健学科教員、安藤雄一（国立保健医療科学院）
主な授業場所	口腔保健学科 第2 講義室(講義)・第1～第4 演習室(PBL テュートリアル)

学習目標

ヘルスプロモーションの変遷を知るとともに、活動のプロセスを学び、口腔保健の専門家としての役割を理解する。

到達目標

- ・ 口腔健康科学の意義を説明できる。
- ・ ヘルスプロモーションの概要を説明できる。
- ・ WHO の健康戦略を説明できる。
- ・ 保健行動の理論とモデルを説明できる。
- ・ ヘルスプロモーションの展開過程（計画・実施・評価）を説明できる。
- ・ 口腔保健政策におけるヘルスプロモーションの役割を説明できる。

授業計画 2 学年前期・必修 2 単位・30 時間

回	授業題目	授業内容
1- 3	口腔健康科学・ヘルスプロモーションの概要	口腔健康科学の意義、ヘルスプロモーションの定義・変遷、WHO の健康戦略
4- 6	全体講義・セッション 1	PBL テュートリアルについて、シナリオ 1
7-9	セッション 2	シナリオ 2
10-12	セッション 3	シナリオ 3
13-15	セッション 4	シナリオ 4
16-18	セッション 5	シナリオ 5
19-21	セッション 6	シナリオ 6

22-24	保健行動の理論・ヘルスプロモーションの役割	保健行動の理論とモデル (Precede-Proceed モデル) 口腔保健政策におけるヘルスプロモーションの役割
25-27	セッション 7	シナリオ 7
28-30	セッション 8	まとめ

評価方法

セッション毎に、チューターによる形成的評価を行う。

期末の客観試験、論述試験で総括的評価を行う。

出席状況、授業態度を総括的評価に加味する。

参考図書等

- ・「オーラルヘルスプロモーション」 岡田昭五郎監修 (財) 口腔保健協会
- ・「ヘルスプロモーション講座」 島内憲夫編著 JUHRC
- ・「健康教育・ヘルスプロモーション」 武藤孝司著 篠原出版

留意事項

事前に資料の配付、E-learning へのアップロード等があった場合は、予習して授業に臨むこと。

必要に応じ、科目責任者(演習)、担当チューターによる面談を行うことがある。

科目名	口腔保健衛生学原論Ⅱ
ユニット名	口腔保健衛生学原論Ⅱ
授業形態	講義
開講時期・単位・時間数	2 学年前期・必修 1 単位・15 時間
科目・ユニット責任者	遠藤圭子
授業担当者	遠藤圭子、吉田直美、近藤圭子
主な授業場所	口腔保健学科 第2講義室

学習目標

国民の QOL（生活・人生の質）向上のために、口腔保健を担う専門的職業人としての活動のあり方を理解する。

到達目標

- ・口腔保健学の概念と概要が説明できる。
- ・口腔保健に関わる者としての倫理、使命感（心構え）を説明できる。
- ・日本における口腔保健に関する問題点を抽出し、その解決策を討論できる。
- ・歯科医療および口腔保健活動における歯科衛生士・社会福祉士の役割、活動内容を説明できる。
- ・歯科衛生士の活動内容の歴史、内容および将来像を述べられる。
- ・歯科医療機関、地域保健、福祉施設などにおける口腔保健活動および関連職種との協力関係を説明できる。
- ・歯科衛生プロセスを概説できる。
- ・インフォームドコンセントの定義と重要性を説明できる。
- ・患者の権利を説明できる。
- ・患者心理の理解と適切な患者対応（接遇）を説明できる。
- ・患者と医療従事者との望ましい関係、信頼関係の重要性を説明できる。

授業計画 2 学年前期・必修 1 単位・15 時間

回	授業題目	授業内容
1, 2	口腔保健学とは	口腔保健に関わる活動の意義と実際
3, 4	口腔保健専門家としての倫理Ⅰ	専門的職業人とは何か、歯科衛生プロセス
5, 6	口腔保健専門家としての倫理Ⅱ	医の倫理・歯科衛生倫理、法的責任と道義的責任、守秘義務、個人情報管理

7, 8	保健医療福祉関連専門職の種類とその役割	歯科衛生士、歯科医師、社会福祉士 等 各活動場面における専門職の業務内容と連携
9, 10	日本の口腔保健事情	口腔保健の問題点、マンパワー 等
11, 12	患者接遇、患者の権利	患者接遇の基本、患者の権利、インフォームドコンセント、セカンドオピニオン
13, 14	患者・医療者間の信頼関係	信頼関係とは、信頼関係の構築のために
15	まとめ	口腔保健に関わる職種と協働

評価方法

課題レポート、期末の試験で総括的評価を行う。

態度、出席状況を総括的評価に加味する。

参考図書等

- ・授業の際、印刷物を配布する。
- ・新歯科衛生士教本「歯科衛生士概論」 全国歯科衛生士教育協議会編 医歯薬出版 2006
- ・「自己決定の行動科学」 日本保健医療行動科学会編集 メヂカルフレンド社 1996
- ・歯科衛生ケアプロセス 下野正基 監著 医歯薬出版 2007
- ・平成 17 年 歯科疾患実態調査報告書 口腔保健協会 2007

留意事項

事前配布資料や e-learning へのアップロード等があった場合は、各自予習して授業に臨むこと。

科目名	臨床歯科医学
ユニット名	保存系歯科医学
授業形態	講義
開講時期・単位・時間数	2 学年後期・必修 2 単位・30 時間
科目・ユニット責任者	木下淳博
授業担当者	木下淳博、中島正俊（むし歯外来）、竹田淳志（歯髄生物学分野）
主な授業場所	口腔保健学科 第2講義室

学習目標

保存系治療の種類と内容を理解し、チーム医療を実践するために必要な知識を修得する。

到達目標

- ・ 窩洞の分類を説明できる。
- ・ 保存修復治療の種類、目的、器具、器材、前準備、術後管理を説明できる。
- ・ 歯髄保存療法の種類、目的、器具、器材、前準備、術後管理を説明できる。
- ・ 歯髄除去療法の種類、目的、器具、器材、前準備、術後管理を説明できる。
- ・ 感染根管治療の種類、目的、器具、器材、前準備、術後管理を説明できる。
- ・ 根管充填法の種類、目的、器具、器材、前準備、術後管理を説明できる。
- ・ 外科的歯内治療の種類、目的、器具、器材、前準備、術後管理を説明できる。
- ・ 歯周基本治療の種類、目的、器具、器材、前準備、術後管理を説明できる。
- ・ 外科的歯周治療の種類、目的、器具、器材、前準備を説明できる。
- ・ 歯周治療におけるメンテナンスの内容、目的、器具、器材、前準備、術後管理を説明できる。

授業計画 2 学年後期・必修 2 単位・30 時間

回	授業題目	授業内容
1, 2	保存修復治療	保存修復治療概説、保存修復治療の種類、目的、窩洞の分類
3, 4	成形充填修復 1	成形充填修復治療の流れ、材料・器具の取り扱い、準備、術後管理
5, 6	成形充填修復 2	成形充填修復治療の流れ、材料・器具の取り扱い、準備、術後管理
7, 8	鑄造修復	鑄造修復治療の流れ、材料・器具の取り扱い、準備、術後管理
9, 10	歯内治療	歯内治療概説、歯髄保存療法の種類、目的、器具、器材、準備、

		術後管理、ラバーダム防湿、隔壁
11, 12	歯髄除去療法	歯髄除去療法の種類、目的、器具、器材、準備、術後管理
13, 14	感染根管治療	感染根管治療の種類、目的、器具、器材、準備、術後管理
15, 16	根管充填法	根管充填法の種類、目的、器具、器材、準備、術後管理、および外科的歯内治療の種類、目的、器具、器材、準備、術後管理
17, 18	歯周治療	歯周治療概説、歯周組織診査の種類、目的、器具、器材、準備、術後管理
19, 20	歯周基本治療	歯周基本治療の種類、目的、器具、器材、準備、術後管理
21, 22	歯周外科治療	歯周外科治療の種類、目的、器具、器材、準備、術後管理
23, 24	メンテナンス、他	歯周治療におけるメンテナンスの内容、目的、器具、器材、準備、術後管理 その他の歯周治療の種類、目的、器具、器材、準備、術後管理
25, 26	ケーススタディ 1	保存系歯科治療における診療の流れと器材の準備
27, 28	ケーススタディ 2	保存系歯科治療における診療の流れと器材の準備
29, 30	ケーススタディ 3	保存系歯科治療における診療の流れと器材の準備

評価方法

随時の小テストで形成的評価を行う。

期末の客観試験、記述試験で総括的評価を行う。

講義、グループ討論、発表の態度等を総括的評価に加味する。

参考図書等

- ・新歯科衛生士教本「歯科診療補助 歯科器械の知識と取り扱い」 全国歯科衛生士教育協議会編 医歯薬出版
- ・新歯科衛生士教本「保存修復学・歯内療法学」 全国歯科衛生士教育協議会編 医歯薬出版
- ・新歯科衛生士教本「歯周治療学」 全国歯科衛生士教育協議会編 医歯薬出版

留意事項

事前に資料の配布、e-learning へのアップロード等があった場合には、各自予習して授業に臨むこと。

科目名	臨床歯科医学
ユニット名	発達育成系・障害者歯科医学
授業形態	講義
開講時期・単位・時間数	2 学年後期・必修・15 時間 単位認定（2 単位）は3 学年前期（15 時間）終了時に行う
科目・ユニット責任者	木下淳博・石川雅章
授業担当者	石川雅章、遠藤圭子、中里みどり（横浜市教育委員会）
主な授業場所	口腔保健学科 第2 講義室

学習目標

小児の心身の成長・発達をふまえ、発達期口腔保健の意義および口腔疾患の特徴、予防・治療法を理解する。

到達目標

- ・出生から青少年期までの心身の成長・発達を説明できる。
- ・小児の情緒と社会性の発達を説明できる。
- ・小児の健康を育む食生活と支援の重要性を説明できる。
- ・歯の萌出と乳歯・幼若永久歯の特徴を説明できる。
- ・顎・顔面頭蓋の成長過程を説明できる。
- ・歯列咬合の発育過程を説明できる。
- ・歯科治療時の小児の行動への対応法を説明できる。
- ・障害児口腔内の特徴と歯科的対応を説明できる。
- ・小児期の口腔保健の重要性とその手段を説明できる。
- ・小児期の口腔疾患とその治療法、チーム医療を説明できる。
- ・青少年期に特有な心身の問題とその解決策を概説できる。

授業計画 2 学年後期・必修・15 時間

回	授業題目	授業内容
1, 2	顎・顔面頭蓋と歯列・咬合の発育	頭蓋の構成要素、発育様式、発育の評価法、日本人小児の平均成長、無歯期、乳歯萌出期、乳歯列期、混合歯列前期、混合歯列後期、永久歯列初期
3, 4	小児の口腔疾患と口腔保健	乳歯う蝕の特徴と罹患型、幼若永久歯う蝕の特徴、小児期咬合の異常、歯周疾患、口腔外傷、軟組織疾

		患、発達期口腔保健の意義
5, 6	歯科治療時の小児行動への対応法、 障害児歯科治療時の対応	小児チーム医療の原則、環境の整備、テンダーラビ ングケア、小児歯科治療三角、代用語の使用、行動 変容法、強制的な行動抑制、鎮静法の応用、全身麻 酔法、障害児口腔内の特徴と歯科的対応
7, 8	診査と小児の歯冠修復、歯内療法	診査資料の見方、ラバーダム防湿法、シーラント、 成形充填、鑄造修復、全部歯冠修復、覆髄法、生活 歯髄切断法、抜髄法、感染根管治療法
9, 10	小児歯科での外科的処置と乳歯・幼 若永久歯への外傷	局所麻酔、抜歯、外来小手術、小児への薬物療法、 外傷歯の診査、硬組織・歯髄損傷への対応、歯周組織 損傷への対応、固定法、乳歯外傷の後継永久歯への 影響
11, 12	咬合誘導	咬合誘導の概念、乳歯早期喪失による歯列咬合への 影響、保隙装置の種類、動的咬合誘導の目標、診断・ 治療計画上のポイント、不正咬合別の治療指針
13, 14	青少年期の問題点と解決策 1	青少年の生活環境と問題、解決策
15	青少年期の問題点と解決策 2	社会における青少年の問題、解決策

評価方法

随時の小テストで形成的評価を行う。

2 学年後期末の客観試験、記述試験で中間的評価を行う。

参考図書等

- ・新歯科衛生士教本「小児歯科学」 全国歯科衛生士教育協議会 医歯薬出版
- ・「小児の口腔科学」 前田隆秀、朝田芳信、田中光郎他 学建書院
- ・「青少年白書」 青少年問題協議会編 2005、2006 年版
- ・「小学校 歯の保健指導の手引き」 東山書房

留意事項

前期口腔疾患予防学の一連の授業のうち、最後の 3 回 6 時間の授業と連続性を有する（到達目標の
最初 4 項目）。

科目名	口腔疾患予防学
ユニット名	口腔疾患予防学
授業の形態	講義
開講時期・単位・時間数	2 学年前期・必修 2 単位・30 時間
科目・ユニット責任者	木下淳博
授業担当者	木下淳博、寺岡加代、石川雅章、近藤圭子、遠藤圭子、 品田佳世子（健康推進歯学分野）、小林賢一（高齢者歯科治療部）、 中島正俊（むし歯外来）
主な授業場所	口腔保健学科 第2 講義室

学習目標

口腔の健康状態を維持するための要因と、予防可能な口腔疾患の種類、その原因と予防法について理解する。

到達目標

- ・口腔疾患の予防原理を説明できる。
- ・歯科予防処置を説明できる。
- ・プラークコントロール（歯につく沈着物の除去）について、その重要性、効果等を説明できる。
- ・歯磨剤・洗口剤を説明できる。
- ・ブラッシングの方法を列挙でき、簡単に説明できる。
- ・歯周病の症状・種類・診査を説明できる。
- ・歯周病の予防を説明できる。
- ・う蝕の実態を説明できる。
- ・歯髄炎および根尖性歯周炎の症状、種類を説明できる。
- ・う蝕の予防を説明できる。
- ・フッ素のう蝕予防効果を説明できる。
- ・歯質損耗（tooth wear）の症状、種類、予防、治療法を説明できる。
- ・口臭の分類、原因、予防、処置を説明できる。
- ・セルフケア、プロフェッショナルケア、コミュニティケアの内容を説明できる。
- ・器質的ケアと機能的ケアを説明できる。
- ・出生から青少年期までの心身の成長・発達を説明できる。
- ・小児の情緒と社会性の発達を説明できる。
- ・小児の健康を育む食生活と支援の重要性を説明できる。
- ・歯の萌出と乳歯・幼若永久歯の特徴を説明できる。

授業計画 2 学年前期・必修 2 単位・30 時間

回	授業題目	授業内容
1, 2	予防可能な口腔疾患概要	辺縁性歯周炎の概要、う蝕の概要
3, 4	口腔疾患予防の原理と概要 口腔ケアの分類	口腔疾患予防の原理と概要、第 1 次予防から第 3 次予防、セルフケア、プロフェッショナルケア、コミュニティケア、器質的ケア、機能的ケア
5, 6	口腔保健の実態	口腔保健の現状と課題
7, 8	歯科予防処置 口腔内の付着物	歯科予防処置の種類、概要 口腔内付着物の種類、性質、成因等
9, 10	プラークコントロール	プラークコントロールの重要性と効果、ブラッシング法等、歯磨剤、洗口剤
11, 12	歯周病の実態	歯周病の症状・種類・診査・検診、実態調査
13, 14	歯周病の予防	口腔保健指導、生活習慣指導、歯石除去、歯面研磨等
15, 16	う蝕の実態	う蝕・歯髄炎・根尖性歯周炎の症状・種類・診査・検診、実態調査、う蝕活動性試験
17, 18	う蝕の予防	砂糖、代用甘味料、歯ブラシ、デンタルフロス等、フッ素のう蝕予防効果、フッ素の応用法、フッ素の毒性等
19, 20	歯質損耗 (tooth wear)	歯質損耗 (tooth wear) の症状・種類・予防・治療法
21, 22	口臭の実態と予防	口臭の分類・原因・予防・処置
23, 24	発達期の口腔疾患予防概論、身体の成長と発達、小児の生理的特徴、	発達期の口腔疾患予防概要、発育の一般的原則と評価、発育に影響を及ぼす因子、小児期の分類、器官の発育、小児の生理的特徴と味覚の発達
25, 26	摂食機能の発達と食育、言語・情緒と社会性の発達	乳児期の反射、哺乳・離乳と摂食機能の発達、食育、日本語の音声、言語の発達、情動の発達、社会性の発達、精神・情緒の発達障害
27, 28	歯の発育と萌出、乳歯・幼若永久歯の特徴	歯の発生と分化、乳歯の萌出、永久歯の萌出、乳歯の形態学的特徴、組織学的特徴、物理化学的特徴、幼若永久歯の特徴
29, 30	まとめ	まとめ

評価方法

随時の小テスト・レポートで形成的評価を行う。

期末の客観試験、記述試験で総括的評価を行う。

講義、グループ討論、発表の態度等を総括的評価に加味する。

参考図書等

- ・「口腔保健のためのフッ化物応用ガイドブック」 日本口腔衛生学会フッ素研究部会編 口腔保健協会
- ・「8020 地域歯科保健活動の現場から」 榊原悠紀田郎監修 ヒョーロンパブリッシャーズ
- ・「歯周病と全身の健康を考える」 ライオン歯科衛生研究所編 医歯薬出版
- ・「口腔ケアによる気道感染予防」 地域保健研究会口腔ケアによる気道感染予防研究委員会編 社会保険研究所
- ・新歯科衛生士教本「歯周治療学」 全国歯科衛生士教育協議会編 医歯薬出版
- ・新歯科衛生士教本「小児歯科学」 全国歯科衛生士教育協議会編 医歯薬出版
- ・「小児の口腔科学」 前田隆秀、朝田芳信、田中光郎 他著 学建書院

留意事項

事前に資料の配付、e-learning へのアップロード等があった場合には、各自予習して授業に臨むこと。

科目名	口腔疾患予防学
ユニット名	顎口腔機能育成学
授業形態	講義
開講時期・単位・時間数	2 学年後期・必修 1 単位・15 時間
科目・ユニット責任者	木下淳博・石川雅章
授業担当者	小池真理子（矯正歯科外来）、遠藤圭子
主な授業場所	口腔保健学科 第2 講義室

学習目標

顎口腔機能の発達過程および不正咬合との関連を理解し、顎口腔機能の育成および個性正常咬合獲得を、口腔保健の立場から支援するための知識を修得する。

到達目標

- ・ 正常な歯列咬合の状態を説明できる。
- ・ 不正咬合の種類とその影響を説明できる。
- ・ 不正咬合の診断に必要な資料・情報を説明できる。
- ・ 不正咬合の診断・治療法を概説できる。
- ・ 歯科矯正器材と装置の種類・取り扱い方を概説できる。
- ・ 歯科矯正治療におけるチーム医療を説明できる。
- ・ 歯科矯正治療中の患児の口腔保健指導が説明できる。
- ・ 歯科矯正治療中の患児への口腔ケアと心理的支援を説明できる。
- ・ 顎口腔機能の育成を概説できる。

授業計画 2 学年後期・必修 1 単位・15 時間

回	授業題目	授業内容
1	歯科矯正学概論	不正咬合の生理的・心理的障害、矯正治療の目的とその必要性、矯正歯科治療の歴史、矯正歯科臨床における歯科衛生士の役割
2, 3	成長・発育と口腔習癖	成長発育曲線、顎・顔面・頭蓋の成長発育、歯列の成長発育（乳歯列、混合歯列、永久歯列、歯年齢）、口腔習癖の種類と頻度、咬合・咀嚼・発音・嚥下への影響、口腔筋機能療法
4, 5	咬合	正常咬合の定義、不正咬合の種類（歯の異常、歯列

		弓形態の異常、上下顎間関係の異常)と分類、不正咬合の原因(遺伝的・環境的、先天的・後天的)、不正咬合の予防
6, 7	矯正診断	診査と情報の収集(相談・問診・写真・口腔模型・パノラマエックス線写真・頭部エックス線規格写真、口腔機能検査等)、症例分析法、治療方針の立て方
8, 9	矯正治療における生体反応と生力学、矯正治療の使用器材	矯正力、歯の移動・組織反応、歯の移動様式、固定、矯正用器具の種類とその取り扱い、矯正材料の種類と取り扱い
10, 11	矯正装置	舌側弧線装置、マルチブラケット装置、床矯正装置、機能的顎矯正装置、側方拡大装置、顎外固定装置、保定装置など、各装置の説明と注意事項
12, 13	不正咬合の治療法	混合歯列期(第Ⅰ期治療)、永久歯列期(第Ⅱ期治療)、成人の矯正歯科治療(外科矯正、補綴前準備、歯周疾患患者、MTM)
14, 15	歯科矯正治療におけるチーム医療	歯科矯正治療の補助、矯正治療中の口腔保健指導、患児への口腔ケアと心理的支援

評価方法

随時の小テスト・レポートで形成的評価、期末の客観試験、記述試験で総括的評価を行う。
講義、グループ討論、発表の態度等を総括的評価に加味する。

参考図書等

- ・新歯科衛生士教本「歯科矯正学」 全国歯科衛生士教育評議会編 医歯薬出版
- ・矯正歯科治療とオーラルハイジーンコントロール 高田健治監修 クインテッセンス出版
- ・歯科矯正学と診療補助 東理十三雄監修 遠藤敏哉著 クインテッセンス出版
- ・歯科矯正学 第4版 葛西一貴他編 医歯薬出版

留意事項

事前に資料の配布、e-learning へのアップロード等があった場合には、各自予習して授業に臨むこと。

科目名	口腔疾患予防学実習
ユニット名	口腔疾患予防学実習
授業形態	実習
開講時期・単位・時間数	2 学年前期・必修・45 時間 2 学年後期・必修・45 時間 3 学年前期・必修・45 時間 単位認定（3 単位）は3 学年前期（45 時間）終了時に行う
科目・ユニット責任者	吉田直美
授業担当者	石川雅章、寺岡加代、木下淳博、遠藤圭子、近藤圭子、吉田直美、堀江明子、佐々木好幸（口腔保健教育研究センター）、田澤千鶴・河野章江・山梨楠奈子・高野由美子（非常勤講師）
主な授業場所	口腔保健学科 第2・第3 実習室

学習目標

歯・口腔の状態把握および歯科予防処置の基本的技術を修得する。

到達目標

- ・う蝕予防と歯周歯科疾患予防の基礎を説明できる。
- ・歯、口腔（歯、歯肉、歯の付着物・沈着物）状態把握を説明し、実施できる。
- ・歯科予防処置実施にあたり、生体への配慮（器具の消毒・滅菌、感染予防、手指の消毒法、偶発事故の予防）ができる。
- ・歯科予防処置のうち、歯石除去、歯面清掃、SRP、う蝕予防処置、フッ化物歯面塗布、フッ化物洗口を実施できる。

授業計画

2 学年前期・必修・45 時間

回	授業題目	授業内容
1-3	実習の進め方、各種インスツメント	実習の進め方・室の使い方、感染対策概略 スケーラー選定
4-6	アセスメント、診査用器具の取り扱い/人間工学	診査・検査（EPP、PCR OHI PMA） 診査器具、エクスプローリング/位置と姿勢
7-9	インスツルメンテーション 1	手用スケーラーの特徴と用途、基本操作①

10-12	インスツルメンテーション 2	マネキンの使い方、基本的操作②
13-15	インスツルメンテーション 3	基本的操作と縁上歯石スケーリング
16-18	インスツルメンテーション 4	縁上歯石スケーリング
19-21	インスツルメンテーション 5	縁上歯石スケーリング
22-24	インスツルメンテーション 6	縁下歯石除去のポイント講義と実習（透明歯肉を用いて）
25-27	インスツルメンテーション 7	縁下歯石スケーリング（透明歯肉を用いて）
28-30	ルートプレーニング 1	ルートプレーニング講義と実習
31-33	ルートプレーニング 2	ルートプレーニング実習
34-36	超音波スケーリング 1	超音波スケーラー実習
37-39	超音波スケーリング 2	〃
40-42	シャープニング	シャープニング
43-45	歯面研磨	歯面研磨

2 学年後期・必修・45 時間

回	授業題目	授業内容
46-49	SRP 復習	マネキン実習 SRP・研磨
50-53	スケーリングテクニック復習	マネキン実習
54-57	口腔内診査 1	相互実習 医療面接と口腔内観察
58-61	口腔内診査 2	相互実習 歯の診査・歯周組織検査
62-65	相互実習 1	手用スケーラーを用いた歯石除去
66-69	相互実習 2	〃
70-72	相互実習 3	〃
73-75	相互実習 4	〃
76-78	相互実習 5	超音波スケーラーを用いた歯石除去
79-81	相互実習 6	〃
82-84	記録の整理と確認	記録の整理と確認
85-87	歯科予防処置・実習について	フッ化物歯面塗布・塗布量計算
88-90	総合実習	総合実習

評価方法

随時の小テストで形成的評価を行う。

実習態度などを評価に加味する

2 学年後期末に 2 学年履修範囲（3 単位相当）の実習試験、客観試験を行う。

参考図書等

- ・新歯科衛生士教本「歯科予防処置」全国歯科衛生士教育協議会編 医歯薬出版
- ・e-learning システム上にアップロード、または授業の際に印刷物を配布する。

留意事項

事前に資料の配布、e-learning へのアップロードなどがあった場合は、各自予習して授業に臨むこと。

科目名	口腔健康統計学・情報処理論
ユニット名	口腔健康統計学・情報処理論
授業形態	講義・演習
開講時期・単位・時間数	2 学年後期・必修 2 単位・30 時間
科目・ユニット責任者	寺岡加代
授業担当者	佐々木好幸（口腔保健教育研究センター）
主な授業場所	口腔保健学科 第2 講義室

学習目標

集団の口腔保健に関する問題を解決するための疫学的方法論を修得し、情報処理の実験を体験する。

到達目標

- ・衛生統計の意義および目標を説明できる。
- ・資料の収集方法について説明できる。
- ・標本の抽出について説明できる。
- ・う蝕の検出と指数を説明できる。
- ・歯周疾患の検出と指数を説明できる。
- ・口腔清掃状態と歯石の指数を説明できる。
- ・検定の意味について概略を説明できる。
- ・基本的なデータ集計、データ分析ができる。
- ・医学論文における基本的な解析結果を説明できる

授業計画 2 学年後期・必修 2 単位・30 時間

回	授業題目	授業内容
1	衛生統計の意義と目標	衛生統計の果たす役割
2	疫学の成果	疫学の定義・成果・要因・タイプ
3	資料の作成および指標と指数	調査票の作成における指標と指数の関係
4	数量化の方法と尺度	数量化の方法と尺度
5	調査の実施と資料の真実性	調査の実施方法、統計資料の真実性の考察
6	マスキング	各種マスキングの方法と実例
7	母集団と標本	母集団に対する標本の一般化の可能性と代表性

8	バイアスと交絡	系統誤差の種類とその対策、交絡
9	標本抽出法	いろいろな標本抽出法
10	標本抽出演習	正規母集団からの標本抽出と集計実習
11	標本抽出のまとめ	抽出標本からの母集団の推定
12	口腔診査の疫学的意義	口腔診査法の変遷とそれぞれの特徴、歯科検診における誤差の考察
13	スクリーニングと診断	スクリーニングの方法と特性の評価法
14	コホート研究	コホート研究の方法と評価法
15	R C T	ランダム化比較試験の方法と評価法
16	症例対照研究	症例対照研究の方法と評価法
17	横断研究	横断研究および地域相関研究の方法と評価法
18	四分表の検定とオッズ比の推定	四分表の使い分けと統計学的推定と検定
19	四分表の検定とオッズ比の推定演習	四分表の使い分けと統計学的推定・検定の演習
20	平均値に関する推定と検定	計量的尺度の代表値の推定と検定
21	平均値に関する検定演習	計量的尺度の代表値の推定と検定の演習
22	う蝕の検出基準と指数	う蝕の各種検出基準・指数とその意義
23	う蝕の指数に関する演習	う蝕の各種指数の集団における評価の演習
24	歯周疾患の検出基準と指数	歯周疾患の各種検出基準・指数とその意義
25	歯周疾患の指数に関する演習	歯周疾患の各種指数の集団における評価の演習
26	口腔清掃状態および歯石の検出基準と指数	口腔清掃状態・歯石の各種検出基準・指数とその意義
27	口腔清掃状態および歯石の指数に関する演習	口腔清掃状態・歯石の各種指数の集団における評価の演習
28	歯のフッ素症・酸蝕症などの検出基準と指数	歯のフッ素症・酸蝕症等の各種検出基準・指数とその意義
29	歯のフッ素症・酸蝕症などの指数に関する演習	歯のフッ素症・酸蝕症等の各種指数の集団における評価の演習
30	資料読解演習	優れた研究デザインの資料の読解と吟味

評価方法

期末の客観試験、記述試験で総括的評価を行う。

参考図書等

・「平成 11 年歯科疾患実態調査報告」 厚生省健康政策局 口腔保健協会

- ・「歯科衛生の動向 2004 年版」 日本口腔衛生学会編 医歯薬出版
- ・「歯科保健関係統計資料」 歯科保健医療研究会編 口腔保健協会
- ・新歯科衛生士教本「口腔衛生学・歯科衛生統計」 全国歯科衛生士教育協議会編 医歯薬出版

科目名	口腔健康教育
ユニット名	口腔健康教育
授業形態	講義
開講時期・単位・時間数	2 学年前期・必修 2 単位・30 時間
科目・ユニット責任者	遠藤圭子
授業担当者	遠藤圭子、近藤圭子
主な授業場所	口腔保健学科 第2講義室・演習室

学習目標

口腔健康教育の考え方と方法を理解し、アセスメントから評価にいたる流れを修得する。

到達目標

- ・口腔健康教育について説明できる。
- ・歯科衛生プロセスに流れが説明できる。
- ・アセスメント・歯科衛生診断・計画・実施・評価ができる。
- ・対象別口腔健康教育のテーマが設定できる。
- ・視聴覚教材の種類と特徴、作成および使用に際しての留意点を説明できる。
- ・提示された課題について健康教育の計画ができる。

授業計画 2 学年前期・必修 2 単位・30 時間

回	授業題目	授業内容
1, 2	健康教育、口腔健康教育とは	健康教育・口腔健康教育の定義と考え方
3, 4	健康とは	健康のとらえ方、健康指標
5, 6	健康教育のための計画づくり	アセスメント、ニーズの把握、アタック項目の抽出、健康教育プログラムの計画
7, 8	健康教育の実践	健康教育実践上の必須事項
9, 10	健康教育の評価	評価とは何か、プログラム評価の種類 等
11, 12	評価の具体的な事例	保健行政における健康教育評価
13, 14	社会的アプローチ	健康権、ソーシャルマーケティング 等
15, 16	健康教育の展開－家庭	家庭における健康教育
17, 18	〃 ー学校	学校における健康教育

19, 20	〃	－職域	職域における健康教育
21, 22	〃	－地域	地域における健康教育
23, 24	課題別健康教育－ライフスキル		ライフスタイル支援のあり方
25, 26	〃	－運動、歯科	運動指針、筋力トレーニング、禁煙支援 等
27-29	〃	－栄養、休養	食育、余暇時間
30	まとめ		まとめ

評価方法

課題レポート、期末の試験で総括的評価を行う。

受講態度、出席状況等を総括的評価に加味する。

参考図書等

- ・「健康教育　ヘルスプロモーションの展開」日本健康教育学会編　保健同人社　2003
- ・新歯科衛生士教本「歯科保健指導」全国歯科衛生士教育協議会編　医歯薬出版　2004
- ・「平成 17 年歯科疾患実態調査報告書」　口腔保健協会　2007
- ・授業の際、印刷物を配布する。

留意事項

事前配布資料や e-learning へのアップロード等があった場合は、各自予習して授業に臨むこと。

科目名	口腔健康教育実習
ユニット名	口腔健康教育実習
授業形態	実習
開講時期・単位・時間数	2 学年前期・必修・45 時間 2 学年後期・必修・45 時間
科目・ユニット責任者	遠藤圭子
講義担当者	木下淳博、近藤圭子、遠藤圭子、吉田直美
主な授業場所	口腔保健学科 第2講義室

学習目標

口腔健康教育に必要な知識・技術を修得し、実践力を培う。

到達目標

- ・生活と口腔保健行動の関連を説明できる。
- ・個人の口腔保健と生活習慣に関するアセスメントができる。
- ・アセスメント内容を活用して、歯科衛生診断、計画立案ができる。
- ・口腔清掃用具・化学的清掃用品を選択でき、使用法を説明できる。
- ・口腔清掃の術式・種類と用途を説明でき、口腔清掃指導を実施できる。
- ・対象者の口腔清掃状態の問題点を抽出して説明できる。
- ・対象者の口腔健康教育を実施・評価できる。
- ・口腔清掃の指導（ブラッシング技法の指導、歯間部清掃用具、歯磨剤・洗口剤、電動歯ブラシ、口腔洗浄器等の使い方の指導、矯正装置装着者・補綴物装着者への口腔清掃指導）ができる。

授業計画

2 学年前期・必修・45 時間

回	授業題目	授業内容
1-3	口腔健康教育の意義	口腔健康教育とは、生活と口腔保健
4-6	歯科衛生プロセス	アセスメント、歯科衛生診断、計画立案、実践、評価、記録
7-9	口腔環境	口腔内の観察、サリバテスト、PCR 等の実際
10-12	口腔環境	検査結果の分析

	学生生活と健康行動	学生の生活実態、健康行動
13-15	歯科衛生診断	歯科衛生診断の意義、アタックポイントの検討
16-18	計画立案 実践	結果を活用した計画立案 実践に必要な基礎的情報
19, 20	歯口清掃用具	歯ブラシ、デンタルフロス、歯間ブラシの種類と使用法
21, 22	歯磨剤、洗口剤	歯磨剤・洗口剤とは、成分と効能、使用法
23, 24	ブラッシング法	ブラッシング法の種類、利点と欠点 口腔内の状態によるブラッシング法の選択
25, 26	様々な口腔清掃用具	舌ブラシ、粘膜ブラシ、電動歯ブラシ
27, 28	口腔清掃関連器材	口腔洗浄器、歯垢染め出し剤
29, 30	対象別健康教育 1	乳幼児期の健康課題
31, 32	対象別健康教育 2	青少年の健康課題
33, 34	対象別健康教育 3	成人期の健康課題
35, 36	対象別健康教育 4	高齢者の健康課題
37, 38	対象別健康教育 5	要介護者の口腔ケアの実際、使用物品と終了時の処理
39-41	対象別健康教育 6	障害児・者の健康課題
42, 43	対象別健康教育 7	小学生対象の健康教育の意義とニーズ
44, 45	対象別健康教育 8	学童対象の健康教育計画（メンバー構成・事前調査実施に関する検討）

2 学年後期・必修・45 時間

回	授業題目	授業内容
46-48	小学生対象の健康教育 3	アセスメント（情報の集計、分析）
49-51	小学生対象の健康教育 4	学童対象の健康教育計画、P-P model の活用
52-54	視聴覚教材	視聴覚教材とは、種類、長所・欠点、応用法
55-57	口腔内写真撮影 1 写真撮影の基礎	デジタルカメラの取り扱い、撮影、パソコンへの取り込み・整理、管理法
58-61	小学生対象の健康教育 5	歯科衛生診断、計画立案、健康教育目標の設定媒体、シナリオ（絵コンテ）作成
62-64	口腔内写真撮影 2	口角鉤、写真用ミラーの使用上の注意

	相互実習	相互実習時の配慮点 写真撮影、写真の整理・管理
65-67	小学生対象の健康教育 6	リハーサル、評価 健康教育評価法の選択
68-70	口腔内写真撮影 3 相互実習	写真撮影、写真の整理・管理 報告書の作成
71-74	小学生対象の健康教育 7	集団対象時の留意点（服装、話し方、発声、視線の向け方、媒体の使用法 等）
75-77	小学校健康教育実習 8	実習、事後評価
78-81	臨床の場における健康教育 症例検討	患者に関する情報の収集、健康教育法 模型、実物の活用の仕方
82-84	小学生対象の健康教育 9	学校、保護者への結果報告書の作成
85-87	症例検討報告	報告書の作成、発表、討議
88-90	まとめ	健康教育の意義、健康教育の場 等

評価方法

- ・授業態度、グループワークでの役割行動、出席、提出物、期末試験によって、総括的評価を行う。

参考図書

- ・「平成 17 年歯科疾患実態調査報告」 厚生労働省医政局歯科保健課編 口腔保健協会
- ・新歯科衛生士教本「保健指導」 全国歯科衛生士教育協議会編 医歯薬出版
- ・「新歯ブラシ事典」 松田裕子、近藤いさを 学建書院
- ・「ブラークコントロールのためのホームケア指導」 荒川浩久編集 クインテッセンス出版
- ・「歯と口の健康百科」 伊藤公一他編 医歯薬出版

留意事項

事前に資料の配付、e-learning へのアップロード等があった倍医は、各自予習して授業に臨むこと。
授業進度や学外実習先の状況によって、関連の授業項目の順序が入れ替わることがある。

科目名	食生活教育
ユニット名	食生活論
授業形態	講義
開講時期・単位・時間数	2 学年前期・必修 1 単位・15 時間
科目・ユニット責任者	小野寺光江
授業担当者	小野寺光江、森田育男（分子細胞機能学分野）、佐藤孝浩（生体機能性分子探索学講座）
主な授業場所	口腔保健学科 第2講義室

学習目標

日本人の食生活の現状を把握し、栄養成分の消化・吸収・代謝と健康の維持・増進、生活活動のために必要な栄養素を理解する。

到達目標

- ・栄養素の種類と機能を説明できる（1年）
- ・栄養素の体内での消化・吸収・代謝を説明できる。（1年）
- ・国民健康・栄養調査を説明できる。
- ・日本人の食事摂取基準を説明できる。
- ・ライフステージに適した食生活を説明できる。
- ・保健機能食品を説明できる。

授業計画 2 学年前期・必修 1 単位・15 時間

回	授業題目	授業内容
1, 2	日本人の食生活	国民健康・栄養調査と日本人の食事摂取基準ほか
3, 4	ライフステージと食生活Ⅰ	成長・発達・加齢による食に関する機能の変化と食生活 母性の栄養と食生活
5, 6	ライフステージと食生活Ⅱ	乳児期の栄養と食生活 幼児期の栄養と食生活
7, 8	ライフステージと食生活Ⅲ	学童期の栄養と食生活 青少年期の栄養と食生活
9, 10	ライフステージと食生活Ⅳ	成人期の栄養と食生活 高齢期の栄養と食生活

11, 12	保健機能食品Ⅰ	食品安全学、保健機能食品の概論
13, 14	保健機能食品Ⅱ	保健機能食品特論
15	まとめ	まとめ

評価方法

期末の客観試験、記述試験で総括的評価を行う。

講義態度等を総括的評価に加味する。

参考図書等

- ・副読本：「食品成分表 2008」 香川芳子監修 女子栄養大学出版部
- ・新歯科衛生士教本「栄養指導・生化学」全国歯科衛生士教育協議会編 医歯薬出版
- ・応用栄養学「ライフステージからみた人間栄養学」 医歯薬出版株式会社

留意事項

事前に資料の配付、e-learning へのアップロード等があった場合は、各自予習して授業に臨むこと。

科目名	食生活教育
ユニット名	栄養指導
授業形態	講義
開講時期・単位・時間数	2 学年前期・必修 1 単位・15 時間
科目・ユニット責任者	小野寺光江・寺岡加代
授業担当者	寺岡加代、小野寺光江
主な授業場所	口腔保健学科 第2 講義室

学習目標

栄養学の知識を基に食生活について理解し、栄養指導に必要な知識と技能を修得する。

到達目標

- ・ 栄養指導の意義が説明できる。
- ・ 個人の栄養・食生活の分析ができる。
- ・ 食生活と口腔保健の関連が説明できる。
- ・ 疾病と栄養指導との関連が説明できる。
- ・ 食品の形態と食べやすさの関係について説明できる。
- ・ 口腔保健の立場から個人にあった栄養指導ができる。

授業計画 2 学年前期・必修 1 単位・15 時間

回	授業題目	授業内容
1	栄養指導の基礎知識Ⅰ	栄養指導の意義（食育、有病者の栄養管理を含む）
2	栄養指導の基礎知識Ⅱ	栄養・食事バランスの分析 1
3	栄養指導の基礎知識Ⅲ	栄養・食事バランスの分析 2
4	栄養指導の基礎知識Ⅳ	食生活と口腔保健の関連 1 咀嚼の全身への影響
5	栄養指導の基礎知識Ⅴ	食生活と口腔保健の関連 2 食生活と口腔機能
6	栄養指導の基礎知識Ⅵ	食生活と口腔保健の関連 3 食品のう蝕誘発能
7	栄養指導の基礎知識Ⅶ	疾病と栄養指導 1
8	栄養指導の基礎知識Ⅷ	疾病と栄養指導 2
9	栄養指導の基礎知識Ⅸ	食品の形態と食べやすさの関係
10	栄養指導演習	栄養指導実例 1

11	栄養指導演習	栄養指導実例 2
12	栄養指導演習	栄養指導実例 3
13	栄養指導演習	栄養指導実例 4
14, 15	まとめ	まとめ

評価方法

期末の客観試験、記述試験で総括的評価を行う。

講義、グループ討論、発表の態度等を総括的評価に加味する。

参考図書等

- ・副読本：食品成分表 2008 香川芳子監修 女子栄養大学出版部
- ・新歯科衛生士教本「栄養指導・生化学」 全国歯科衛生士教育協議会編 医歯薬出版
- ・「歯科栄養」 小鹿眞理、加藤靖正著 学建書院
- ・「保健・医療・福祉のための栄養学」 渡邊早苗他編 医歯薬出版

留意事項

事前に資料の配布、e-learning へのアップロード等があった場合は、各自予習して授業に臨むこと。

科目名	医学一般
ユニット名	医学一般
授業形態	講義
開講時期・単位・時間数	2 学年後期・必修・30 時間 単位認定（4 単位）は3 学年前期（30 時間）終了時に行う
科目・ユニット責任者	吉増秀實
授業担当者	下門顕太郎（老年病内科学分野）、磯部光章（循環器内科学分野）、坂本直哉（消化器病態学分野）、玉岡明洋（呼吸器内科学分野）、蘇原映誠（腎臓内科学分野）、上坂 等（膠原病・リウマチ内科学分野）、大野喜久郎（脳神経機能外科学分野）、西蔭徹郎（血管・応用外科学分野）、田中真二（肝胆膵外科学分野）石黒めぐみ、佐藤孝宣（腫瘍外科学分野）、原田竜也・谷口義実（生殖機能協関学分野）、西川 徹・車地暁生（精神行動医科学分野）、医学部教員
主な授業場所	口腔保健学科 第2 講義室

学習目標

口腔保健活動を行うために必要な臨床医学の各分野の知識を身につける。

到達目標

- ・ 主な感染症を説明できる。
- ・ 主な循環器疾患を説明できる。
- ・ 主な呼吸器疾患を説明できる。
- ・ 主な消化器疾患を説明できる。
- ・ 主な精神疾患を説明できる。
- ・ 主な骨関節・結合組織疾患を説明できる。
- ・ 主な精神疾患を説明できる。
- ・ 臓器移植を概説できる。
- ・ 主な先天性疾患を説明できる。（3 年）
- ・ 主な小児科疾患を説明できる。（3 年）
- ・ 主な皮膚疾患を説明できる。（3 年）
- ・ 主な耳鼻咽喉科疾患を説明できる。（3 年）
- ・ 主な眼科疾患を説明できる。（3 年）
- ・ 主な泌尿器科疾患を説明できる。（3 年）
- ・ 老化に伴う主な疾患を説明できる。（3 年）

- ・再生医療を概説できる。(3年)
- ・救急医療について概説できる。(3年)
- ・機能障害およびリハビリテーション医療を説明できる。(3年)
- ・高気圧医療・労働医療を概説できる。(3年)
- ・機能障害およびリハビリテーション医療を説明できる。(3年)
- ・主な臨床検査の種類・方法・結果を説明できる。(3年)

授業計画 2 学年後期・必修・30 時間

回	授業題目	授業内容
1-12	内科	総論、循環器疾患、呼吸器疾患、消化器疾患、代謝性疾患、内分泌疾患、腎臓疾患、膠原病・リウマチ等
13, 14	脳神経外科	脳血管障害、脳腫瘍等
15-18	外科	食道・胃外科、大腸・肛門外科、肝胆膵外科、乳腺外科等
19-22	整形外科	神経系疾患、関節系疾患等
23-26	産婦人科	妊娠、出産 不妊治療 高齢出産、更年期障害 閉経後の病気、子宮筋腫、子宮内膜炎、子宮がん、卵巣がん等
27-30	精神科	うつ病、心身症 ストレスとこころの病 不眠症、自閉症、ひきこもり、潔癖症、拒食症、アルツハイマー症、パーキンソン病、老年期の痴呆等

評価方法

随時小テストを行い、形成的評価を行う。期末に客観試験、記述試験を行い、総括的評価を行う。

講義、グループ討論、発表の態度等を総括的評価に加味する。

2 学年後期末に 2 学年履修範囲（2 単位相当）の中間試験を行う。

参考図書等

- ・新版社会福祉士要請講座 13「医学一般」 第2版 社会福祉士養成講座編集委員会 中央法規
- ・社会福祉士養成テキストブック 16「医学一般」 黒田研二、竹内孝仁編著 ミネルヴァ書房

留意事項

事前に資料の配布、e-learning へのアップロード等があった場合は、各自予習して授業に臨むこと。

科目名	口腔と全身の健康評価
ユニット名	生活習慣と疾患
授業形態	講義
開講時期・単位・時間数	2 学年前期・必修 1 単位・15 時間
科目・ユニット責任者	吉増秀實、吉田直美（PBL テュートリアル）
授業担当者	口腔保健学科教員
主な授業場所	口腔保健学科 第 1～第 4 演習室

学習目標

生活習慣病を理解し、口腔保健衛生活動が生活習慣病予防に果たす役割について理解する。

到達目標

- ・生活習慣病について説明ができる。
- ・生活習慣病を引き起こす生活習慣について説明することができる。
- ・生活習慣病を引き起こす要因（生活習慣要因以外）について説明することができる。
- ・生活習慣病と死亡原因について説明することができる。
- ・生活習慣病とヘルスプロモーションとの関係について説明することができる。
- ・生活習慣病の種類と症状およびそれぞれの疾患についての主な薬剤の作用・副作用について説明できる。
- ・生活習慣病の予防法について説明できる。
- ・生活習慣病と歯周病との関係について説明できる。
- ・さまざまな生活習慣病をもつひとへの口腔保健指導の留意点を説明できる。

授業計画 2 学年前期・必修 1 単位・15 時間

回	授業題目	授業内容
1-3	セッション 1	シナリオ 1
4-6	セッション 2	シナリオ 2
7-9	セッション 3	シナリオ 3
10-12	セッション 4	シナリオ 4
13-15	セッション 5	シナリオ 4 の発表・全体の総括

評価方法

セッション毎に、チューターによる形成的評価を行う。

期末の客観試験、論述試験で総括的評価を行う。

出席状況、授業態度を総括的評価に加味する。

留意事項

事前に資料の配付、e-learning へのアップロード等があった場合は、予習して授業に臨むこと。

必要に応じ、ユニット責任者、担当チューターによる面談を行うことがある。

科目名	口腔と全身の健康評価
ユニット名	口腔と全身の健康評価・臨床検査
授業形態	講義
開講時期・単位・時間数	2 学年後期・必修 2 単位・30 時間
科目・ユニット責任者	吉増秀實
授業担当者	吉増秀實・木下淳博・吉田直美・吉野教夫（口腔放射線医学分野）、品田佳世子（健康推進歯学分野）、岡田憲彦（中央検査部）、小林裕（非常勤講師）
主な授業場所	口腔保健学科 第2 講義室・第3 実習室

学習目標

口腔保健の実践に必要な口腔健康診断についての理論と実際を理解し、個々の対象者に応用できる問題解決能力を身につける。

到達目標

- ・ 診断のための医療面接を説明できる。
- ・ 面接および検査の結果を、業務記録に記載できる。
- ・ バイタルサインの意義を説明できる。
- ・ 口腔および頭頸部の臨床評価について説明し、実施できる。
- ・ 口腔疾患と全身疾患の関係を説明できる。
- ・ 口腔領域のエックス線写真を読影できる。
- ・ 口腔内の検査を実施し、その結果を評価できる。
- ・ 主な臨床検査について説明できる。
- ・ 提示された事例についての口腔健康診断を行い、口腔保健活動計画を立案できる。

授業計画 2 学年後期・必修 2 単位・30 時間

回	授業題目	授業内容
1	口腔保健プロセスの概念	口腔保健プロセスの構成要素、口腔健康診断プロセスとは
2, 3	医療面接	診断のための医療面接、面接にあたり注意すべき点、問診の方法
4	バイタルサイン	全身状態の把握のためのバイタルサインのとり方

5	口腔外アセスメント 1	頭頸部の健康状態の把握、顔面および頸部リンパ節の診査法（視診、触診）
6-9	口腔内アセスメント 2	口腔内の健康状態の把握、口腔粘膜、唾液腺、顎骨等の診査、歯および歯周組織の診査、口腔衛生状態の評価
10-12	口腔疾患と全身疾患の関連	口腔領域に症状が現れる全身疾患・全身に影響を及ぼす口腔疾患
13, 14	口腔保健プロセスの各ステージと相互関連	アセスメント、問題の明確化、計画立案（目標設定と方略）、実施・評価
15	業務記録	業務記録とは、業務記録の記載内容、記載法
16-18	画像診断	歯と歯周組織の X 線診断、デンタル X 線写真、パノラマ X 線写真等の読影法（正常像、異常像）等
19-21	口臭検査・唾液検査	口臭検査、唾液検査の講義・実習
22-24	臨床検査 1	臨床検査概論、血液検査
25-27	臨床検査 2	肝機能検査、腎機能検査、感染症検査
28-30	臨床検査 3	病理検査、口腔領域の検査

評価方法

随時小テストを行い、形成的評価を行う。期末に客観試験、記述試験を行い、総括的評価を行う。
講義、グループ討論、発表の態度等を総括的評価に加味する。

参考図書等

- ・「Dental Hygiene Process: Diagnosis and care planning」 Mueller-Joseph L, Petersen M., Delmar Publishers
- ・「Clinical Practice of the Dental Hygienist 」Wilkins, Esther M., Lippincott Williams & Wilkins
- ・「内科診断学」 福井次矢、奈良信雄編 医学書院
- ・「診察の技法と考え方」 寺本民生、秋葉隆編著 中外医学社
- ・「口腔診断学」 下里常弘監修 稔、長坂信夫、船越正也著 デンタルダイヤモンド社
- ・「口腔病変と患者の診かた」 富田喜内、河村正昭、福田博著 医歯薬出版
- ・「最新口腔外科学」 第 4 版（総論） 塩田重利、富田喜内監修 医歯薬出版
- ・新歯科衛生士教本「口腔衛生学・歯科衛生統計」 全国歯科衛生士教育協議会編 医歯薬出版
- ・新歯科衛生士教本「歯科診療補助 歯科器械の知識と取扱い」 全国歯科衛生士教育協議会編 医歯薬出版

留意事項

事前に資料の配布、e-learning へのアップロード等があった場合は、各自予習して授業に臨むこと。

科目名	臨床口腔保健衛生基礎学
ユニット名	臨床口腔保健衛生基礎学
授業形態	講義
開講時期・単位・時間数	2 学年前期・必修 1 単位・15 時間
科目・ユニット責任者	近藤圭子
授業担当者	高木裕三（小児歯科学分野）、石川雅章、下山和弘、寺岡加代、木下淳博、吉増秀實、遠藤圭子
主な授業場所	口腔保健学科 第2 講義室

学習目標

口腔保健・歯科医療の変遷と現状、歯科医療従事者の種類と役割、歯科診療の概要を理解する。

到達目標

- ・口腔保健・歯科医療の変遷と現状を概説できる。
- ・歯科患者の特徴、心理状態を説明できる。
- ・歯科診療従事者の種類をあげ、それぞれの役割が説明できる。
- ・歯科診療の流れと概要を説明できる。

授業計画 2 学年前期・必修 1 単位・15 時間

回	授業題目	授業内容
1, 2	口腔保健、歯科医療	口腔保健、歯科医療の変遷と現状、予測
3, 4	育成系歯科診療の概要	う蝕・歯周疾患の予防と抑制、不正咬合とその治療
5, 6	再建系歯科診療の概要	冠橋義歯、部分床義歯、全部床義歯
7, 8	歯科保健・医療制度の概要	歯科保健・医療サービスの提供システム
9, 10	保存系歯科診療の概要	保存修復、歯内治療、歯周治療
11, 12	外科系歯科診療の概要	抜歯、外傷、炎症性疾患、嚢胞性疾患、腫瘍性疾患
13, 14	歯科診療従事者と歯科受診患者	歯科医師、歯科衛生士、歯科技工士、患者の心理と対応、小児、高齢者、障害者の特殊性
15	まとめ	

評価方法

必要に応じてレポートの提出を課すとともに、期末に客観試験、記述試験を行い、総括的評価を行

う。

参考図書等

- ・新歯科衛生士教本「歯科臨床概論」 全国歯科衛生士教育協議会編 医歯薬出版

留意事項

事前に資料の配布、e-learning へのアップロード等のあった場合には、各自予習して授業に臨むこと。

科目名	臨床口腔保健衛生基礎学
ユニット名	歯科放射線学
授業形態	講義
開講時期・単位・時間数	2 学年後期・必修 1 単位・15 時間
科目・ユニット責任者	近藤圭子
授業担当者	渡邊裕（口腔放射線医学分野）
主な授業場所	口腔保健学科 第2講義室

学習目標

歯科診療の診断に必要な放射線に関して、チーム医療に必要な知識、基本的手技を習得する。

到達目標

- ・放射線物理の基本的な内容を説明できる。
- ・歯科放射線の撮影方法について説明できる。
- ・放射線撮影にあたり、撮影の意味とその被曝の程度や適切な防護について説明できる。
- ・放射線治療の概要について説明できる。
- ・CTやMRIなどの画像診断法について概説できる。

授業計画 2 学年後期・必修 1 単位・15 時間

回	授業題目	授業内容
1	放射線物理	放射線と放射能
2	放射線物理	X線の性質と物質透過性
3	X線撮影法 1	X線撮影装置の基本構造と各種歯科用装置
4	X線撮影法 2	フィルムの現像と管理
5	X線撮影の補助 1	口内法（二等分法、平行法、交合法）
6	X線撮影の補助 1	口内法（二等分法、平行法、交合法）
7	X線撮影の補助 2	口外法（パノラマ、顎関節、頭部 X線規格撮影）
8	X線撮影の補助 2	口外法（パノラマ、顎関節、頭部 X線規格撮影）
9	放射線治療-腫瘍学と生物学	放射線による口腔癌の治療、治療中の口腔管理
10	放射線治療-腫瘍学と生物学	放射線による口腔癌の治療、治療中の口腔管理
11	放射線の管理と防護	放射線被曝、被曝線量の測定、放射線防護用具

12	放射線の管理と防護	放射線被曝、被曝線量の測定、放射線防護用具
13	画像診断	CT、MRI、PET/CT、RI 検査
14	画像診断	CT、MRI、PET/CT、RI 検査
15	国試対策	国試における放射線の問題

評価方法

必要に応じてレポートの提出を課すとともに、期末の客観試験、記述試験で総括的評価を行う。出席状況、授業態度を総括的評価に加味する。

参考図書等

- ・新歯科衛生士教本「歯科放射線学」 全国歯科衛生士教育協議会編 医歯薬出版
- ・「歯科放射線学」 古本啓一、山本昭、岡野友宏著 医歯薬出版
- ・「放射線の ABC」 真室哲雄編 丸善
- ・「新・放射線の人体への影響」 日本保健物理協会・日本アイソトープ協会編 丸善

留意事項

事前に資料の配布、e-learning へのアップロード等があった場合には、予習して授業に臨むこと。

科目名	臨床口腔保健衛生基礎学
ユニット名	歯科生体材料学
授業形態	講義
開講時期・単位・時間数	2 学年前期・必修 1 単位・15 時間
科目・ユニット責任者	近藤圭子
授業担当者	高橋英和（先端材料評価学分野）
主な授業場所	口腔保健学科 第2講義室

学習目標

顎口腔歯科領域の治療に使用される歯科生体材料の種類と使用法について理解する。

到達目標

- ・ 歯科生体材料の一般的性質を説明できる。
- ・ 石膏の種類と使用方法を説明できる。
- ・ 印象材の種類と使用方法について説明できる。
- ・ セメント（合着用セメント、成形修復用セメント）の種類と使用方法について説明できる。
- ・ アクリルレジンとコンポジットレジンおよびの種類と使用方法について説明できる。
- ・ 歯科補綴治療（インプラントを含む）に使用する材料の種類と使用方法を概説できる。
- ・ 歯科生体材料の安全性について説明できる。

授業計画 2 学年前期・必修 1 単位・15 時間

回	授業題目	授業内容
1	歯科生体材料の特徴，歯科生体材料の生体適合性	歯科生体材料の特徴とその素材、歯科材料の所要性質、生体適合性の重要性、生体適合性の評価方法
2	歯科生体材料の物理的性質と化学的性質	歯科生体材料の物理的性質、機械的性質、応力-ひずみ線図、硬さ
3	成形修復材 1	歯科用アマルガムの性質と取り扱い方法、グラスイオノマーセメントの性質と取り扱い方法
4	成形修復材 2	コンポジットレジンの性質と取り扱い方法、接着機序
5	印象材 1	印象材の所要性質、アルジネート印象材、寒天印象材
6	印象材 2	ゴム質印象材、非弾性印象材、機能印象材
7	模型材 1	模型材の所要性質、石膏の種類と性質操作法

8	模型材 2	石膏の取り扱い方法
9	義歯床用材料	義歯床用レジンの特徴、レジンの重合、裏装材、義歯安定剤
10	合着材 1	合着材の所要性質と種類、リン酸亜鉛セメントの特徴と練和法
11	合着材 2	ポリカルボキシレートセメントの特徴と練和法、ガラスアイオノマーセメントの特徴と練和法、接着性レジンセメントの特徴と練和法
12	鑄 造	歯科精密鑄造の概要とその特徴、鑄造用合金の種類と特徴
13	歯内治療用材料、予防歯科材料	歯内療法に用いる小器具の特徴、仮封材の特徴、予防填塞材の種類と特徴、歯ブラシの構造
14	矯正・口腔外科用材料と感染予防	矯正用ワイヤの特徴、顎義歯に用いる材料、エピーテーゼに用いる材料
15	インプラント材料とその他の材料	インプラント材料の性質、歯科再生材料の性質、歯の物性

評価方法

期末の筆記試験で総括的評価を行う。

必要に応じて小テストによる形成的評価を行う。

出席状況、平常学習態度等を総括的評価に加味する。

参考図書等

- ・「コア歯科理工学」小倉英夫ほか編 医歯薬出版 2008 年
- ・「臨床歯科理工学」宮崎隆ほか編 医歯薬出版 2006 年

科目名	臨床口腔保健衛生基礎学
ユニット名	臨床口腔保健衛生基礎実習
授業形態	実習
開講時期・単位・時間数	2 学年前期・必修・9 時間 2 学年後期・必修・36 時間 単位認定（2 単位）は3 年前期（45 時間）終了時に行う
科目・ユニット責任者	近藤圭子
授業担当者	下山和弘、寺岡加代、吉増秀實、石川雅章、遠藤圭子、近藤圭子、吉田直美、小野寺光江、堀江明子、田澤千鶴（非常勤歯科衛生士）、片山毅（非常勤講師）、清水裕之（非常勤講師）、小池真理子（咬合機能矯正学分野）
主な授業場所	口腔保健学科 第2・3 実習室

学習目標

歯科臨床の場でチーム医療の実践に必要な知識・技術を理解し、基礎的な技術を身につける。

到達目標

- ・患者が安全に受診できるように、診療環境を整えることができる。
- ・患者と円滑にコミュニケーションをとれる。
- ・チーム医療に必要な技能を実践できる。
- ・直接対面行為の技能を実践できる。
- ・診療に必要な検査を行い結果の意味が判断できる。
- ・バイタルサイン（意識レベルも含む）の測定ができる。
- ・救急蘇生について説明でき、実施できる。
- ・患者が安全に受診できるように、診療環境を整えることができる
- ・診療に必要な器械・材料・薬品の適切な準備と取り扱い（滅菌消毒も含む）ができる。

授業計画

2 学年前期・必修・9 時間

回	授業題目	授業内容
1-3	歯科診療におけるチームワークについて	歯科診療のチームワークの概要
4-6	共同動作 1	共同動作の基礎、（位置・姿勢等）

7-9	共同動作 2	共同動作の応用（診療補助に関わるテクニック）
-----	--------	------------------------

2 学年後期・必修・36 時間

回	授業題目	授業内容
10-12	歯科診療における器械・材料	基本的な器械・材料の取り扱い、衛生材料の種類と作り方
13-15	滅菌・消毒の実際	器材別の取り扱いと実践について
16-18	共同動作 3	共同動作の応用（診療補助に関わるテクニック）
19-21	小児歯科関連実習 1	ラバーダム防湿法、予防填塞 1
22-24	小児歯科関連実習 2	ラバーダム防湿法、予防填塞 2
25-27	研究用模型の作製 1	全顎の印象採得実習
28-30	研究用模型の作製 2	全顎の印象採得実習
31-33	研究用模型の作製 3	平行模型の作製
34-36	研究用模型の作製 4	平行模型の作製
37-39	矯正歯科関連実習 1	矯正歯科における診査、検査、診断
40-42	矯正歯科関連実習 2	矯正歯科における器材の取扱い（結紮、他）
43-45	バイタルサイン	歯科診療に必要な計測、検査

評価方法

期末の筆記試験、実技試験および提出レポートまたは課題により評価する。

授業態度・意欲および授業参加度により評価する。

2 学年後期末に 2 学年履修範囲（1 単位相当）の中間試験を行う。

参考図書等

- ・新歯科衛生士教本「歯科診療補助 歯科材料の知識と取り扱い」 全国歯科衛生士教育協議会編 医歯薬出版
- ・新歯科衛生士教本「歯科診療補助 歯科器械の知識と取り扱い」 全国歯科衛生士教育協議会編 医歯薬出版
- ・臨床科目関連の新歯科衛生士教本 全国歯科衛生士教育協議会編 医歯薬出版
- ・最新「歯科医療における院内感染対策 CDC ガイドライン」 歯科における院内感染対策ガイドライン検討委員会 永末書店

留意事項

2 年後期末に行う中間試験は進級判定の対象となる。

科目名	口腔保健衛生基礎科学実習
ユニット名	口腔保健衛生基礎科学実習
授業形態	実習
開講時期・単位・時間数	2 学年前期・必修・33 時間 } 1 単位 2 学年後期・必修・12 時間 }
科目・ユニット責任者	杉本久美子
授業担当者	杉本久美子、坂本裕次郎、小野寺光江、高橋英和（先端材料評価学分野）、青木和宏・田村幸彦（硬組織薬理学分野）
主な授業場所	口腔保健学科 第1実習室・第4実習室、歯学科実習室

学習目標

解剖・生理学、病理学、薬理学・薬剤学、生体材料学などの講義で学習した内容について、実習を通して理解を深める。

到達目標

- ・人体を構成する主要な骨、筋、神経、脈管および臓器の基本構造を観察し、説明できる。
- ・頭頸部の骨、筋、神経、脈管および臓器の構造を観察し、説明できる。
- ・人体を構成する主要な器官の病的状態を観察し、常態との違いを説明できる。
- ・歯の脱灰過程を観察し、酸とう蝕の関係を説明できる。
- ・咀嚼筋筋電図および誘発筋電図を記録し、筋収縮のしくみについて説明できる。
- ・味覚および体性感覚の感覚検査を行い、感覚のしくみについて説明できる。
- ・心筋の収縮を観察し、心臓の働きについて説明できる。
- ・歯科で用いられる生体材料の基本的な操作法を説明できる。
- ・歯科で用いられる代表的な薬物の作用を観察し、薬物の特性を説明できる。
- ・蛍光色素等の硬組織内への沈着を観察し、硬組織の成長・発育過程を説明できる。

授業計画

2 学年前期・必修・33 時間

回	授業題目	授業内容
1-4	解剖実習 1	頭頸部の骨、筋、神経、脈管の観察
5-7	解剖実習 2	臓器の構造観察
8-11	病理・組織実習	病理組織観察、歯の脱灰過程の観察

12-15	歯科材料実習 1	石膏の硬化反応
16-19	歯科材料実習 2	印象採得と模型の精度
20-23	歯科材料実習 3	歯科用セメント、常温重合型レジンとコンポジットレジンの硬化反応と寸法変化
24-26	生理実習 1	血圧・脈拍数・ヘモグロビン酸素飽和度・体温の測定、肺気量の計測
27-29	生理実習 2	心機能、咀嚼筋筋電図
30-33	生理実習 3	感覚機能検査（皮膚感覚の測定、味覚閾値測定、嗅覚検査）

2 学年後期・必修・12 時間

34-37	薬理実習 1	全身麻酔薬の作用
38-41	薬理実習 2	硬組織の薬理
42-45	薬理実習 3	鎮痛薬の薬理、局所麻酔薬の作用

評価方法

出席状況、実習態度、提出レポートで総括的評価を行う。

参考図書等

e-learning システム上にアップロード、または授業の際に印刷物を配付する。

留意事項

必ず白衣を着用すること。

事前に、配付される実習書を読み、関連知識を予習しておくこと。

科目名	公的扶助論
ユニット名	公的扶助論
授業形態	講義
開講時期・単位・時間数	2 学年前期（夏季集中）・選択 2 単位・30 時間
科目・ユニット責任者	杉本久美子
授業担当者	日比野正興（非常勤講師）
主な授業場所	口腔保健学科 第2 講義室

学習目標

公的扶助・生活保護制度の意義と役割を理解し、憲法 25 条の生存権保障の精神を身につける。

到達目標

- ・公的扶助制度の意義、役割について説明できる。
- ・生活保護制度の仕組みとその運用について説明できる。
- ・福祉事務所の機能及び生活保護ケースワーカーの役割を説明できる。
- ・生活保護制度の現状を理解し、目的課題を考察できる。
- ・その他の格差社会、貧困問題を理解し、低所得対策について説明できる。

授業計画 2 学年前期（夏季集中）・選択 2 単位・30 時間

回	授業題目	授業内容
1-3	生活保障制度	生活保護制度の概要・生活保護の 8 扶助
4-6	生活保護法の基本原理	4 原理（法 1～4 条）
7-9	生活保護法の 4 原則	4 原則（法 7～10 条）
10-12	被保護者の権利と義務・実施体制	被保護者の権利・義務（法第 56～63 条）
13-15	生活保護のケースワーク	ケースワーク事例研究
16-18	保護基準と財政	基準生活費・要否判定とその財政
19-21	公的扶助の歴史と動向	現行法のできる課程と歴史的意識
22-24	ホームレスと生活保護	ホームレスの生存権保障
25-27	外国人の生活保護	外国人の生存権保障
28-30	生活保護の今後	生活保護制度の今後のあるべき姿

評価方法

期末試験で総括的評価を行う。

リアクションペーパー（随時）、出席状況および授業態度等を加味する。

参考図書等

- ・教科書：「公的扶助論」改訂第3版 精神保健福祉士養成セミナー編集委員会編 へるす出版
- ・教科書：「社会福祉小六法」2008年度版 ミネルヴァ書房編集部編 ミネルヴァ書房
- ・「大失業時代の生活保護法」 寺久保光良、中川健太郎、日比野正興編著 かもがわ出版 2002年

科目名	児童福祉論 I
ユニット名	児童福祉論 I
授業形態	講義
開講時期・単位・時間数	2 学年前期・必修 1 単位・15 時間
科目・ユニット責任者	杉本久美子
授業担当者	田澤あけみ（立正大学）
主な授業場所	口腔保健学科 第2講義室

学習目標

- ・現代社会における児童の成長・発達と生活実態について理解するとともに、現代社会における児童福祉の社会的背景、理念と意義について理解する。
- ・社会福祉士に必要な児童福祉の特質への理解を深める。

到達目標

- ・現代社会における児童の成長・発達と生活実態について説明できる。
- ・ライフサイクルにおける児童期の位置づけ・とらえ方を説明できる。
- ・近代・現代社会における子どもの権利および子どもを巡る問題について説明できる。
- ・現代社会における児童福祉の理念と意義について説明できる。
- ・児童福祉に関する法とサービス体系について説明できる。
- ・児童のための地域・住環境整備と相談援助活動について説明できる。
- ・近代・現代社会における国家・家族・児童の関連について説明できる。
- ・児童福祉の歴史、児童福祉の仕組み、問題発生機の機序について説明できる。
- ・児童福祉サービスの種類やあり方について説明できる。
- ・少年非行や養護について説明できる。
- ・母子保健、保育政策など発達期の児童福祉について説明できる。
- ・子ども虐待の問題とその防止の取り組みについて概説できる。

教育計画 2 学年前期・必修 1 単位・15 時間

回	授業題目	授業内容
1	オリエンテーション	児童福祉論のガイダンス
2	児童の権利	児童観と児童の権利
3	児童福祉の概念	児童福祉概念の特質

4	児童を取り巻く環境	児童を取り巻く環境と現代的問題
5	家族と児童	現代家族と児童の暮らし
6	児童福祉の対象	児童福祉の対象
7	児童福祉の歴史と児童福祉政策 1	救貧法下の児童
8	児童福祉の歴史と児童福祉政策 2	児童救済から児童保護へ
9	児童福祉の歴史と児童福祉政策 3	福祉国家と児童福祉
10	児童福祉の歴史と児童福祉政策 4	保護型から自立型児童福祉政策の導入
11, 12	日本における児童福祉制度・政策	日本における児童福祉制度・政策の構造
13, 14	社会保障制度	児童福祉と社会保障制度
15	まとめ	まとめ

評価方法

提出レポート、期末の客観試験、記述試験で総括的評価を行う。

出席状況、授業態度を総括的評価に加味する。

参考図書等

- ・教科書：「社会福祉小六法」2008年度版 ミネルヴァ書房編集部編 ミネルヴァ書房
- ・「新児童福祉論」 田澤あけみ、福地栄子、林浩康著 法律文化社

留意事項

事前に資料の配付、e-learning へのアップロード等があった場合は、予習して授業に臨むこと。

科目名	児童福祉論Ⅱ
ユニット名	児童福祉論Ⅱ
授業形態	講義
開講時期・単位・時間数	2 学年前期・選択・15 時間 2 学年前期（夏季集中）・選択・30 時間 } 3 単位
科目・ユニット責任者	杉本久美子
授業担当者	田澤あけみ（立正大学）、雨宮由紀枝（日本女子体育大学）
主な授業場所	口腔保健学科 第2 講義室

学習目標

- ・現代社会における児童の成長・発達と生活実態について理解するとともに、現代社会における児童福祉の社会的背景、理念と意義について理解する。
- ・社会福祉士に必要な児童福祉の特質への理解を深める。

到達目標

- ・現代社会における児童の成長・発達と生活実態について説明できる。
- ・ライフサイクルにおける児童期の位置づけ・とらえ方を説明できる。
- ・近代・現代社会における子どもの権利および子どもを巡る問題について説明できる。
- ・現代社会における児童福祉の理念と意義について説明できる。
- ・児童福祉に関する法とサービス体系について説明できる。
- ・児童のための地域・住環境整備と相談援助活動について説明できる。
- ・児童福祉および関連分野の専門職およびその連携のあり方について説明できる。
- ・近代・現代社会における国家・家族・児童の関連について説明できる。
- ・児童福祉の歴史、児童福祉の仕組み、問題発生の際の機序について説明できる。
- ・児童福祉サービスの種類やあり方について説明できる。
- ・少年非行や養護について説明できる。
- ・母子保健、保育政策など発達期の児童福祉について説明できる。
- ・子ども虐待の問題とその防止の取り組みについて説明できる。
- ・国際児童福祉の動向について概説できる。

授業計画

2 学年前期・選択・15 時間

回	授業題目	授業内容
---	------	------

1, 2	児童福祉専門行政機関	児童福祉専門行政機関の役割と機関間相互連携のあり方
3, 4	児童福祉施設とサービス	児童福祉施設の特質とサービス展開の動向
5, 6	児童の社会的支援	要養護問題と児童の社会的支援
7, 8	里親制度	里親制度と養子縁組
9, 10	少年非行問題	少年非行問題と児童福祉サービス
11	少年法	少年法と少年非行
12, 13	国際児童福祉の実態	国際児童福祉の実態と課題
14, 15	海外における児童福祉の動向	海外における児童福祉動向

2 学年前期（夏季集中）・選択・30 時間

回	授業題目	授業内容
16	母子保健	目的、現状
17	〃	母子保健施策、母子保健法
18	〃	現代の課題
19	障害児の福祉	目的、障害児の実態
20	〃	療育、福祉施策、障害者自立支援法
21	〃	特別支援教育、現代の課題
22	児童健全育成	目的、現状
23	〃	児童健全育成施策
24	〃	現代の課題
25	保育	目的、現状
26	〃	保育施策
27	〃	現代の課題
28	児童虐待対策	社会的背景、実態
29	〃	被虐待児保護、児童虐待防止法
30	〃	現代の課題
31	ドメスティック・バイオレンスへの対応	社会的背景、実態
32	〃	D V被害者支援、D V防止法
33	〃	現代の課題

34	ひとり親家庭の福祉	目的、現状
35	〃	福祉施策、母子及び寡婦福祉法
36	〃	現代の課題
37	子育て支援	目的、現状
38	〃	少子化対策、子育て支援施策
39	〃	現代の課題
40	児童福祉専門職	意義、要件
41	〃	児童福祉機関・施設と専門職
42	〃	関連分野の組織・専門職
43	児童への相談援助活動	方法、過程
44	〃	事例
45	まとめ	まとめ

評価方法

期末試験、授業への参加状況、課題レポート等により総合的に評価する。

参考図書等

- ・教科書：「新版 社会福祉士養成講座 ④児童福祉論」福祉士養成講座編集委員会編 中央法規
- ・「新児童福祉論」田澤あけみ、福地栄子、林浩康著 法律文化社

留意事項

事前に資料の配付、アップロード等があった場合は、各自予習して授業に臨むこと。

科目名	老人福祉論Ⅰ
ユニット名	老人福祉論Ⅰ
授業形態	講義
開講時期・単位・時間数	2 学年後期・必修 1 単位・15 時間
責任者	杉本久美子
授業担当者	柳沢志津子（東洋学園大学）
主な授業場所	口腔保健学科 第2講義室

学習目標

高齢者やその家族が抱える生活問題と福祉ニーズを理解し、高齢期を支える社会制度と保健福祉医療サービスの内容、サービス提供の現状について理解する。

到達目標

- ・ 高齢者の身体的特性、精神的・心理的特性を説明できる。
- ・ 高齢者を取り巻く社会環境を説明できる。
- ・ 高齢者福祉の歴史的発達過程について説明できる。
- ・ 現代社会における高齢者福祉の理念と意義を説明できる。
- ・ 介護保険制度（老人福祉法および老人保健法を含む）の概要を説明できる。
- ・ 介護サービス供給体制を説明できる。

授業計画 2 学年後期・必修 1 単位・15 時間

回	授業題目	授業内容
1	高齢者の理解 1	身体的特性
2	高齢者の理解 2	精神・心理的特性
3	高齢者の理解 3	いきがい、社会参加、エイジズム
4	高齢者を取り巻く社会環境 1	データからみる少子高齢化社会
5	高齢者を取り巻く社会環境 2	家族・地域・社会の変化
6	高齢者援助の視点	高齢者の生活問題と福祉ニーズ
7	高齢者福祉施策の展開 1	慈善事業から社会事業へ
8	高齢者福祉施策の展開 2	老人福祉法への歩み
9	高齢者福祉施策の展開 3	近年の高齢者保健福祉サービス

10	介護保険制度 1	法律とサービス体系
11	介護保険制度 2	運営組織、財源確保と配分
12	介護保険制度 3	ケアマネジメント
13	介護サービス供給体制 1	福祉専門職の役割、資格制度
14	介護サービス供給体制 2	保健・医療・福祉の連携
15	介護サービス供給体制 3	福祉多元主義、市場化、住民参加

評価方法

期末試験、毎回のリアクションペーパー、出席状況、授業態度により総合的に評価する。

参考図書等

- ・新版第 4 版 社会福祉士養成講座 2 「老人福祉論」福祉士養成講座委員会編 中法法規出版
- ・社会福祉士養成テキストブック⑥「老人福祉論」市川一宏・牧里毎治編著 ミネルヴァ書房
- ・そのほか、必要に応じて講義の中で提示する。

留意事項

事前に資料の配布、e-learning へのアップロード等があった場合には、各自予習して授業に臨むこと。

科目名	社会福祉援助技術論
ユニット名	社会福祉援助技術論
授業形態	講義
開講時期・単位・時間数	2 学年後期・選択・70 時間 単位認定（8 単位）は 3 学年前期（50 時間）終了時に行う
科目・ユニット責任者	杉本久美子
授業担当者	對馬節子（浦和大学）、萬歳英美子（非常勤講師）
主な授業場所	口腔保健学科 第2 講義室

学習目標

- ・個人・家族および集団を支援対象とした社会福祉援助技術を中心としてソーシャルワークへの理解を深める。
- ・社会福祉士（ソーシャルワーカー）は、「ソーシャルワーク」に加えて、心理・社会的アプローチ、危機理論など人を理解する「方法論」、および質問法、明確化、焦点化などの「面接技術」の「三つの道具」を用いて、支援活動を展開する。本科目では、特に以下の項目について理解を深めることを目指す。
- ・ソーシャルワークの意義を理解する。
- ・ソーシャルワークが拠り所とする倫理・価値（人権尊重、権利擁護、自立支援等を含めて）について理解する。

到達目標

- ・現代社会におけるソーシャルワークの意義を説明できる。
- ・ソーシャルワークの技術体系（ミクロ・メゾ・マクロレベルの技術）を説明できる。
- ・支援活動における人の尊重とは何かを説明できる。
- ・人と家族を理解する理論のいくつかを説明できる。
- ・グループの持つ意味とグループワークの意義を説明できる。
- ・面接技術の意義と代表的な面接技法を説明できる。

授業計画 2 学年後期・選択・70 時間

回	授業題目	授業内容
1-4	社会福祉援助活動 援助の専門性	社会福祉援助活動とは 援助の専門性が必要か
5-8	援助の歴史	援助はどのように発展したのか

	社会福祉システム	人を取り巻く社会福祉システムとは
9-12	事例検討	事例を用いたロールプレイング 観察から理解への視点
13-16	社会福祉援助の提供条件 ソーシャルワークの枠組み	援助提供の際に留意すべきこと 社会福祉援助技術（ソーシャルワーク）とは
17-20	事例検討	事例を用いたロールプレイング サービス提供条件の検討
21-24	社会福祉援助技術の種類 連携とネットワーキング	ソーシャルワークの種類 多職種との連携とネットワーキングの方法
25-28	事例検討	事例検討によるソーシャルワークの種類の理解
29-32	専門家と倫理 専門家の資質、スーパービジョン	専門家の資格と倫理綱領・職業倫理 福祉の専門家に求められる資質、専門家の教育と訓練
33-36	事例検討	事例によるソーシャルワーカーの対応の専門性に関する検討
37-40	援助の展開過程 援助道具（三つの道具箱）と個別アプローチの実践	個別アプローチによる援助の必要性和援助の要素 人を理解するための方法論、面接技法、観察と記録
41-44	事例検討	事例のアセスメント、道具箱の点検
45-48	家族と集団、グループとは	グループと集まりとの違い、グループワークをなぜ学ぶのか、グループの構造、グループの過程（グループの成長・発達）
49-52	グループワークの実践	家族とグループの構成要素の確認 グループ・プロセスの振り返り
53-56	グループの心理、グループワークの歴史、プログラムと過程	グループの心理、グループワークの歴史、プログラム、およびその過程
57-60	FK モデル	FK モデル（課題取り組み過程）の体験
61-64	グループワークの実践	グループの振り返り、グループワークの終結段階
65-70	ケアマネジメント、まとめ	ケアマネジメント等の意義、まとめ

評価方法

出席状況、授業への取り組み態度、期末レポートにより総括的評価を行う。

参考図書等

- ・教科書：新版・社会福祉学習双書 2007 演習委員会「社会福祉援助技術論」（新版・社会福祉学習双書第 8 巻）」全国社会福祉協議会、2007 年
- ・教科書：「面接で活用できる援助技術―大切な人の力、そして家族の力―」（療育技法マニュアル第 17 集）、福山和女監修、對馬節子、萬歳芙美子、照井秀子、荻野ひろみ共著、神奈川県児童医療福祉財団、2007 年
- ・「ソーシャルワークのスーパービジョン：人の理解の探究」福山和女編著、對馬節子、萬歳芙美子、荻野ひろみ共著、ミネルヴァ書房、2005 年
- ・「グループワーク」川田誉音著、海声社、1990 年

留意事項

- ・講義で取り上げられることを、主体的に理解してほしい。暗記より理解を大切にして、歯科衛生士という自己の職業的アイデンティティの形成を意識しながら、本科目の学びをどう役立てるかを考えながら受講することを希望する。
- ・授業は講義だけでなく、学生の参加による双方向で進める。他者の考えを理解すること、自分の考えを述べることにより、主体的に授業に参加することを期待する。

第 3 学年 授業科目

科目名	臨床歯科医学
ユニット名	再建系歯科医学
授業形態	講義
開講時期・単位・時間数	3 学年前期・必修 2 単位・30 時間
科目・ユニット責任者	木下淳博・下山和弘
授業担当者	下山和弘、塩田真（インプラント・口腔再生医学分野）、濱野英也（歯科総合診療部）、隅田由香（顎顔面補綴学分野）、上野俊明（スポーツ医歯学分野）
主な授業場所	口腔保健学科 第3講義室

学習目標

歯科補綴治療と補綴装置の特徴を理解するとともに、補綴装置使用における口腔の健康管理の知識を修得する。

到達目標

- ・ 歯科補綴治療（インプラントを含む）の種類・特徴を説明でき、製作過程を概説できる。
- ・ 補綴装置使用における口腔の健康管理法を説明できる。

授業計画 3 学年前期・必修 2 単位・30 時間

回	授業題目	授業内容
1	歯科補綴治療の基礎 1	歯科補綴治療の意義と目的
2	歯科補綴治療の基礎 2	歯科補綴装置の種類
3	歯科補綴治療の基礎 3	顎口腔系の形態・機能、咬合器
4	歯科補綴治療の基礎 4	歯の喪失に伴う変化
5	床義歯の構成と特徴 1	全部床義歯の特徴、構成要素
6	床義歯の構成と特徴 2	部分床義歯の特徴、構成要素
7	床義歯の構成と特徴 3	床義歯の診療と製作過程
8	冠橋義歯の種類と特徴 1	冠橋義歯の特徴、構成要素
9	冠橋義歯の種類と特徴 2	冠橋義歯の構成要素の特徴
10	歯科補綴装置の製作過程 1	印象採得
11	歯科補綴装置の製作過程 2	咬合採得

12	歯科補綴装置の取扱い 1	床義歯の取扱い
13	歯科補綴装置の取扱い 2	冠橋義歯の取扱い
14	歯科補綴装置の管理と補修	床義歯の管理、冠橋義歯の管理、補綴装置の修理
15	インプラントの基礎と臨床 1	インプラントの歴史、インプラントの種類
16	インプラントの基礎と臨床 2	インプラントの手技、インプラントの管理
17	インプラントの臨床と製作過程 1	インプラントの埋入法
18	インプラントの臨床と製作過程 2	インプラントの補綴法
19	金属アレルギー1	歯科における金属アレルギーの現状
20	金属アレルギー2	金属アレルギーの臨床的対応と予防
21	顎顔面補綴学	顎顔面補綴学が対応する症例
22	顎顔面補綴治療の実際 1	補綴症例、顎顔面補綴治療における口腔衛生指導
23	顎顔面補綴治療の実際 2	顎顔面補綴治療に求められる心理ケア
24	顎顔面補綴治療の実際 3	顎顔面補綴治療におけるチーム医療
25	スポーツ歯学の基礎と臨床 1	スポーツ選手の歯の健康管理
26	スポーツ歯学の基礎と臨床 2	スポーツ外傷と安全対策
27	歯科補綴臨床の実際 1	歯科補綴臨床の実際（見学を含む）
28	歯科補綴臨床の実際 2	歯科補綴臨床の実際（見学を含む）
29	健康を考える 歯科補綴臨床 1	歯科補綴臨床から健康を考える
30	健康を考える 歯科補綴臨床 2	歯科補綴臨床から健康を考える

評価方法

随時の小テストで形成的評価を行う。提出レポート、期末の客観試験、論述試験テストで総括的評価を行う。出席状況および授業態度を総括的評価に加味する。

参考図書等

- ・「第2版 歯科補綴学専門用語集」 日本補綴歯科学会編 医歯薬出版
- ・新歯科衛生士教本「歯科補綴学」 全国歯科衛生士教育協議会編 医歯薬出版
- ・「全部床義歯補綴学」 林都志夫編 医歯薬出版
- ・「小部分床義歯学」 藍 稔著 学建書院
- ・「スタンダード部分床義歯補綴学」 藍 稔編 学建書院
- ・「クランブリッジ補綴学」 石橋寛二、川添堯彬ほか編 医歯薬出版
- ・「よくわかる口腔インプラント学」 赤川安正、松浦正朗ほか編 医歯薬出版

- ・「G Pのための金属アレルギー臨床」 中山秀夫・松村光明編 デンタルダイヤモンド社
- ・「声と言葉のしくみ」 亀田和夫 口腔保健協会
- ・「口唇裂口蓋裂の補綴治療」 大山喬史編 医歯薬出版
- ・「顎顔面補綴の臨床」 大山喬史・谷口 尚編 医学情報社
- ・「言語聴覚士に必要な歯科の知識」 谷口 尚・片倉伸郎・大野友久・隅田由香著 インテルナ出版
- ・「スポーツマウスガードハンドブック」 大山喬史・上野俊明編 医学情報社
- ・「スポーツ歯学の臨床」 大山喬史編 医学情報社
- ・「スポーツ歯科臨床マニュアル」 日本スポーツ歯科医学会編 医学情報社
- ・「口と歯の事典」 高戸毅・天竺光雄ほか編 朝倉書店

留意事項

事前の資料の配布、e-learning へのアップロード等があった場合は、予習して授業に臨むこと。

科目名	臨床歯科医学
ユニット名	外科系歯科医学
授業形態	講義
開講時期・単位・時間数	3 学年前期・必修 2 単位・30 時間
科目・ユニット責任者	木下淳博・吉増秀實
授業担当者	吉増秀實、木野孔司（顎関節治療部）、神野成治（麻酔・生体管理学分野）
主な授業場所	口腔保健学科 第3講義室

学習目標

口腔外科臨床のチーム医療を行うにあたって必要な基礎的知識を修得する。

到達目標

- ・顎顔面口腔に症状を現す先天異常と発育異常を列挙し、治療法を説明できる。
- ・顎口腔領域の炎症の診断および治療法を説明できる。
- ・顎口腔領域の損傷の診断および治療法を説明できる。
- ・顎口腔領域の嚢胞の診断および治療法を説明できる。
- ・口腔粘膜疾患の診断および治療法を説明できる。
- ・唾液腺疾患の病因と病態について説明できる。
- ・顎口腔領域の腫瘍の診断および治療法を説明できる。
- ・顎口腔領域の神経疾患の診断および治療法を説明できる。
- ・顎口腔領域の血液疾患、出血性素因について説明できる。
- ・顎関節疾患の病因、病態、診断および治療法を説明できる。
- ・抜歯・小手術について説明できる。
- ・麻酔法を説明できる。
- ・口腔外科のチーム医療について説明できる。
- ・口腔の健康維持のために、治療後のセルフケアについて説明ができる。

授業計画 3 学年前期・必修 2 単位・30 時間

回	授業題目	授業内容
1	口腔外科の概要	口腔外科とは、口腔外科疾患の種類、口腔外科診断法
2	先天異常	口唇口蓋裂の診断、治療

		その他の顔面奇形
3	顎発育異常	顎変形症の診断と治療
4	外傷	軟組織損傷、顎骨骨折、歯の外傷
5	炎症	歯性炎症、炎症の波及、炎症の診断と治療
6	嚢胞	歯源性嚢胞、非歯源性嚢胞、軟組織嚢胞
7	良性腫瘍・腫瘍類似疾患	歯源性腫瘍、非歯源性腫瘍、良性腫瘍の診断・治療
8	悪性腫瘍	悪性腫瘍の診断・治療
9	口腔粘膜疾患	口腔粘膜疾患の診断と治療
10	口腔顎顔面領域の神経疾患、唾液線疾患	神経疾患の診断と治療
11	血液疾患、出血性素因	血液疾患の診断と治療
12	代謝性疾患の口腔症状、症候群	代謝性疾患の口腔症状、口腔顎顔面領域に関連した症候群および疾患
13	顎関節疾患（顎関節症）	顎関節症の診断と治療
14	顎関節疾患（顎関節症以外）	顎関節症以外の顎関節疾患の種類、診断と治療
15	口腔外科診療総論	診察法、手術の適否、消毒滅菌（器械材料の消毒、手術室の消毒、手指の消毒、手術野の消毒）
16	口腔外科診療各論（抜歯）	抜歯の適応、必要器材、術前の注意事項、抜歯法、抜歯の実際と介助、診療補助の要点、抜歯創の治療過程、術後処置偶発症と処置等
17	口腔外科小手術	種類、適応、方法、必要器材、術前の注意事項、術後管理、術後の説明、診療補助の要点等
18	口腔外科手術患者の口腔ケア	口腔癌・口唇口蓋裂・顎変形症・顎骨骨折患者の治療法、処置の流れ、治療後のセルフケア
19	歯科麻酔学概論	歯科麻酔学概論
20	全身状態評価・バイタルサイン	全身状態評価・バイタルサイン
21, 22	全身麻酔法	全身麻酔法
23, 24	局所麻酔法	局所麻酔法、局所麻酔薬の種類
25, 26	精神鎮静法ほか	精神鎮静法ほか
27, 28	ペインクリニック	ペインクリニックとは、顎顔面口腔領域の疼痛性疾患の種類、診断と治療

29, 30	総括	まとめ
--------	----	-----

評価方法

随時の小テストで形成的評価を行う。

期末の客観試験、記述試験で総括的評価を行う。

講義、グループ討論、発表の態度等を総括的評価に加味する。

参考図書等

- ・「医療従事者のための口腔外科学」 古森孝秀 編著 永末書店
- ・「臨床病態学 3」北村 聖 総編集 スーヴェルヒロカワ
- ・「医療従事者のためのカラーアトラス：口腔外科疾患」 道健一編 永末書店
- ・「最新口腔外科学 第4版(総論, 各論)」 塩田重利、富田喜内監修 医歯薬出版

留意事項

事前に資料の配布、e-learning へのアップロード等があった場合は、各自予習して授業に臨むこと。

科目名	臨床歯科医学
ユニット名	発達育成系・障害者歯科医学
授業形態	講義
開講時期・単位・時間数	2 学年後期・必修・15 時間 3 学年前期・必修・15 時間 単位認定（2 単位）は3 学年前期終了時に行う
科目・ユニット責任者	木下淳博・石川雅章
授業担当者	石川雅章、田中光郎（岩手医科大学）、篠塚修（障害者歯科学分野）、足達淑子（歯科衛生士）、小川仲子（非常勤講師）、五十川伸崇（非常勤講師）
主な授業場所	口腔保健学科 第3 講義室

学習目標

小児の心身の成長・発達をふまえ、発達期口腔疾患の特徴、予防・治療法を理解する。障害児・者に対して、口腔保健の立場から支援する際に必要な知識、技術を修得する。

到達目標

- ・障害とは何かを理解し、種々の障害の定義を説明できる。
- ・障害児・者口腔内の特徴と歯科疾患罹患状況を説明できる。
- ・発達期口腔保健の最近の考え方を説明できる。
- ・障害児・者の歯科治療時における行動への対応法を概説できる。
- ・障害児・者の歯科治療におけるチーム医療を説明できる。
- ・障害児・者の一次、二次、三次歯科医療体制を説明できる。
- ・広汎性発達障害児の療育と歯科的対応が概説できる。
- ・障害児・者の摂食指導が概説できる。
- ・発達期摂食障害児の摂食指導が概説できる。

授業計画 3 学年前期・必修 1 単位・15 時間

回	授業題目	授業内容
1, 2	障害と歯科医療 1	精神(発達)遅滞、脳性麻痺、広汎性発達障害の定義、口腔内所見、歯科疾患罹患状況、歯科診療時の注意点
3, 4	障害と歯科医療 2	てんかん、ダウン症、染色体異常、視覚障害、聴覚障害の定義、口腔内所見、歯科疾患罹患状況、歯科診療時の注意

		点
5, 6	障害児・者歯科診療時の行動調整、障害児・者の一次、二次、三次歯科医療体制	行動変容法の定義と種類、強制的な行動抑制、鎮静法・全身麻酔法の適用、全身状態の把握、障害児・者の歯科医療体制の展開
7, 8	う蝕予防の最新理論	バイオフィルム形成とミュータンスレンサ球菌、母子感染に対する考え方、フッ化物の作用機序、フッ化物以外による歯質の成熟と再石灰化
9, 10	障害児・者に対する口腔保健指導と歯科予防処置	障害の程度の把握、理解力、運動機能、コミュニケーション能力の評価、障害に対応したセルフケア、ホームケアの指導
11, 12	広汎性発達障害児・者に対する行動調整法と口腔保健指導、歯科治療の実際	広汎性発達障害児療育の概要、TEACHH 法、PECS 法、自閉症児への視覚的支援、広汎性発達障害児・者に対する歯科臨床例の検討
13, 14	発達期摂食障害児、障害児・者の摂食指導	摂食機能の発達と遅滞、摂食機能障害とは、摂食機能障害の評価と対応法
15	まとめ	まとめ

評価方法

- ・随時の小テストで形成的評価を行う。
- ・期末の客観試験、論述試験で総括的評価を行う

参考図書等

- ・新歯科衛生士教本「障害者歯科学」 全国歯科衛生士教育協議会 医歯薬出版
- ・「小児の口腔科学」 前田隆秀、朝田芳信、田中光郎他著 学建書院
- ・「食べる機能の障害」 金子芳洋編 医歯薬出版

留意事項

事前に資料の配布、e-learning へのアップロード等があった場合には、予習して授業に臨むこと。

科目名	先端歯周病予防学
ユニット名	先端歯周病予防学
授業形態	講義
開講時期・単位・時間数	3 学年前期・選択 1 単位・15 時間
科目・ユニット責任者	木下淳博
授業担当者	木下淳博、和泉雄一（歯周病学分野）、小田茂（歯周病学分野）、梅田 誠（歯周病学分野）、長澤敏行（歯周病学分野）、菊池重成（歯周病学分野）
主な授業場所	口腔保健学科 第3講義室

学習目標

歯周病予防に必要な最新の臨床知識を理解し、実践に役立つ臨床判断能力を培う。

到達目標

- ・歯周病専門医による歯周治療の実際を概説できる。
- ・歯周組織再生治療の実際を概説できる。
- ・歯周病予防と全身の関連を概説できる。
- ・歯周病における免疫反応を概説できる。
- ・最新の歯周病検査を概説できる。

授業計画 3 学年前期・選択 1 単位・15 時間

回	授業題目	授業内容
1, 2	歯周病と全身	歯周病と全身の関連
3	歯周治療の実際	歯周病専門医による歯周外科治療の実際（エムドゲイン投与、GTR）
4	歯周組織再生治療	歯周組織再生治療の実際
5, 6	歯周治療の実際	歯周病専門医による歯周治療の実際（骨切除術、根分岐部病変の治療）
7	歯周病と免疫	歯周病と免疫
8	歯周病と糖尿病	歯周病と糖尿病
9, 10	歯周治療の実際	歯周病専門医による歯周外科治療の実際（結合組織移植術、骨切除術）

11	最新の歯周病検査	酵素反応、遺伝子工学的手法を用いた最新の細菌検査
12	歯周外科前の確認事項	歯周外科前の確認事項
13, 14	歯周治療の実際	歯周病専門医による歯周外科治療の実際(歯槽堤増大術、矯正、インプラント等)
15	まとめ	まとめ

評価方法

出席状況、e-learning による履修状況（編入生）、小テスト等により総括的評価を行う。

参考図書等

- ・「これでチョーカンペキ 歯科衛生士の新・歯周治療の本」第5版 広島県歯科医師会監修、小原啓子著、医試薬出版

留意事項

事前に資料の配布、e-learning へのアップロード等があった場合には、各自予習して授業に臨むこと。

科目名	口腔疾患予防学実習
ユニット名	口腔疾患予防学実習
授業形態	実習
開講時期・単位・時間数	2 学年前期・必修・45 時間 2 学年後期・必修・45 時間 3 学年前期・必修・45 時間 単位認定（3 単位）は3 学年前期終了時に行う
科目・ユニット責任者	吉田直美
授業担当者	石川雅章、寺岡加代、木下淳博、遠藤圭子、近藤圭子、吉田直美、堀江明子、佐々木好幸（口腔保健教育研究センター）、飯田則子・山梨楠奈子・河野章江（非常勤講師）
主な授業場所	口腔保健学科 第2 実習室

学習目標

歯・口腔の状態把握および歯科予防処置の基本的技術を修得する。

到達目標

- ・う蝕予防と歯周歯科疾患予防の基礎を説明できる。
- ・歯、口腔（歯、歯肉、歯の付着物・沈着物）状態把握を説明し、実施できる。
- ・歯科予防処置実施にあたり、生体への配慮（器具の消毒・滅菌、感染予防、手指の消毒法、偶発事故の予防）ができる。
- ・歯科予防処置のうち、歯石除去、歯面清掃、SRP、う蝕予防処置、フッ化物歯面塗布、フッ化物洗口を実施できる。

授業計画 3 学年前期・必修・45 時間

回	授業題目	授業内容
1-4	実習の進め方、実習計画立案	実習の進め方、実習計画立案、2 年次振り返り
5-8	SRP などの復習	SRP などの復習
9-12	ケース・シミュレーション実習 1	相互実習、シミュレーションⅠ（診査、検査等）
13-16	ケース・シミュレーション実習 2	相互実習 シミュレーションⅡ（診査、検査等）
17-20	歯科衛生診断・プランニング	診断ステートメント、プランニング

21-24	ケース・シミュレーション実習 3	相互実習 シミュレーションⅢ
25-27	ケース・シミュレーション実習 4	相互実習 シミュレーションⅣ
28-30	ケース・シミュレーション実習 5	相互実習 シミュレーションⅤ
31-33	ケース・シミュレーション実習 6	相互実習 シミュレーションⅥ
34-36	ケース・シミュレーション実習 7	相互実習 シミュレーションⅦ
37-39	評価、プレゼンテーション準備	記録整理、プレゼンテーション準備
40-42	プレゼンテーション準備	プレゼンテーション準備
43-45	まとめ	ケースプレゼンテーション

評価方法

随時の小テストで形成的評価を行う。

出欠状況、実習態度などを総括的評価に加味する

期末の客観試験、論述試験で総括的評価を行う。

参考図書等

e-learning システム上にアップロード、または授業の際に印刷物を配布する。

留意事項

事前に資料の配布、e-learning へのアップロードなどがあつた場合は、各自予習して授業に臨むこと。

科目名	医学一般
ユニット名	医学一般
授業形態	講義
開講時期・単位・時間数	2 学年前期・必修・30 時間 3 学年前期・必修・30 時間 } 4 単位 単位認定（4 単位）は 3 学年前期終了時に行う
科目・ユニット責任者	吉増秀實
授業担当者	長澤正之・荒木 聡（発生発達病態学分野）、井川健・高山かおる（皮膚科学分野）、角田篤信、有泉陽介（耳鼻咽喉科学分野）、大野京子・杉田直（眼科学分野）、春日井昇平（インプラント・口腔再生医学分野）、森田定雄（リハビリテーション部）、三浦修（血液内科学分野）、勝野哲也（救急災害医学分野）、吉増秀實、医学部教員
主な授業場所	口腔保健学科 第3講義室

学習目標

口腔保健活動を行うために必要な臨床医学の各分野の知識を身につける。

到達目標

- ・主な感染症を説明できる。(2 年)
- ・主な循環器疾患を説明できる。(2 年)
- ・主な呼吸器疾患を説明できる。(2 年)
- ・主な消化器疾患を説明できる。(2 年)
- ・主な精神疾患を説明できる。(2 年)
- ・主な骨関節・結合組織疾患を説明できる。(2 年)
- ・主な精神疾患を説明できる。(2 年)
- ・臓器移植を概説できる。(2 年)
- ・主な先天性疾患を説明できる。
- ・主な小児科疾患を説明できる。
- ・主な皮膚疾患を説明できる。
- ・主な耳鼻咽喉科疾患を説明できる。
- ・主な眼科疾患を説明できる。
- ・主な泌尿器科疾患を説明できる。
- ・老化に伴う主な疾患を説明できる。
- ・再生医療を概説できる。

- ・救急医療について概説できる。
- ・機能障害およびリハビリテーション医療を説明できる。
- ・高気圧医療・労働医療を概説できる。
- ・機能障害およびリハビリテーション医療を説明できる。
- ・主な臨床検査の種類・方法・結果を説明できる。

授業計画 3 学年前期・必修・30 時間

回	授業題目	授業内容
1-4	小児科	小児が罹患しやすい感染症、先天性疾患等
5-8	皮膚科	アトピー性皮膚炎、皮膚がん、疥癬、老化性変化等
9-12	耳鼻咽喉科	主な耳・鼻・のどの疾患、老化に伴う変化等
13-16	眼科	主な目の疾患、老化と目等
17-20	泌尿器科	主な泌尿器科疾患、老化に伴う変化、排尿のトラブル、悪性腫瘍等
21, 22	リハビリテーション	リハビリテーション
23	血液疾患	主な血液疾患（白血病、血友病等）
24	有病者に対する対応	口腔保健活動における有病者に対する対応
25, 26	再生医療	再生医療とは、再生医療の口腔領域への応用
27, 28	救急災害医学	救急災害医療
29, 30	総括	まとめ

評価方法

随時小テストを行い、形成的評価を行う。

期末に客観試験、記述試験を行い、総括的評価を行う。

講義、グループ討論、発表の態度等を総括的評価に加味する。

参考図書等

- ・新版社会福祉士要請講座 13「医学一般」第2版 社会福祉士養成講座編集委員会編 中央法規
- ・社会福祉士養成テキストブック 16「医学一般」 黒田研二、竹内孝仁編著 ミネルヴァ書房

留意事項

事前に資料の配布・アップロード等があった場合は、各自予習して授業に臨むこと。

科目名	保健行動科学
ユニット名	コミュニケーション論Ⅱ
授業形態	講義
開講時期・単位・時間数	3 学年前期・必修 1 単位・15 時間（5 月 31 日～6 月 1 日合宿形式）
科目・ユニット責任者	吉田直美
授業担当者	中村千賀子・長瀬恵（非常勤講師）・吉田直美・近藤圭子・田中恵美子
主な授業場所	校外施設

学習目標

行動科学に基づき、歯科衛生士が活動するための基盤となるコミュニケーション・カウンセリングの基本的な知識・姿勢を学ぶ。

到達目標

- ・人を大切にすることとは何かを考察できる。
- ・人間観とは何かを概説できる。
- ・対人関係のあり方を考察できる。
- ・人の話を受容的に傾聴できる。
- ・人が理解できるように自分の意見を伝えることができる。

授業計画 3 学年前期・必修 1 単位・15 時間

回	授業題目	授業内容
1, 2	オリエンテーション	オリエンテーション、アイスブレイキング
3-14	グループ演習	グループ演習
15	まとめ	まとめ

評価方法

出席・参加状況ならびに、提出物などにより評価する。

留意事項

1 泊 2 日の合宿形式で、1 年生と交流を持ちながら、演習を中心に行う。

科目名	保健行動科学
ユニット名	ヘルスカウンセリング論
授業の形態	講義
開講時期・単位・時間数	3 学年前期・必修 1 単位・15 時間
科目・ユニット責任者	吉田直美
授業担当者	吉田直美、渡邊麻理（非常勤講師）
主な授業場所	口腔保健学科 第3 講義室

学習目標

ヘルスカウンセリングにおける基本姿勢や、クライアントの心情を理解する方法を修得し、援助的
にはたらきかける知識・技能・態度を身につける。

到達目標

- ・ヒューマンニーズと歯科衛生ケアとの関連を説明できる。
- ・保健医療におけるカウンセリングの重要性を説明できる。
- ・クライアントが好ましいライフスタイルを獲得することをめざすための援助方法について概説できる。
- ・カウンセラーの基本的態度について概説できる。
- ・健康維持増進のための行動変容について説明することができる。

授業計画 3 学年前期・必修 1 単位・15 時間

回	授業題目	授業内容
1, 2	オリエンテーション	オリエンテーション
3, 4	歯科衛生活動のための行動基盤	歯科衛生活動、行動基盤、ヒューマンニーズ
5, 6	コミュニケーション、カウンセリングとは	コミュニケーション・カウンセリング・ヘルスカウンセリングの定義・意義・用途
7, 8	カウンセリングの概要	カウンセリングの概略
9, 10	カウンセリング基本理論と演習Ⅰ	カウンセリングアプローチ、カウンセリング演習Ⅰ
11, 12	カウンセリング基本理論と演習Ⅱ	カウンセリング演習Ⅱ
13, 14	カウンセリング基本理論と演習Ⅲ	カウンセリング演習Ⅲ
15	まとめ	まとめ

評価方法

提出レポート、期末の客観試験、論述試験で総括的評価を行う。

出席・授業態度を総括的評価に加味する。

参考図書等

e-learning システム上にアップロード、または授業の際に印刷物を配布する。

留意事項

事前に資料の配布、e-learning へのアップロードなどがあった場合は、各自予習して授業に臨むこと。

科目名	臨床口腔保健衛生基礎学
ユニット名	臨床口腔保健衛生基礎実習
授業形態	実習
開講時期・単位・時間数	2 学年後期・必修・45 時間 3 学年前期・必修・45 時間 単位認定（2 単位）は3 年前期終了時に行う
科目・ユニット責任者	近藤圭子
授業担当者	石川雅章、下山和弘、寺岡加代、遠藤圭子、近藤圭子、吉田直美、小野寺光江、堀江明子、田澤千鶴（非常勤講師・歯科衛生士）、渡邊裕（口腔放射線医学分野）、簡野瑞誠（咬合機能矯正学分野）、神野成治（麻酔・生体管理学分野）、中島正俊（う蝕制御学分野）稲場幸治（非常勤講師）、秋本紗恵子（非常勤講師）
主な授業場所	口腔保健学科第2・3 実習室、第3 講義室、歯学科実習室

学習目標

歯科臨床の場でチーム医療の実践に必要な知識・技術を理解し、基礎的な技術を身につける。

到達目標

- ・患者が安全に受診できるように、診療環境を整えることができる。
- ・患者と円滑にコミュニケーションをとれる。
- ・チーム医療に必要な技能を実践できる。
- ・直接対面行為の技能を実践できる。
- ・診療に必要な検査を行い結果の意味が判断できる。
- ・バイタルサイン（意識レベルも含む）の測定ができる。
- ・救急蘇生について説明でき、実施できる。
- ・患者が安全に受診できるように、診療環境を整えることができる
- ・診療に必要な器械・材料・薬品の適切な準備と取り扱い(滅菌消毒も含む)ができる。

授業計画 3 学年前期・必修・45 時間

回	授業題目	授業内容
1-3	エックス線撮影 1	歯科エックス線撮影の実際（撮影補助実習）
4-6	エックス線撮影 2	歯科エックス線撮影の実際（撮影補助実習）

7-9	歯科診療の補助（各論）1	歯科診療の流れにそった補助の実際(演習)
10-12	歯科診療の補助（各論）2	歯科診療の流れにそった補助の実際(演習)
13-15	暫間被覆冠の作製 1	暫間被覆冠の作製と実際
16-18	暫間被覆冠の作製 2	暫間被覆冠の作製と実際
19-21	保存処置関連実習 1	器材の取扱いの実際
22-24	保存処置関連実習 2	器材の取扱いの実際
25-27	精密印象採得の実際	相互実習
28-30	小児歯科関連実習	相互実習
31-33	歯科診療の補助（各論）3	歯科診療の流れにそった補助の実際(演習)
34-36	歯科診療の補助（各論）4	歯科保険の実際 1
37-39	歯科診療の補助（各論）5	歯科保険の実際 2
40-42	歯科診療の補助（各論）6	歯科保険の実際 3
43-45	救急蘇生法実習	救急蘇生の実際

評価方法

中間（2 年次）および期末の筆記試験、実技試験および提出レポートまたは課題により評価する。
授業態度・意欲および授業参加度により評価する。

参考図書等

- ・臨床科目関連の新歯科衛生士教本 全国歯科衛生士教育協議会編 医歯薬出版
- ・臨床関連科目 講義資料等

科目名	顎口腔機能訓練法
ユニット名	顎口腔機能訓練法
授業形態	講義
開講時期・単位・時間数	3 学年前期・選択 1 単位・15 時間
科目・ユニット責任者	石川雅章
講義担当者	石川雅章、佐々木洋（非常勤講師）、大塚義顕（千葉東病院）、落合聡（聖マリア病院）、壬生美智子（言語治療）
主な授業場所	口腔保健学科 第3 講義室・演習室

学習目標

顎・口腔・顔面領域の運動および感覚の健全な発達を支援する必要性、および様々な顎口腔機能訓練の役割とその実際を理解する。

到達目標

- ・顎口腔機能発達の遅滞に対する支援を説明できる。
- ・顎口腔機能の発達に影響を及ぼす習癖などを説明できる。
- ・顎口腔機能の発達における哺乳・離乳、摂食の重要性を説明できる。
- ・口腔筋機能療法を概説できる。
- ・摂食・嚥下機能の発達障害を概説できる。
- ・重症障害児の摂食訓練を概説できる。
- ・顎口腔の先天異常における摂食機能への影響を説明できる。
- ・唇顎口蓋裂児における Hotz 床の役割を概説できる。
- ・発音機能の発達とその異常を概説できる。
- ・構音障害とその診査法・訓練法を概説できる。

授業計画 3 年前期・選択 1 単位・15 時間

回	授業題目	授業内容
1, 2	摂食・嚥下機能の発達、非栄養的吸啜行動と口腔習癖	発育の原則，機能の発達と習熟，哺乳の発達，相互作用の意義，成人の摂食・嚥下過程、非栄養的吸啜行動の背景と発育への影響，歯科からのアプローチ
3, 4	口腔筋機能療法の基本理論と流れ	口腔筋機能療法の概説，促通法，筋機能訓練，行動変容療法，理論と訓練法の組立、包括的歯科における口腔筋

		機能療法の応用
5, 6	口腔筋機能の評価法と口腔筋機能療法の手技	摂食・嚥下過程での顎舌協調運動の評価、口腔機能の障害とパラファンクション、筋触診、摂食・嚥下課程の簡易評価、低位舌と口唇閉鎖、姿勢、評価法と手技の演習
7, 8	発音機能の発達と遅滞、言語治療の概要	発音機能の正常な発達と異常、顎口腔の先天異常と言語機能、機能性構音障害と治療法、症例供覧
9, 10	構音障害とその訓練	器質性構音障害と治療法、口蓋裂に伴う構音障害と言語治療、鼻咽腔閉鎖機能の診査と評価、スピーチエイドとパラタルリフト、症例供覧
11-13	摂食・嚥下機能の遅滞、重症障害児の摂食訓練	発達の遅れの原因、遅滞を助長する外部環境因子、異常パターンの定着、食事環境の整備、脱感作、介助の姿勢、顎・頭部の固定とコントロール、食物の調理形態、嚥下促進法、バンゲード法
14, 15	先天異常と顎口腔機能、唇顎口蓋裂児における Hotz 床の役割	顎口腔の先天異常と摂食機能の発達、唇顎口蓋裂児の哺乳と離乳、Hotz 床の目的・構造および治療効果、家族・本人への精神的支援

評価方法

必要に応じてレポートの提出を課すとともに、期末の客観試験、記述試験で総括的評価を行う。
出席状況、授業態度を総括的評価に加味する。

参考図書等

- ・食べる機能の障害 金子芳洋編 医歯薬出版
- ・最新歯科衛生士教本「障害者歯科」 全国歯科衛生士教育評議会編 医歯薬出版
- ・口腔の成育をはかる 1, 2, 3 佐々木洋編 医歯薬出版
- ・口腔筋機能療法の実践 高橋未哉子 クインテッセンス出版
- ・口唇口蓋裂の理解のために―すこやかな成長を願って― 夏目長門、鈴木俊夫 医歯薬出版
- ・言語聴覚療法シリーズ 8・器質性構音障害 斉藤裕恵編 建帛社
- ・口蓋裂の言語治療 岡崎恵子他 医学書院

留意事項

事前に資料の配布、e-learning へのアップロード等があった場合には、予習して授業に臨むこと。

科目名	口腔保健衛生臨床実習
ユニット名	発達育成系口腔保健衛生臨床実習
授業形態	実習
開講時期・単位・時間数	3 学年後期・必修・140 時間 4 学年前期・必修・40 時間 単位認定（4 単位）は 4 学年前期（40 時間）終了時に行う
科目・ユニット責任者	木下淳博・近藤圭子
授業担当者	木下淳博、寺岡加代、石川雅章、下山和弘、吉増秀實、坂本裕次郎、遠藤圭子、近藤圭子、吉田直美、堀江明子、山崎美幸・岡田昌子・河野章江・藤田直子（非常勤講師・歯科衛生士）、佐々木好幸（口腔保健教育研究センター）、大学院医歯学総合研究科臨床系教員、歯学部附属病院臨床系教員・職員
主な授業場所	歯学部附属病院内 （初回のガイダンスは成人口腔保健衛生臨床実習にて行う）

学習目標

歯科診療施設において、発達期にある乳幼児から青少年およびその保護者に対し、チーム医療の一員として、歯科予防処置・歯科保健指導・歯科診療補助を実践するために必要な態度・知識・技能を修得する。

到達目標

- ・ 患児の身体的・精神的・社会的苦痛に配慮し、問題点を抽出・整理できる。
- ・ 患児および保護者の不安・不満に適切に対応できる。
- ・ 歯科診療時に示す患児の行動とその変容に適切に対応できる。
- ・ 歯科ユニット各部の名称と機能を説明できる。
- ・ 発達期の歯科診療に必要な器材を説明できる。
- ・ 診療室への患児および保護者の誘導を適切にできる。
- ・ 患児および保護者に挨拶して自己紹介できる。
- ・ 患児および保護者との信頼関係を築くことができる。
- ・ 個人的、社会的背景等が異なる患児および保護者に、わけへだてなく対応できる。
- ・ 患児および保護者の価値観が多様であることを認識し、柔軟に対応できる。
- ・ 必要な情報を整理し、わかりやすい口頭説明と文書を準備できる。
- ・ 説明を行うために適切な時期・場所・機会に配慮できる。
- ・ 患児および保護者からの質問に適切に応え、その様々な反応に柔軟に対応できる。

- ・医療事故や潜在的医療事故（ニアミス）に関する情報を共有し、再発防止に役立てることができる。
- ・インフォームドコンセントを行うことができる。
- ・乳幼児から青少年に対し、歯科予防処置を実施できる。
- ・乳幼児から青少年およびその保護者に対し、歯科保健指導を実施できる。
- ・乳幼児から青少年の歯科診療に際し、診療補助を実施できる。

授業計画 3 学年後期・必修・140 時間

回	授業題目	授業内容
1-24	臨床実習ガイダンス および予備実習	臨床実習ガイダンス、小児歯科外来、歯科放射線外来、中央器材室、学外実習等に関するオリエンテーション
25-71	小児歯科外来実習	小児歯科外来における歯科診療補助
72-94	歯科放射線外来実習	歯科放射線外来における歯科診療補助
95-117	中央器材室実習	中央器材室における歯科診療室管理業務実習
118-140	学外実習	学外歯科診療室における歯科診療補助

評価方法

実習記録等により総括的評価を行う。

実習態度を総括的評価に加味する。

参考図書等

- ・新歯科衛生士教本「歯科臨床概論」 全国歯科衛生士教育協議会編 医歯薬出版
- ・新歯科衛生士教本「歯科保健指導」 全国歯科衛生士教育協議会編 医歯薬出版
- ・新歯科衛生士教本「小児歯科学」 全国歯科衛生士教育協議会編 医歯薬出版
- ・新歯科衛生士教本「歯科放射線学」 全国歯科衛生士教育協議会編 医歯薬出版
- ・新歯科衛生士教本「歯科診療補助 歯科器械の知識と取り扱い」 全国歯科衛生士教育協議会編 医歯薬出版
- ・新歯科衛生士教本「歯科診療補助 歯科材料の知識と取り扱い」 全国歯科衛生士教育協議会編 医歯薬出版

留意事項

附属病院等では服装、態度等に留意すること。不適切な場合は実習停止とする場合がある。

科目名	口腔保健衛生臨床実習
ユニット名	成人口腔保健衛生臨床実習Ⅰ
授業形態	実習
開講時期・単位・時間数	3 学年後期・必修 6 単位・270 時間
科目・ユニット責任者	木下淳博・近藤圭子
授業担当者	木下淳博、寺岡加代、石川雅章、下山和弘、吉増秀實、坂本裕次郎、遠藤圭子、近藤圭子、吉田直美、堀江明子、山崎美幸・岡田昌子・河野章江・藤田直子（非常勤講師・歯科衛生士）、佐々木好幸（口腔保健教育研究センター）、大学院医歯学総合研究科臨床系教員、歯学部附属病院臨床系教員・職員
主な授業場所	歯学部附属病院内 （初回ガイダンスは口腔保健学科第3講義室）

学習目標

主に成人に対し、対象者本位のニーズに即した活動を展開するために必要な歯科予防処置・歯科保健指導・歯科診療補助に関わる態度・知識・技能を修得する。

到達目標

- ・対象者の身体的・精神的・社会的苦痛に配慮し、問題点を抽出・整理できる。
- ・対象者の不安・不満や表情・行動の変化に適切に対応できる。
- ・対象者に挨拶して自己紹介できる。
- ・診療室への患者の誘導を適切にできる。
- ・対象者との信頼関係を築くことができる。
- ・歯科ユニット各部の名称と機能を説明できる。
- ・診療に必要な器材を説明できる。
- ・個人的、社会的背景等が異なる対象者に、平等に対応できる。
- ・対象者の価値観が多様であることを認識し、柔軟に対応できる。
- ・必要な情報を整理し、わかりやすい口頭説明ができる。
- ・説明を行うために適切な時期・場所・機会に配慮できる。
- ・対象者からの質問に適切に応え、その様々な反応に柔軟に対応できる。
- ・医療事故や潜在的医療事故（ニアミス）に関する情報を共有し、再発防止に役立てることができる。
- ・インフォームドコンセントを行うことができる。
- ・主に成人に対し、歯科予防処置を実施できる。
- ・主に成人に対し、歯科保健指導ができる。

- ・主に成人に対し、歯科診療の補助ができる。

授業計画 3 学年後期・必修 6 単位・270 時間

回	授業題目	授業内容
1-45	臨床実習ガイダンス および予備実習	臨床実習ガイダンス、口腔ケア外来、むし歯外来、歯周病外来、義歯外来、口腔外科外来等におけるオリエンテーション
46-135	口腔ケア実習	患者さんを担当した歯科予防処置、歯科保健指導
136-180	むし歯外来実習	むし歯外来における歯科診療補助
181-225	歯周病外来実習	歯周病外来における歯科診療補助
226-248	義歯外来実習	義歯外来における歯科診療補助
249-270	口腔外科外来実習	口腔外科外来における歯科診療補助

評価方法

実習記録、患者さんへのリーフレット等により総括的評価を行う。

実習態度を総括的評価に加味する。

参考図書等

- ・新歯科衛生士教本「歯科臨床概論」 全国歯科衛生士教育協議会編 医歯薬出版
- ・新歯科衛生士教本「歯科保健指導」 全国歯科衛生士教育協議会編 医歯薬出版
- ・新歯科衛生士教本「保存修復学・歯内療法学」 全国歯科衛生士教育協議会編 医歯薬出版
- ・新歯科衛生士教本「歯周治療学」 全国歯科衛生士教育協議会編 医歯薬出版
- ・新歯科衛生士教本「歯科補綴学」 全国歯科衛生士教育協議会編 医歯薬出版
- ・新歯科衛生士教本「口腔外科学・歯科麻酔学」 全国歯科衛生士教育協議会編 医歯薬出版
- ・新歯科衛生士教本「歯科診療補助 歯科器械の知識と取り扱い」 全国歯科衛生士教育協議会編 医歯薬出版
- ・新歯科衛生士教本「歯科診療補助 歯科材料の知識と取り扱い」 全国歯科衛生士教育協議会編 医歯薬出版

留意事項

附属病院等では服装、態度等に留意すること。不適切な場合は実習停止とする場合がある。

科目名	地域口腔保健衛生臨地実習
ユニット名	地域口腔保健衛生臨地実習
授業形態	実習
開講時期・単位・時間数	3 学年前期・必修・31 時間 3 学年後期・必修・14 時間 4 学年前期・必修・45 時間 単位認定（2 単位）は 4 学年前期（45 時間）終了時に行う
科目・ユニット責任者	下山和弘・遠藤圭子
授業担当者	寺岡加代、石川雅章、吉増秀實、遠藤圭子、近藤圭子、吉田直美
主な授業場所	口腔保健学科 第3 講義室、保育園、幼稚園、小学校、病院

学習目標

- ・地域保健活動を展開するために必要な知識、技術、態度を習得して、実践力を養う。

到達目標

- ・地域における口腔保健活動を説明できる。
- ・地域のニーズに即した活動が展開できる。
- ・集団を対象とした健康教育の計画立案ができる。
- ・健康教育を実施し、プログラム、対象者の反応などを評価できる。

授業計画

3 学年前期・必修・31 時間

回	授業題目	授業内容
1-3	学外実習の意義 集団対象の健康指導Ⅰ ①事前調査計画	学外実習について 質問紙調査（調査時の注意、質問文作成、レイアウト、データ水準、分析等）
4-6	集団対象の健康指導Ⅰ ②調査集計 ③アセスメント、診断、計画立案	集計、報告書作成 情報収集、健康指導計画立案
7-9	集団対象の健康指導Ⅰ ④仕上げ、物品の確認、準備	リハーサル、評価と修正
10-12	集団対象の健康指導Ⅰ	小学校における集団指導実習、事後評価、

	学外実習	実習報告書の作成
13	海外の歯科衛生事情	スウェーデンの歯科衛生活動の現状
14-16	集団対象の健康指導Ⅱ ①調査集計 ②アセスメント、診断、計画立案	集計、報告書作成 情報収集、健康指導計画立案
17-20	フッ化物塗布実習準備、媒体作成	フッ化物の局所応用、必要物品の準備、健康教育準備
21-24	フッ化物塗布実習	フッ化物塗布の実際
25-27	集団対象の健康指導Ⅱ ③仕上げ、使用物品の確認、準備	リハーサル、評価と修正
28-31	集団対象の健康指導Ⅱ 学外実習 保育園における集団指導	実習、事後評価、実習報告書の作成

3 学年後期・必修・14 時間

回	授業題目	授業内容
32-36	総合病院歯科・口腔外科における活動の実際	総合病院の現状と受診患者概要、歯科・口腔外科の役割、専門職種の協働
37-41	〃	歯科・口腔外科の基礎情報の把握、患者誘導、術後指導
42-45	〃	歯科診療補助の実際、配慮事項

評価方法

報告書、出席状況を基に総括的評価を行う。

実習態度、受け入れ先の評価を総括的評価に加味する。

留意事項

事前の配付資料は、繰り返し読んで、確認して実習に臨むこと。

服装、態度、言葉遣いに留意する。

実習への取り組み、出席状況、報告書の提出状況などが不適切な場合には、実習停止とすることがある。

科目名	特論（卒業研究）
ユニット名	特論（卒業研究）
授業の形態	演習
開講時期・単位・時間数	3 学年後期・必修・60 時間 4 学年前後期・必修・120 時間 単位認定（6 単位）は 4 学年前後期（120 時間）終了時に行う
科目・ユニット責任者	石川 雅章
授業担当者	口腔保健学科、口腔保健教育研究センター、歯学科教員
主な授業場所	口腔保健学科第 1 講義室、修士課程講義室

学習目標

各学生の知的興味、将来の方向性に沿ってテーマを選択し、計画・立案に基づいて研究を実施する。さらに結果を論文にまとめて十分考察することにより、研究への理解と意欲を培う。

到達目標

- ・自分の知的興味、将来の方向性に沿って研究テーマが設定できる。
- ・研究テーマに対応した論文の検索と科学的吟味を行い、これまでの知見が整理できる。
- ・EBM・EBHC の概念を説明できる。
- ・知見や問題点に基づいた研究の計画・立案ができる。
- ・実験・調査などの研究を実施できる。
- ・実験・調査などの結果を分析整理し、統計学的な解析ができる。
- ・結果に基づき、新たな問題点と課題を抽出、提起できる。
- ・一連の研究成果を論文にまとめ、発表できる。

授業計画 3 学年後期・必修・60 時間

回	授業題目	授業内容
1, 2	卒業研究オリエンテーション	卒業研究の概要、これまでの卒業研究の紹介、口腔保健学科指導教員の研究テーマ紹介、研究分野とテーマの検討
3, 4	研究のデザイン	Evidence-based Medicine (EBM), Evidence-based Health Care (EBHC) とは、論文の構成、文献の検索と引用、文献の科学的吟味
5, 6	研究計画立案、結果の整理	実験ノート、調査アンケート作成上の注意、倫理

		上の問題、個人情報の管理、結果の入力方法とエクセルの使い方
7, 8	研究結果の分析処理	研究結果の分析方法、有意性の検定、統計ソフトの使い方の実際
9, 10	研究計画の検討	研究テーマ、研究計画・方法の検討と仮決定、研究分野・指導教官の決定、研究計画書の作成
11-23	研究計画の吟味と決定	指導教官との打ち合わせによる研究計画・方法の再検討と決定、検索文献の吟味と知見の整理、研究計画書の校正
24-26	研究計画発表会 1	選択した研究テーマの知見、問題点に基づいた研究計画の発表と討論
27-30	研究計画発表会 2	選択した研究テーマの知見、問題点に基づいた研究計画の発表と討論
31-60	研究の実施	発表会の討論を加味した研究計画書の再作成、研究計画に沿った研究実施の開始

評価方法

研究計画発表会での発表、および研究計画書により総括的中間評価を行う。

参考図書等

- ・「保健・医療のための研究法入門」、朝倉隆司監訳、協同医書出版社
- ・「SPSS による医学・歯学・薬学のための統計解析」第2版、石村貞夫他著、東京図書

留意事項

- ・常に指導教員と密接な連絡をとり、助言を得ながら研究を進めること。
- ・平成 21 年 6 月上旬に研究中間報告会を行う。
- ・平成 21 年 12 月上旬に研究結果概要を提出し、研究最終報告会を行う。
- ・平成 21 年 12 月 18 日(金)までに卒業研究論文を e-learning 上で提出すること。

科目名	障害者福祉論 I
ユニット名	障害者福祉論 I
授業形態	講義
開講時期・単位・時間数	3 学年前期・必修 1 単位・15 時間
科目・ユニット責任者	杉本久美子
授業担当者	田中恵美子
主な授業場所	口腔保健学科 第3講義室

学習目標

- ・わが国の障害者福祉とその周辺施策の現状と課題を理解する。
- ・障害者の自立生活と社会参加に向けた支援のあり方を理解する。
- ・障害者施策における国際的動向を理解し、自らの障害を捉える視点のあり方について考える。

到達目標

- ・障害の概念と障害者福祉の基本的理念を説明できる。
- ・障害児者の生活実態を把握し、障害児者の生活問題を説明できる。
- ・障害者福祉の史的展開と近年の改革について説明できる。
- ・障害者福祉の法とサービスの体系およびその具体的内容について説明できる。
- ・障害児者へのライフステージに応じた支援のあり方を説明できる。
- ・障害者運動、セルフヘルプグループなど、障害当事者の活動の意義について説明できる。
- ・終末期医療を含む障害をめぐる現代的課題について説明できる。

授業計画 3 学年前期・必修 1 単位・15 時間

回	授業題目	授業内容
1	イントロダクション	「障害」とは何か
2, 3	障害の概念	障害の個人モデルと社会モデル
4-6	障害者福祉の基本理念	ノーマライゼーション、エンパワーメント
7-12	対象理解	障害のある人たちを理解する体験
13-15	現在の障害者施策	障害者自立支援法の仕組

評価方法

期末試験、毎回のリアクションペーパー、出席状況、授業態度、課題レポートにより総合的に評価

する。

参考図書等

- ・「新版 社会福祉士養成講座 ③障害者福祉論」福祉士養成講座編集委員会編 中央法規
- ・その他、随時授業中に紹介する。

留意事項

事前に資料の配付、e-learning システム上へのアップロード等があった場合は、各自予習して授業に臨むこと。講義における質疑応答やグループディスカッションには主体的に参加し、学ぶ意欲を持って授業に参加することを望む。

科目名	障害者福祉論Ⅱ
ユニット名	障害者福祉論Ⅱ
授業形態	講義
開講時期・単位・時間数	3 学年前期・選択・27 時間 3 学年後期・選択・18 時間 } 3 単位
科目・ユニット責任者	杉本久美子
授業担当者	田中恵美子
主な授業場所	口腔保健学科 第3 講義室

学習目標

- ・わが国の障害者福祉とその周辺施策の現状と課題を理解する。
- ・障害者の自立生活と社会参加に向けた支援のあり方を理解する。
- ・障害者施策における国際的動向を理解し、自らの障害を捉える視点のあり方について考える。

到達目標

- ・障害の概念と障害者福祉の基本的理念を説明できる。
- ・障害児者の生活実態を把握し、障害児者の生活問題を説明できる。
- ・障害者福祉の史的展開と近年の改革について説明できる。
- ・障害者福祉の法とサービスの体系およびその具体的内容について説明できる。
- ・障害児者へのライフステージに応じた支援のあり方を説明できる。
- ・障害者運動、セルフヘルプグループなど、障害当事者の活動の意義について説明できる。
- ・終末期医療を含む障害をめぐる現代的課題について説明できる。

授業計画

3 学年前期・選択・27 時間

回	授業題目	授業内容
1-3	障害者福祉施策と障害者の生活の歴史 1	戦前～1970 年代まで
4-6	障害者福祉施策と障害者の生活の歴史 2	1970 年代から現代まで
7-9	障害者福祉施策と障害者の生活の歴史 3	対象者に即して（身体、知的、精神、難病）

10-12	障害者福祉施策と障害者の生活の歴史 4	国際的動向 障害者権利条約まで
13	障害と向き合う 1	あなたが障害と出会うとき
14	障害と向き合う 2	優生思想、出生前診断
15	障害と向き合う 3	障害者の手帳制度
16	障害児支援 1	子どもの障害の告知と支援
17	障害児支援 2	療育制度とサービス
18	障害児支援 3	特殊教育の歴史と現状
19	障害児支援 4	発達障害児への支援
20, 21	障害学生支援	障害学生支援システムの現状
22, 23	障害者の雇用・就労支援 1	就労施策の歴史と現状
24, 25	障害者の雇用・就労支援 2	国際的動向（ADA, DDA 他差別禁止法）
26, 27	障害者の経済的支援	所得保障制度の歴史と現状、今後の展望

3 学年後期・選択・18 時間

回	授業題目	授業内容
28, 29	障害者の生活環境整備 1	福祉のまちづくり、バリアフリー、ユニバーサルデザイン、ハートビル法、交通バリアフリー法
30, 31	障害者の生活環境整備 2	障害者自立支援法と地域サービス実施主体
32, 33	地域生活をサポートする 1	障害当事者組織の活動
34, 35	地域生活をサポートする 2	専門職支援（地域移行、在宅支援）
36, 37	地域生活をサポートする 3	成年後見制度の仕組み
38, 39	施設での生活	各種施設サービスの現状
40, 41	終末期医療と障害 1	在宅と施設の狭間で生きる
42, 43	終末期医療と障害 2	生き続けることと社会制度
44, 45	まとめ	これからの障害者福祉の課題と展望

評価方法

期末試験、毎回のリアクションペーパー、出席状況、授業態度、課題レポートにより総合的に評価する。

参考図書等

- ・「新版 社会福祉士養成講座 ③障害者福祉論」福祉士養成講座編集委員会編 中央法規
- ・その他、随時授業中に紹介する。

留意事項

事前に資料の配付、e-learning システム上へのアップロード等があった場合は、各自予習して授業に臨むこと。講義における質疑応答やグループディスカッションには主体的に参加し、学ぶ意欲を持って授業に参加することを望む。

科目名	老人福祉論Ⅱ
ユニット名	老人福祉論Ⅱ
授業形態	講義
開講時期・単位・時間数	3 学年前期・選択・30 時間 3 学年前期（夏季集中）・選択・15 時間 単位認定（3 単位）は3 学年前期（45 時間）終了時に行う
科目・ユニット責任者	杉本久美子
授業担当者	山田知子（大正大学）
主な授業場所	口腔保健学科 第3 講義室

学習目標

高齢者および高齢者福祉の現状を理解する。

到達目標

- ・ 高齢者の精神的・身体的特徴、障がいを理解できる。
- ・ 高齢者福祉の理念を理解できる。
- ・ 高齢者の生活をトータルに把握し、生活課題、問題を理解できる。
- ・ 高齢者関連法およびサービスについて理解できる。
- ・ 高齢者の権利擁護について理解できる。

授業計画 3 学年前期・選択・30 時間

回	授業題目	授業内容
1	オリエンテーション	本講義のねらい等
2	老いるとは	老いる、障がいをもつ、死などについて当事者の視点から考える。
3	高齢社会の現状 1	世界の高齢化
4	〃 2	国連の取り組み等
5	〃 3	我が国の高齢化の状況 人口・世帯
6	高齢者の生活実態 1	疾病や障がい、家族、近隣関係、社会参加
7	〃 2	就労、経済状況、住宅、地域環境、大都市圏、地方
8	高齢者の生活支援のあり方 1	要介護高齢者の生活の実際

9	高齢者の生活支援のあり方 2	介護の理念
10	〃 3	認知症や終末期のあり方
11	高齢者福祉政策の展開 1	戦前期 養老院
12	〃 2	戦後1 戦後の混乱期
13	〃 3	戦後2 高度経済成長から低成長へ
14	〃 4	戦後3 ～臨調行革
15	〃 5	戦後4 ～介護保険法まで
16	〃 6	戦後5 ～介護保険法改正
17	高齢者福祉関連法 1	老人福祉法
18	〃 2	老人保健法、後期高齢者医療制度
19	〃 3	介護保険法 1
20	〃 4	〃 2
21	〃 5	〃 3
22	〃 6	〃 4
23	〃 7	高齢社会対策基本法
24	〃 8	福祉用具法
25	〃 9	成年後見制度
26	〃 10	高齢者虐待防止法
27	高齢者保健福祉サービス 1	特養、老人保健施設、有料老人ホーム
28	〃 2	認知症グループホーム
29	〃 3	訪問介護、看護
30	〃 4	地域包括支援センター

3 学年前期（夏季集中）・選択・15 時間

31	地域包括支援センター 1	地域包括支援センターのさまざまな役割
32	〃 2	事例研究 ケアマネジメントの実際
33	〃 3	事例研究
34	〃 4	事例研究 虐待、総合相談
35	〃 5	事例研究

36	〃 6	事例研究
37	高齢者福祉現場の実際 1	特養、デイ・サービス
38	〃 2	ショートステイ、ケアハウス
39	〃 3	グループホーム
40	〃 4	老人保健施設
41	〃 5	通所リハビリ
42	〃 6	老人保健施設における口腔ケアの実際
43、44	高齢者福祉現場と人材	福祉、介護現場で働く人々の労働条件、環境の問題点
45	まとめ	まとめ

評価方法

出席 50 %、レポート 10 %、試験 40 %で総括的評価を行う。

参考図書等

- ・高齢社会白書（平成 19 年度版）内閣府
- ・「老人福祉論」社会福祉学習双書新版 全国社会福祉協議会

参考文献

随時提示する。

留意事項

授業展開やゲスト、現場等の都合で、内容が変更されることがある。

科目名	地域福祉論Ⅰ
ユニット名	地域福祉論Ⅰ
授業形態	講義
開講時期・単位・時間数	3 学年前期・必修 1 単位・15 時間
科目・ユニット責任者	杉本久美子
授業担当者	黒岩亮子（日本女子大学）
主な授業場所	口腔保健学科 第1講義室

学習目標

- ・今日の社会において「地域福祉の推進」が必要とされる背景を理解し、具体的な事例を取り上げながら、その現状（地域福祉にかかわる活動や政策）を学び、今後のあり方について考察する。
- ・ボランティア活動や NPO 活動などの住民による活動に焦点をあて、自ら住みよい地域をつくっていく主体であることを理解する。

到達目標

- ・日本における地域福祉の歴史を説明できる。
- ・民生委員・児童委員、社会福祉協議会、ボランティア、NPO、NGO など、地域福祉を推進する機関や人びとについて説明できる。
- ・地域で行われている様々な住民による活動の実態や課題について説明できる。
- ・地域福祉計画の策定された経緯やその内容について説明できる。
- ・住民の活動と行政の協働のあり方など、今後の地域福祉の方向性について考察できる。

授業計画 3 学年前期・必修 1 単位・15 時間

回	授業題目	授業内容
1	イントロダクション 1	「地域福祉」とは何か～福祉のイメージを探る
2	イントロダクション 2	「地域」と「福祉」の関係性
3	地域の問題とは何か	「孤独死」にみる地域の変化
4	家族と地域の変化	家族・地域の変化と新たな動き
5	地域福祉の歴史 1	日本の地域における相互扶助とコミュニティの概念
6	地域福祉の歴史 2	住民参加型在宅福祉サービス活動
7	地域福祉の歴史 3	COS 活動とセツルメント活動

8	地域福祉の歴史 4	日本における社会事業家の活動からボランティア元年まで
9	地域福祉を支える機関・人びと 1	社会福祉協議会の働き
10	地域福祉を支える機関・人びと 2	民生委員・児童委員の働き
11	NPO 活動の実態	NPO 法制定の経緯と実態
12	NPO 活動の課題	具体的事例から考える
13	住民と行政の協働 1	地域福祉計画の策定
14	住民と行政の協働 2	住民参加による福祉のまちづくり ～ワークショップを体験する
15	まとめ	ミニテスト

評価方法

成績評価は、出席状況、授業への参加態度、ミニテスト、レポート提出などにより、総合的評価を行う。

参考図書等

- ・「現代日本の人間関係～団塊ジュニアからのアプローチ」 高橋勇悦 他著 学文社 2007 年
- ・そのほか、授業時にプリントを配付する。

留意事項

私語はつつしみ、積極的に授業に参加すること。

今日、「住みよい地域を自分たちの手でつくること」「地域の様々な問題を自分たちの手で解決すること」が目指され、住民による様々な活動が行われるようになっている。また、地域福祉計画の策定が各市区町村に義務付けられるなど、「地域福祉の推進」は今日の社会にとって大きな課題となっている。このように今日の課題となっている地域福祉について理解を深めてもらいたい。

科目名	地域福祉論Ⅱ
ユニット名	地域福祉論Ⅱ
授業形態	講義
開講時期・単位・時間数	3 学年前期・選択 1 単位・15 時間
科目・ユニット責任者	杉本久美子
授業担当者	黒岩亮子（日本女子大学）
主な授業場所	口腔保健学科 第1講義室

学習目標

- ・今日の社会において「地域福祉の推進」が必要とされる背景を理解し、具体的な事例を取り上げながら、その現状（地域福祉にかかわる活動や政策）を学び、今後のあり方について考察する。
- ・ボランティア活動や NPO 活動などの住民による活動に焦点をあて、自ら住みよい地域をつくっていく主体であることを理解する。

到達目標

- ・日本における地域福祉の歴史を説明できる。
- ・民生委員・児童委員、社会福祉協議会、ボランティア、NPO、NGO など、地域福祉を推進する機関や人びとについて説明できる。
- ・地域で行われている様々な住民による活動の実態や課題について説明できる。
- ・地域福祉計画の策定された経緯やその内容について説明できる。
- ・住民の活動と行政の協働のあり方など、今後の地域福祉の方向性について考察できる。

授業計画 3 学年前期・選択 1 単位・15 時間

1	地域福祉の主流化	社会福祉法を読む～なぜ「地域福祉の推進」なのか改めて考える
2	市民社会とは何か①	ボランティア大国～アメリカの事例から（ビデオ）
3	市民社会とは何か②	討論
4	地域福祉論のまとめ①	戦後社会福祉の発展と考え方
5	地域福祉論のまとめ②	イギリスの4つの報告書を中心に
6	地域福祉論のまとめ③	地域福祉に関する法と整備
7	地域福祉論のまとめ④	社会福祉基礎構造改革後の社会福祉の特徴を中心に
8	地域福祉論のまとめ⑤	地域福祉計画の意義と内容

9	地域福祉論のまとめ⑥	地域福祉活動計画、地域福祉計画、地域福祉支援計画の違い
10	新しいボランティア活動	ホームレスへのボランティアの事例から（ビデオ）
11	ボランティアの課題	討論
12	新市民としての活動①	身近な活動についての事例発表会
13	新市民としての活動②	討論
14	新市民としての活動③	これからのボランティア、NPO、社会的企業などのあり方
15	まとめ	ミニテスト

評価方法

成績評価は、出席状況、授業への参加態度、ミニテスト、レポート提出などにより、総合的評価を行う。

参考図書等

- ・「現代日本の人間関係～団塊ジュニアからのアプローチ」 高橋勇悦 他著 学文社 2007 年
- ・そのほか、授業時にプリントを配付する。

留意事項

私語はつつしみ、積極的に授業に参加すること。

今日、「住みよい地域を自分たちの手でつくること」「地域の様々な問題を自分たちの手で解決すること」が目指され、住民による様々な活動が行われるようになっている。また、地域福祉計画の策定が各市区町村に義務付けられるなど、「地域福祉の推進」は今日の社会にとって大きな課題となっている。このように今日的課題となっている地域福祉について理解を深めてもらいたい。

科目名	社会福祉援助技術論
ユニット名	社会福祉援助技術論
授業形態	講義
開講時期・単位・時間数	2 学年後期・選択・70 時間 3 学年前期・選択・42 時間 3 学年前期（夏季集中）・選択・8 時間 } 8 単位 単位認定（8 単位）は3 学年前期終了時に行う
科目・ユニット責任者	杉本久美子
授業担当者	山本美香（淑徳大学）
主な授業場所	口腔保健学科 第3 講義室

学習目標

社会福祉援助技術の一つであるコミュニティワークの原理と展開過程を実際の活動に即して理解する。また、地域ニーズを把握するための社会福祉調査の手法と種類を学び、重要性について理解する。

到達目標

- ・コミュニティワークの原則と意義を理解する
- ・コミュニティワークの定義とその変遷を説明できる。
- ・コミュニティワークの展開過程を説明できる。
- ・コミュニティワークの具体的な実践活動に関して、事例を通して理解する。
- ・社会福祉調査の目的・種類・手法について理解する。
- ・国家試験に対応できる知識を身につける。

授業計画

3 学年前期・選択・42 時間

回	授業題目	授業内容
1-3	コミュニティワークとは何か	コミュニティワークの定義、間接援助技術としてのコミュニティワーク
4-6	コミュニティワークの特性	ケースワーク、グループワークとの共通点と相違点
7-9	コミュニティワークの原則	活動の原則
10-12	コミュニティワークの歴史	イギリスの COS、セツルメントなど、コミュニティワークの源流について

13-15	コミュニティワークの定義の変遷	コミュニティワークの定義とその変遷～特にロスマンの定義を中心として
16-18	コミュニティワークの展開過程	コミュニティワーク実践のプロセスについて
19-21	コミュニティワークの具体的展開 1	コミュニティワークを行う際に必要な援助技術について
22-24	コミュニティワークの具体的展開 2	同上
25-27	事例検討 1	具体的な事例を用い、グループディスカッションなどを通じて、コミュニティワークのあり方を検討する。
28-30	事例検討 2	同上
31-33	社会福祉調査の目的と意義	社会福祉調査の目的と意義について
34-36	社会福祉調査の種類と方法 1	社会福祉調査の種類
37-39	社会福祉調査の種類と方法 2	社会福祉調査の方法
40-42	社会福祉調査の種類と方法 3	統計調査と事例調査～その特性

3 学年前期(夏季集中)・選択・8 時間

回	授業題目	授業内容
43-45	調査票を作成する 1	実際の調査票を作成する
46-50	調査票を作成する 2	発表

評価方法

通常の試験に、授業中の態度、グループディスカッションへの参加の度合いなどの日常点を加味して評価する

参考図書等

- ・教科書：社会福祉士養成講座「社会福祉援助技術Ⅱ」中央法規出版
- ・授業中に随時、資料を配布する

留意事項

授業中の私語や居眠りなどないように注意されたい。また、グループディスカッションの際には、積極的に参加すること

科目名	社会福祉援助技術演習
ユニット名	社会福祉援助技術演習
授業形態	演習
開講時期・単位・時間数	3 学年前期・選択・45 時間 3 学年前期（夏季集中）・選択・8 時間 3 学年後期・選択・67 時間 単位認定（4 単位）は 3 学年後期終了時に行う
科目・ユニット責任者	杉本久美子
授業担当者	大溝茂（桜美林大学）、田中恵美子
主な授業場所	口腔保健学科 第3 講義室

学習目標

- ・社会福祉援助技術の重要性を理解し、その内容と技術を修得する。
- ・自分自身の長所と短所が分かる。
- ・援助の対象者に対するプライバシーへの配慮（守秘義務）ができる。
- ・保健、医療、福祉関連専門職種とのチームワークの重要性を理解し、チームメンバーとしての自覚を高める。
- ・これまでの社会福祉関連授業による知識を用いて、実習先の特徴を理解する。
- ・実習における自らの課題を明らかにし、目標に合致した実習先の選択に向けた準備を行う。

到達目標

- ・戦後の社会福祉実践の位置とソーシャルワーカーの位置を説明できる。
- ・ソーシャルワーク実践の展開過程が説明できる。
- ・自分自身を受け入れられ、利用者との援助関係（境界）が説明できる。
- ・社会福祉の専門性と倫理的配慮、プライバシーへの配慮（守秘義務）を説明できる。
- ・各種社会福祉施設の特徴を理解できる。
- ・現在求められている社会福祉専門職像について理解できる。

授業計画

3 学年前期・選択・45 時間

回	授業題目	授業内容
1-3	社会福祉援助技術演習の理解	①社会福祉実践と社会福祉援助技術技術 ②社会援助技術演習とは何か～演習の目的・意義～

4-6	社会福祉援助技術基礎（１）	「自己理解」について～「自分」と「他者」～
7-9	社会福祉援助技術基礎（２）	「自己理解」について～自分との出会い～
10-12	社会福祉援助技術基礎（３）	「援助」と「指導」～援助・支援とは何かを考える～
13-15	社会福祉援助技術基礎（４）	コミュニケーションの理解～「言語的コミュニケーション」と「非言語的コミュニケーション」
16-18	社会福祉援助技術基礎（５）	コミュニケーション技法①
19-21	社会福祉援助技術基礎（６）	コミュニケーション技法②
22-24	社会福祉援助技術基礎（７）	社会福祉実践における「価値」と「倫理」①
25-27	社会福祉援助技術基礎（８）	社会福祉実践における「価値」と「倫理」②
28-30	個別援助技術における面接技法	インテーク技法
31-33	個別援助技術におけるアセスメント方法	アセスメントの理解と実際及びニーズ把握と支援目標の把握
34-36	個別援助技術における支援計画作成法	支援計画作成の理論と実際及び支援体制形成とその展開
37-39	個別援助技術における記録・評価技法	記録のまとめ方・記録方法の理論と実際及び支援展開の評価方法
40-42	社会福祉援助実践事例演習（１）	実践事例の理解と研究方法
43-45	社会福祉援助実践事例演習（２）	事例研究の理解と実際

3 年前期（夏季集中）・選択・8 時間

回	授業題目	授業内容
46, 47	社会福祉現場実習理解 1	社会福祉現場実習とは何か
48, 49	社会福祉現場実習理解 2	実習先の種類と実習の可能性
50-53	社会福祉現場実習理解 3	施設見学

3 学年後期・選択・67 時間

回	授業題目	授業内容
54-56	集団援助技術の展開（１）	グループとは何か、力動・相互作用を理解する
57-59	集団援助技術の展開（２）	グループの作り方と展開方法
60-62	集団援助技術の展開（３）	プログラム活動の実際
63-65	集団援助技術の展開（４）	会合の持ち方・進め方

66-68	集団援助技術の展開（５）	グループの成長・発展への支援のあり方
69-71	地域援助技術の展開（１）	地域援助技術の理解と実際～「地域」とは何か～
72-74	地域援助技術の展開（２）	地域ニーズの把握と地域診断方法①
75-77	地域援助技術の展開（３）	地域ニーズの把握と地域診断方法②
78-82	地域援助技術の展開（４）	地域支援計画の策定～社会資源の把握と支援計画～
83-85	地域援助技術の展開（５）	ソーシャルアクションの理論と実際
86-88	地域援助技術の展開（６）	地域援助実践の記録と評価方法
89-91	ケアマネジメント（１）	ケアマネジメントの理論と実際①
92-94	ケアマネジメント（２）	ケアマネジメントの理論と実際②
95-97	組織運営・管理の理論と方法	組織運営・管理とスーパーヴィジョン
98-100	演習総括（まとめ）	社会福祉援助実践の展望と動向
100, 101	個人票の作成指導	個人票の作成、完成
102, 103	実習計画書の作成指導	実習計画書の作成、推敲
104, 105	実習計画書の作成指導	実習計画書の作成、推敲、下書き完成
106, 107	実習先の理解	実習タイプ別グループ討議
108-110	実習先の理解	実習タイプ別グループ討議
110-112	実習計画書の作成指導	事前訪問後、実習計画の最終確認
113-115	実習記録のとり方	実習記録ノートの記載内容と記載の観点、演習
116-118	実習前確認 1	実習中の態度、実習後礼状・まとめの書き方確認
119, 120	実習前確認 2	個人情報保護、リスクマネジメント、実習中の身なり等注意点確認

評価方法

必要に応じレポートの提出を課すとともに、期末の客観試験、記述試験、問題場面試験で総括的評価を行う。出席状況および授業態度を総括的評価に加味する。

科目名	社会福祉援助技術現場実習
ユニット名	社会福祉援助技術現場実習
授業形態	実習
開講時期・単位・時間数	3 学年後期（春季集中）・選択・12 日間（90 時間）以上 単位認定（4 単位）は 4 年の実習（12 日間）終了時に行う
科目・ユニット責任者	杉本久美子
授業担当者	実習先の実習指導者
主な授業場所	社会福祉実習施設・機関

学習目標

現場での実習体験を通して、社会福祉専門職としての仕事をする上で必要な専門知識、専門援助技術および関連知識について理解を深める。

到達目標

- ・福祉ニーズを抱えている個人、家族、小集団、地域などに対する総合的援助過程の中で、現場の実習指導者の指導を得ながら、社会福祉援助技術を活用できる。
- ・スーパービジョンを通して、自己の社会福祉援助者としての実践力を高め、補正することができる。
- ・社会福祉援助技術を活用するに当たっての課題、その解決方法を学び、将来の実践における活用の展望について整理できる。
- ・社会福祉援助技術の実践に必要な知識、技術、態度等を身につける。
- ・各人の実習計画に基づいて実習を遂行できる。

授業計画 3 学年後期（春季集中）・選択・96 時間

実習日程等については、実習受け入れ先と相談の上、決定する。

評価方法

実習計画、実習記録ノート、実習報告書および実習指導者評価表により、総合的に評価する。

科目名	社会福祉援助技術現場実習指導
ユニット名	社会福祉援助技術現場実習指導
授業形態	実習
開講時期・単位・時間数	3 学年後期・選択・23 時間 3 学年後期（春季集中）・選択・14 時間 4 学年前期・選択・47 時間 4 学年後期・選択・6 時間 } 2 単位 単位認定（2 単位）は 4 年（53 時間）終了時に行う
科目・ユニット任者	杉本久美子
授業担当者	田中恵美子、佐原まち子（医療福祉支援センター）、飯田能子（特別養護老人ホーム）、木内浩（社会福祉協議会）、福島一雄（児童養護施設）、小田切涼子（障害者施設）、杉本久美子、堀江明子
主な授業場所	口腔保健学科 第3 講義室・演習室

学習目標

社会福祉施設・機関での現場実習を行う意義を理解し、実習の前から終了後にわたって指導を受け、現場実習を実効性のあるものとする。

到達目標

- ・各社会福祉施設における実習の流れを説明できる。
- ・各施設における実習目標を立てられる。
- ・現場実習における心構え、留意点を説明できる。
- ・実習現場における行動の取り方を身につける。
- ・実習ノートを作成できる。
- ・スーパービジョン・リンケージを説明できる。
- ・実習先の特徴、利用者の特徴について説明できる。
- ・実習内容について発表ができる。
- ・実習終了後の振り返りができ、改善点を見いだせる。

授業計画

3 学年後期・選択・23 時間

回	授業題目	授業内容
1, 2	社会福祉現場実習のオリエンテーション	社会福祉実習施設の説明、社会福祉実習の意義・目的、実習先の決定、個人票作成要領の説明

3-5	社会福祉施設・機関の把握	児童福祉施設（児童養護施設、乳児院）における現状と実習の心得・実習内容
6-8	〃	社会福祉協議会、社会福祉事務所における現状と実習の心得・実習内容
9-11	〃	障害者施設における現状と実習の心得・実習内容
12-14	〃	高齢者福祉施設（特別養護老人ホーム、デイケアセンター、地域包括支援センター等）における現状と実習の心得・実習の内容など
15-17	実習報告会参加	4年生による実習報告会に参加
18-20	〃	4年生による実習報告会に参加
21-23	社会福祉施設・機関の把握	保健医療機関における現状と実習の心得・実習内容

3 学年後期（春季集中）・選択・14 時間

24-30	実習後指導 1	個人面接による実習の振り返り、実習報告書の作成指導等
31-37	実習後指導 2	個人面接による実習の振り返り、実習報告書の作成指導等

評価方法

発表内容、出席状況および授業態度による総合的評価を行う。

参考図書等

随時、「実習の手引き」、「実習記録ノート」等の資料を配付する。

第4学年 授業科目

科目名	社会保障論
授業形態	講義
開講時期・単位・時間数	2 学年前期・必修 2 単位・30 時間 4 学年後期・選択 2 単位・30 時間
科目責任者	杉本久美子
授業担当者	藤林慶子（東洋大学）
主な授業場所	口腔保健学科 第1講義室

学習目標

社会保障の全体、各論を理解し、具体的な質問に答えることができる。

到達目標

- ・ 年金制度を説明できる。
- ・ 医療保険制度を説明できる。
- ・ 介護保険制度を説明できる。
- ・ 雇用保険、労働災害補償保険制度を説明できる。
- ・ 民間保険制度の内容を説明できる。
- ・ 諸外国の社会保障を説明できる。

授業計画 4 学年後期・選択 2 単位・30 時間

回	授業題目	授業内容
1-3	社会保障とはなにか	社会保障の目的等の理解
4-6	社会保障制度の全体の理解	社会保障制度の枠組み理解 社会保障制度全体の国家試験過去問題の理解
7-9	年金制度とはなにか、年金制度の理解	我が国の年金制度の復習 年金制度の国家試験過去問題の理解
10-12	医療保険制度とはなにか、医療制度の理解	我が国の医療保険制度の復習 医療保険制度の国家試験過去問題の理解
13-15	介護保険制度の理解	我が国の介護保険制度の復習 介護保険制度の国家試験過去問題の理解
16-18	雇用保険制度の理解	我が国の雇用保険制度の復習 雇用保険制度の過去問題の理解

19-21	労働災害補償保険制度とはなにか	我が国の労働災害補償保険制度の復習 労働災害補償保険制度の国家試験過去問題の理解
22-24	民間保険制度とはなにか	我が国の民間保険制度の復習 民間保険制度の国家試験過去問題の理解
25-27	自分の生活と社会保障	具体的な例についての社会保障制度に関する考察
28-30	まとめ	まとめ

評価方法

期末の客観試験、論述試験および出席状況で総括的に評価する。

参考図書等

授業時に随時提示する。

科目名	発達口腔保健衛生臨床実習
授業形態	実習
開講時期・単位・時間数	3 学年後期・必修・120 時間 4 学年前期・必修・105 時間 単位認定（5 単位）は 4 学年前期（105 時間）終了時に行う
科目責任者	石川雅章
授業担当者	石川雅章、寺岡加代、木下淳博、下山和弘、吉増秀實、坂本裕次郎、遠藤圭子、近藤圭子、吉田直美、堀江明子、山崎美幸・岡田昌子・河野章江・藤田直子（非常勤講師・歯科衛生士）、佐々木好幸（口腔保健教育研究センター）、大学院医歯学総合研究科臨床系教員、歯学部附属病院臨床系教員・職員
主な授業場所	歯学部附属病院内

学習目標

歯科診療施設において、発達期にある乳幼児から青少年およびその保護者に対し、チーム医療の一員として、歯科予防処置・歯科保健指導・歯科診療補助を実践するために必要な態度・知識・技能を修得する。

到達目標

- ・ 患児の身体的・精神的・社会的苦痛に配慮し、問題点を抽出・整理できる。
- ・ 患児および保護者の不安・不満に適切に対応できる。
- ・ 歯科診療時に示す患児の行動とその変容に適切に対応できる。
- ・ 歯科ユニット各部の名称と機能を説明できる。
- ・ 発達期の歯科診療に必要な器材を説明できる。
- ・ 診療室への患児および保護者の誘導を適切にできる。
- ・ 患児および保護者に挨拶して自己紹介できる。
- ・ 患児および保護者との信頼関係を築くことができる。
- ・ 個人的、社会的背景等が異なる患児および保護者に、わけへだてなく対応できる。
- ・ 患児および保護者の価値観が多様であることを認識し、柔軟に対応できる。
- ・ 必要な情報を整理し、わかりやすい口頭説明と文書を準備できる。
- ・ 説明を行うために適切な時期・場所・機会に配慮できる。
- ・ 患児および保護者からの質問に適切に応え、その様々な反応に柔軟に対応できる。
- ・ 医療事故や潜在的医療事故（ニアミス）に関する情報を共有し、再発防止に役立てることができる。
- ・ インフォームドコンセントを行うことができる。

- ・乳幼児から青少年に対し、歯科予防処置を実施できる。
- ・乳幼児から青少年およびその保護者に対し、歯科保健指導を実施できる。
- ・乳幼児から青少年の歯科診療に際し、診療補助を実施できる。

授業計画 4 学年前期・必修・105 時間

回	授業題目	授業内容
1-6	オリエンテーション	オリエンテーション、器材配布・準備
7-28	矯正歯科外来実習	矯正歯科外来における歯科診療補助
29-72	口腔ケア実習	患者さんを担当した歯科予防処置、歯科保健指導
73-94	歯周病外来実習	歯周病外来における歯科診療補助
95-105	歯科放射線外来実習	歯科放射線外来における歯科診療補助

評価方法

実習記録等により総括的評価を行う。

実習態度を総括的評価に加味する。

参考図書等

- ・新歯科衛生士教本「歯科臨床概論」 全国歯科衛生士教育評議会編 医歯薬出版
- ・新歯科衛生士教本「歯科保健指導」 全国歯科衛生士教育協議会編 医歯薬出版
- ・新歯科衛生士教本「小児歯科学」 全国歯科衛生士教育協議会編 医歯薬出版
- ・新歯科衛生士教本「歯科矯正学」 全国歯科衛生士教育協議会編 医歯薬出版
- ・新歯科衛生士教本「歯科放射線学」 全国歯科衛生士教育評議会編 医歯薬出版
- ・新歯科衛生士教本「歯科診療補助 歯科器械の知識と取り扱い」 全国歯科衛生士教育協議会編 医歯薬出版
- ・新歯科衛生士教本「歯科診療補助 歯科材料の知識と取り扱い」 全国歯科衛生士教育協議会編 医歯薬出版

留意事項

附属病院等では服装、態度等に留意すること。不適切な場合は実習停止とする場合がある。

科目名	顎口腔機能リハビリテーション論
授業形態	講義
開講時期・単位・時間数	4 学年前期・必修 1 単位・15 時間
科目責任者	下山和弘
授業担当者	下山和弘、戸原玄（日本大学）、大平章子（非常勤講師）
主な授業場所	口腔保健学科 第1講義室

学習目標

顎口腔機能および顎口腔機能障害、機能障害に対する対応方法を理解する。

到達目標

- ・摂食・嚥下障害および言語障害の病因・病態・障害を説明できる。
- ・摂食・嚥下障害および言語障害の治療・管理の必要性和流れを説明できる。
- ・摂食・嚥下障害を有する患者の口腔清掃及び保健指導を説明できる。
- ・摂食・嚥下障害および言語障害に対する訓練法を説明できる。
- ・摂食・嚥下障害への食事の対応を説明できる。
- ・摂食・嚥下障害および言語障害に対するチーム医療を説明できる。

授業計画 4 学年前期・必修 1 単位・15 時間

回	授業題目	授業内容
1	顎口腔機能	顎口腔機能の種類と重要性
2	摂食・嚥下障害 1	摂食・嚥下障害の特徴と問題点
3	摂食・嚥下障害 2	摂食・嚥下障害の診察（スクリーニング含む）
4	摂食・嚥下障害 3	検査・評価法（VF）
5	摂食・嚥下障害 4	検査・評価法（VE）
6	摂食・嚥下障害 5	間接訓練
7	摂食・嚥下障害 6	直接訓練・段階的摂食訓練
8	言語障害 1	言語障害の特徴
9	言語障害 2	言語障害の問題点
10	摂食・嚥下障害 7	摂食・嚥下障害への対応（1 脳血管障害など）
11	言語障害 3	言語障害の評価と診断

12	言語障害 4	言語障害に対する治療・指導
13	摂食・嚥下障害 8	摂食・嚥下障害への対応（2 口腔咽頭腫瘍）
14	摂食・嚥下障害 9	摂食・嚥下障害への対応（3 訪問歯科診療）
15	顎口腔機能と障害	顎口腔機能とその障害の考え方

評価方法

随時の小テストで形成的評価を行う。期末の客観試験、論述試験、提出レポートで総括的評価を行う。講義、グループ討論、発表の態度等を総括的評価に加味する。

参考図書等

- ・「わかる摂食・嚥下リハビリテーションⅠ 評価法と対処法」 医歯薬出版
- ・「摂食・嚥下障害の VF 実践ガイドー歩進んだ診断・評価のポイント」ー 南江堂
- ・「訪問歯科診療ではじめる摂食・嚥下障害のアプローチ」 医歯薬出版

留意事項

事前の資料の配布、e-learning へのアップロード等があった場合は、予習して授業に臨むこと。

科目名	有病者口腔保健衛生学
授業形態	講義
開講時期・単位・時間数	4 学年後期・必修 1 単位・15 時間
科目責任者	吉増秀實
授業担当者	吉増秀實、歯科麻酔科教員、山崎統資（障害者歯科学分野）、 神野成治（麻酔・生体管理学分野）
主な授業場所	口腔保健学科 第1講義室

学習目標

各ライフステージの代表的疾患を理解し、有病者に対する口腔保健活動において必要な医学的知識を修得する

到達目標

- ・ 有病者を対象とした口腔保健活動における留意点を説明できる。
- ・ 有病者との接し方を理解し、有病者に対して面接が行える。
- ・ 有病者の口腔保健について、その特徴を説明できる。
- ・ 主な疾患と使用される薬剤の特徴・作用・副作用を説明できる。
- ・ 有病者の（歯科）受診状況について説明できる。
- ・ 歯科治療・口腔保健活動時の全身管理の方法を説明できる。
- ・ 歯科治療時の全身管理に必要な機器、器具について説明できる。
- ・ 歯科治療に伴う偶発症とその対応法を説明できる。
- ・ 救急処置および救急処置に用いられる薬剤を説明できる。
- ・ 他の医療従事者と連携するために必要な医学用語を説明できる。

授業計画 4 学年後期・必修 1 単位・15 時間

回	授業題目	授業内容
1	全身疾患を有する患者対応	有病者とは、口腔保健活動のために全身疾患知る意義
2	全身と口腔との関連性	全身から口腔を診る、口腔から全身を診る
3	有病者とのコミュニケーション、他職種との関連	有病者とのコミュニケーション、他職種との関連
4	有病者の対応法	全身状態の把握の仕方、口腔保健活動のために行うこと、注意すべきこと

5	有病者の受診状況	有病者の受診状況
6	循環器系疾患患者への対応	高血圧症、心疾患などを有する人の対応法
7	呼吸器疾患患者への対応	喘息などを有する人の対応法
8	内分泌・代謝系疾患患者への対応	糖尿病、甲状腺機能亢進症などを有する人の対応法
9	血液疾患患者への対応 その他主要な疾患患者への対応	白血病、血友病、紫斑病患者などを有する人の対応法 その他主要な疾患を有する人の対応法
10	基礎疾患をもつ人が服用している薬剤	代表的な常用薬の種類と特徴
11	医科・歯科・他職種との連携のための用語	カルテの読み方と基礎知識・主な医学用語 医科や他職種との連携のための用語
12	歯科治療時の全身管理法、モニターの管理	歯科治療時の全身管理法、モニターの管理
13	〃	歯科治療時の全身管理法、モニターの管理
14	歯科治療時の偶発症とその対応法 全身的偶発症	歯科治療時の偶発症 全身的偶発症とその対応法
15	局所的偶発症	局所的偶発症とその対応法

評価方法

随時の小テストで形成的評価を行う。

期末の客観試験、記述試験で総括的評価を行う。

講義、グループ討論、発表の態度等を総括的評価に加味する。

留意事項

事前に資料の配布、e-learning へのアップロード等があった場合は、各自予習して授業に臨むこと。

科目名	顎口腔機能リハビリテーション実習
授業形態	実習
開講時期・単位・時間数	4 学年後期・必修 1 単位・45 時間
科目責任者	下山和弘、吉田直美（PBL テュートリアル）
授業担当者	下山和弘、吉増秀實、植松宏（高齢者歯科学分野）、三串伸也（高齢者歯科学分野）、中根綾子（高齢者歯科学分野）、宮本智行（麻酔・生体分野管理学）、口腔保健学科教員、歯学科教員
主な授業場所	修士課程講義室、実習室、第1～4 演習室

学習目標

顎口腔機能および顎口腔機能障害を理解し、機能障害に対する対応方法を習得する。

到達目標

- ・摂食・嚥下機能および言語機能を評価できる。
- ・摂食・嚥下障害を有する患者の口腔清掃・保健指導ができる。
- ・摂食・嚥下障害および言語治療に対する訓練法を説明できる。
- ・摂食・嚥下障害への食事の対応ができる。

授業計画 4 学年後期・必修 1 単位・45 時間

回	授業題目	授業内容
1-3	顎口腔機能の診査・診断	主訴・病歴・身体所見・顎口腔機能の把握
4-6	摂食・嚥下に関する検査・評価 1	反復唾液飲みテスト、水飲みテスト、食物テスト等
7-9	摂食・嚥下に関する検査・評価 2	VF 検査の基本（検査の準備・見学を含む）
10-12	摂食・嚥下に関する検査・評価 3	VF 検査の読影練習
13-15	摂食・嚥下に関する検査・評価 4	VF 検査の基本、検査の準備・見学・評価の練習
16-18	摂食・嚥下に関する訓練 1	間接的訓練法：運動訓練、構音訓練、メンデルゾーンの手技等
19-21	摂食・嚥下に関する訓練 2	直接的訓練法：嚥下代償法など、嚥下食試食など
22-25	摂食・嚥下に関する総合評価 1	総合評価・診断・治療方針に関する総合演習 1
26-29	摂食・嚥下に関する総合評価 2	総合評価・診断・治療方針に関する総合演習 2
30-32	PBL セッション 1	シナリオ 1

33-35	PBL セッション 2	シナリオ 2
36-38	PBL セッション 3	発表とまとめ
39-41	顎口腔機能障害に対する対応 1	顎口腔機能障害の総合的な対応
42-45	顎口腔機能障害に対する対応 2	顎口腔機能訓練における安全確保

評価方法

セッション毎に、チューターによる形成的評価を行う。

期末の筆記試験、実技試験および提出レポートまたは課題により評価を行う。授業態度・意欲および授業参加度を総括的評価に加味する。

参考図書等

- ・わかる摂食・嚥下リハビリテーションⅠ 評価法と対処法，医歯薬出版，東京，2005 年
- ・摂食・嚥下障害の VF 実践ガイドー歩進んだ診断・評価のポイントー，南江堂，2006 年

留意事項

事前の資料の配布、e-learning へのアップロード等があった場合は、予習して授業に臨むこと。

科目名	高齢者歯科口腔介護臨地実習
授業形態	実習
開講時期・単位・時間数	4 学年後期・必修 1 単位・45 時間
科目責任者	遠藤圭子、寺岡加代
授業担当者	実習先職員、口腔保健学科教員
主な授業場所	高齢者施設（高齢者在宅サービスセンター、特別養護老人ホーム等）

学習目標

高齢者施設や特別養護老人施設において高齢者介護の実際を体験するとともに、歯科口腔介護を実践するために必要な知識、技術、態度を習得する。

到達目標

- ・ 高齢者施設等における高齢者介護の実際を理解する。
- ・ 施設の指導者による指導のもと歯科口腔介護を実践する。
- ・ 要介護高齢者とのコミュニケーションをはかることができる。

授業計画 4 学年後期・必修 1 単位・45 時間

回	授業題目	授業内容
1, 2	高齢者施設における実習のオリエンテーション	高齢者施設（高齢者在宅サービスセンター、特別養護老人ホーム等）の現状、利用者の現状、実習の心得
3-33	高齢者施設における実習	介護の実践、コミュニケーションの実践、プログラムへの参加：対応時の注意点、高齢者心理の理解、利用者の体調管理・観察、環境整備生活行動支援
34-39	実習報告 1	実習の振り返り、実習報告書作成
40-45	実習報告 2	実習報告の発表

評価方法

実習計画書・報告書によって総括的評価を行う。

実習態度、出席状況、受け入れ先からの評価を総括的評価に加味する。

参考図書

随時、「実習の手引き」等の資料を配付する。

留意事項

実習先の状況に合わせて、実習計画を立てる。時間の変更がある場合がある。

不明な点は必ず施設職員の方に聞き指示に従うこと。

科目名	高齢者口腔保健衛生臨床実習
授業形態	実習
開講時期・単位・時間数	4 学年前期・必修 2 単位・90 時間
科目責任者	木下淳博、下山和弘
授業担当者	下山和弘、遠藤圭子、近藤圭子、吉田直美、大渡凡人（高齢者歯科学分野）、大学院医歯学研究科臨床系教員、歯学部附属病院臨床系教員・職員
主な授業場所	歯学部附属病院スペシャルケア外来

学習目標

歯科診療施設において主に高齢者に対し、対象者本位の口腔保健活動を実践するために必要な態度・知識・技能を修得する。

到達目標

- ・対象者の身体的・精神的・社会的苦痛に配慮し、問題点を抽出・整理できる。
- ・対象者の不安・不満や表情・行動の変化に適切に対応できる。
- ・歯科ユニット各部の名称や機能を説明できる。
- ・診療に必要な器材を説明できる。
- ・対象者に挨拶して自己紹介できる。
- ・対象者との信頼関係を築くことができる。
- ・個人的、社会的背景が異なる対象者に、わけへだてなく対応できる。
- ・対象者の価値観が多様であることを認識し、柔軟に対応できる。
- ・必要な情報を整理し、わかりやすい口頭説明と文書を準備できる。
- ・説明を行うために適切な時期・場所・機会に配慮できる。
- ・対象者からの質問に適切に答え、その様々な反応に柔軟に対応できる。
- ・医療事故や潜在的医療事故（ニアミス）に関する情報を共有し、再発防止に役立てることができる。
- ・インフォームドコンセントを行うことができる。
- ・主に高齢者に対し、歯科予防処置を実施できる。
- ・主に高齢者に対し、歯科保健指導を実施できる。
- ・主に高齢者に対し、歯科診療補助を実施できる。

授業計画 4 学年前期・必修 2 単位・90 時間

回	授業題目	授業内容
1	臨床実習ガイダンス	臨床実習ガイダンス
2-90	高齢者歯科外来（スペシャルケア外来）実習	高齢者歯科外来（スペシャルケア外来）における歯科診療補助、歯科予防処置、歯科保健指導

評価方法

実習記録、患者へのリーフレット等により総括的評価を行う。

実習態度を総括的評価に加味する。

参考図書等

- ・新歯科衛生士教本「歯科臨床概論」 全国歯科衛生士教育協議会編 医歯薬出版
- ・新歯科衛生士教本「歯科保健指導」 全国歯科衛生士教育協議会編 医歯薬出版
- ・新歯科衛生士教本「保存修復学・歯内療法学」 全国歯科衛生士教育協議会編 医歯薬出版
- ・新歯科衛生士教本「歯周療法学」 全国歯科衛生士教育協議会編 医歯薬出版
- ・新歯科衛生士教本「歯科補綴学」 全国歯科衛生士教育協議会編 医歯薬出版
- ・新歯科衛生士教本「口腔外科学・歯科麻酔学」 全国歯科衛生士教育協議会編 医歯薬出版
- ・新歯科衛生士教本「歯科診療補助 歯科器械の知識と取り扱い」 全国歯科衛生士教育協議会編 医歯薬出版
- ・新歯科衛生士教本「歯科診療補助 歯科材料の知識と取り扱い」 全国歯科衛生士教育協議会編 医歯薬出版
- ・最新歯科衛生士教本「高齢者歯科」 全国歯科衛生士教育協議会監修 医歯薬出版
- ・「疾患別内科エマージェンシー対応 高齢者臨床ナビゲーション」 大渡凡人著 医歯薬出版
- ・歯科衛生士のための高齢者歯科学 渡邊誠、岩久正明監修 永末出版
- ・「脳卒中患者の口腔ケア」 植田耕一郎著 医歯薬出版
- ・「高齢者歯科ガイドブック」 植松宏、稲葉繁、渡辺誠編 医歯薬出版
- ・「はじめて学ぶ歯科口腔介護」 新井俊二、小椋秀亮監修 医歯薬出版

留意事項

附属病院等では服装、態度等に留意すること。不適切な場合は実習停止とする場合がある。

科目名	歯科口腔介護総論
授業形態	講義
開講時期・単位・時間数	4 学年前期・必修 1 単位・15 時間
科目責任者	下山和弘
授業担当者	下山和弘、渡邊裕（東京歯科大学）、菅武雄（鶴見大学）、金子博寿（非常勤講師・歯科医師）
主な授業場所	口腔保健学科 第1講義室

学習目標

要介護者と関わるために、口腔保健の立場から、療養の管理、機能訓練ならびに日常生活の支援を行うための基本的な知識、技術を理解する。

到達目標

- ・要介護者の口腔保健の意義を説明できる。
- ・病院歯科における口腔保健を説明できる。
- ・居宅要介護者の口腔の問題と対応方法を説明できる。
- ・施設利用者の口腔の問題と対応方法を説明できる。
- ・脳卒中、痴呆等の疾患を有する要介護者への対応法を説明できる。

授業計画 4 学年前期・必修 1 単位・15 時間

回	授業題目	授業内容
1	歯科口腔介護の意義	歯科口腔介護の定義・意義・目的
2	地域歯科医療からみた現状 1	地域歯科医療の担当者からみた要介護者の問題と対応
3	地域歯科医療からみた現状 2	地域が抱える口腔保健の現状と将来
4	病院歯科・病棟における口腔保健 1	病院歯科・病棟における口腔保健の現状
5	病院歯科・病棟における口腔保健 2	病院歯科・病棟における口腔保健の問題点
6	病院歯科・病棟における口腔保健 3	評価と対応
7	病院歯科・病棟における口腔保健 4	課題
8	居宅の要介護者・施設利用者における口腔保健 1	歯科訪問診療の位置づけ

9	居宅の要介護者・施設利用者における口腔保健 2	歯科訪問診療の実際と問題点
10	居宅の要介護者・施設利用者における口腔保健 3	介助による口腔ケア
11	居宅の要介護者・施設利用者における口腔保健 4	介入レベル別口腔ケア
12	介護保険における口腔保健 1	特定疾患と口腔の問題
13	介護保険における口腔保健 2	特定疾患と口腔の問題
14	要介護者に関する問題の将来	わが国の将来展望
15	要介護者に対する対応	要介護者の問題のまとめ

評価方法

随時の小テストで形成的評価を行う。期末の客観試験、論述試験、提出レポートで総括的評価を行う。講義、グループ討論、発表の態度等を総括的評価に加味する。

参考図書等

- ・「はじめて学ぶ歯科口腔介護」 新井俊二、小椋秀亮監修 医歯薬出版
- ・「高齢者歯科ガイドブック」 植松宏、稲葉繁、渡辺誠編集、医歯薬出版
- ・「実践訪問口腔ケア」 上巻、下巻 高江洲義矩監修 クインテッセンス出版
- ・「歯科衛生士のための高齢者歯科学」 渡邊誠、岩久正明監修、永末出版
- ・「脳卒中患者の口腔ケア」 植田耕一郎 医歯薬出版
- ・「WHO：ICF（国際生活機能分類）」 中央法規
- ・「口腔ケアハンドブック」 菅武雄 日本医療企画
- ・「基礎から学ぶ口腔ケア」 菊谷 武監修 学研

留意事項

事前の資料の配布、e-learning へのアップロード等があった場合は、予習して授業に臨むこと。

科目名	地域口腔健康教育学
授業形態	講義
開講時期・単位・時間数	4学年後期・必修1単位・15時間
科目責任者	遠藤圭子
授業担当者	遠藤圭子
主な授業場所	修士課程講義室、口腔保健学科 第1～4 演習室

学習目標

地域における健康推進を支援していくために、地域診断や社会のニーズ調査等を行うプロセスを理解し、実践に必要な知識・技能・態度を修得する。

到達目標

- ・地域口腔保健の必要性を説明できる。
- ・地域保健の実際、健康教育の意義を説明できる。
- ・地域社会において健康教育を実施するために関係する行政組織・制度・法律について概説できる。
- ・地域社会において健康教育を実施するための資源と組織作りについて概説できる。
- ・与えられた事例について、地域社会における対して、健康教育の企画を立案できる。
- ・地域健康教育に関連した科学論文を読み、その内容を説明できる。
- ・対象別の健康教育のポイントを説明できる。

授業計画 4 学年後期・必修1単位・15 時間

回	授業題目	授業内容
1-4	地域口腔保健の必要性 地域口腔健康教育の展開 1	地域口腔保健の必要性、地域保健の実際 地域における健康教育 健康教育実施のフローチャート作成、P-P model、 目標の設定 等
5-8	地域口腔健康教育の展開 2	健康教育実施のための資源と活用 健康教育のポイント
9-12	地域口腔健康教育の展開 3	地域における組織づくり（住民とのネットワーク）
13-15	地域口腔健康教育の展開 4	評価法、制度・法律 歯科衛生活動のシステム

評価方法

認知領域（知識・理解・問題解決）に関する各種客観テスト、論文テスト、問題場面テスト、および、情意領域（態度・意欲、参加度）の評価により、総合的評価を行う。

参考図書

- ・雑誌「公衆衛生」、月刊「地域保健」のなかで、関連するものを指示する。

参考図書

事前に資料の配付、e-learning へのアップロード等があった場合には、各自予習して授業に臨むこと。

科目名	訪問口腔健康指導
授業形態	講義
開講時期・単位・時間数	4 学年前期・必修 1 単位・15 時間
科目責任者	吉田直美
授業担当者	矢澤正人（東京都立多摩立川保健所）、小野健児（非常勤講師）、茶山裕子（非常勤講師）、吉田直美
主な授業場所	修士課程講義室

学習目標

居宅者・施設利用者のケアに必要な知識を身につけ、基本的な技術を修得する。

到達目標

- ・訪問歯科診療の歴史、法的問題、理念について説明できる。
- ・訪問歯科診療において、口から食べることの支援ならびに臨床について概説できる。
- ・ケアマネジメント・ケアプランについて概説できる。
- ・訪問診療において、障害者に対する歯科衛生士の姿勢を説明できる。
- ・訪問口腔健康指導に必要なコミュニケーション手段を説明できる。
- ・訪問口腔健康指導に必要な業務記録について説明できる。
- ・訪問口腔健康指導の基本的な技術を説明し、実施できる。

授業計画 4 学年前期・必修 1 単位・15 時間

回	授業題目	授業内容
1	訪問歯科診療の概要	訪問歯科診療の歴史と法的問題
2	〃	訪問歯科診療の理念
3	訪問歯科診療の実際	訪問歯科診療の実際
4	口から食べることへの支援と臨床 1	口から食べることへの支援と臨床
5	〃 2	〃
6	〃 3	〃
7	訪問口腔健康指導の展開 1	訪問口腔健康指導の基本知識と技術
8-9	〃 2	〃
10-12	〃 3	〃

13-15	訪問口腔健康指導の展開とまとめ	訪問口腔健康指導の展開とまとめ
-------	-----------------	-----------------

評価方法

期末の客観試験、論述試験で総括的評価を行う。

出席状況、授業態度を総括的評価に加味する。

参考図書等

e-learning システム上にアップロード、または授業の際に印刷物を配布する。

留意事項

事前に資料の配付、e-learning へのアップロード等があった場合は、予習して授業に臨むこと。

科目名	障害者福祉論
授業形態	講義
開講時期・単位・時間数	3 学年後期・必修 1 単位・15 時間 3 学年後期・選択・15 時間 } 3 単位 4 学年前期・選択・30 時間 選択部分の単位認定（3 単位）は 4 学年前期終了時に行う
科目責任者	杉本久美子
授業担当者	田中恵美子
主な授業場所	修士課程講義室

学習目標

- ・わが国の障害者福祉の現状と課題を理解する。
- ・障害者の自立生活と社会参加に向けた支援のあり方を理解する
- ・障害者施策における国際的動向を理解し、自らの障害を捉える視点のあり方について考える。

到達目標

- ・障害者の雇用・就労および経済的支援の現状と課題について説明できる。
- ・障害児者のための地域および生活環境の整備について説明できる。
- ・障害者の情報保障、権利擁護の現状と課題について説明できる。
- ・障害者理解を促進させるための方策について説明できる。
- ・障害者運動、セルフヘルプグループなど、障害当事者の活動の意義について説明できる。
- ・現代社会における障害者福祉の課題を理解できる。

授業計画 4 学年前期・選択・30 時間

回	授業題目	授業内容
1, 2	障害学生支援	障害学生支援システムの現状
3, 4	障害者の雇用・就労支援 1	就労施策の歴史と現状
5, 6	障害者の雇用・就労支援 2	国際的動向（ADA, DDA 他差別禁止法）
7, 8	障害者の経済的支援	所得保障制度の歴史と現状、今後の展望
9, 10	障害者の生活環境整備 1	福祉のまちづくり、バリアフリー、ユニバーサルデザイン、ハートビル法、交通バリアフリー法
11, 12	障害者の生活環境整備 2	障害者自立支援法と地域サービス実施主体

13, 14	地域生活をサポートする 1	障害当事者組織の活動
15, 16	地域生活をサポートする 2	専門職支援（地域移行、在宅支援）
17, 18	地域生活をサポートする 3	成年後見制度の仕組み
19, 20	施設での生活	各種施設サービスの現状
21, 22	終末期医療と障害 1	在宅と施設の狭間で生きる
23, 24	終末期医療と障害 2	生き続けることと社会制度
25, 26	障害者運動	障害者運動とセルフヘルプグループ
27, 28	障害のモデル	障害の個人モデルと社会モデル
29, 30	まとめ	これからの障害者福祉の課題と展望

評価方法

期末試験、毎回のリアクションペーパー、出席状況、授業態度、課題レポートにより総合的に評価する。

参考図書等

・「新版 社会福祉士養成講座 ③障害者福祉論」福祉士養成講座編集委員会編 中央法規他、随時授業中に紹介する。

留意事項

事前に資料の配付、e-learning へのアップロード等があった場合は、各自予習して授業に臨むこと。講義における質疑応答やグループディスカッションには主体的に参加し、学ぶ意欲を持って授業に参加することを望む。

科目名	家族社会学
授業形態	講義
開講時期・単位・時間数	4 学年後期・必修 1 単位・15 時間
科目責任者	小野寺光江
授業担当者	小野寺光江、遠藤圭子、助友裕子（非常勤講師）
主な授業場所	修士課程講義室

学習目標

社会を構成する基本的単位である家族について学び、口腔保健衛生活動を展開する者の立場から現代社会における家族がかかえる問題点を理解し、家族について客観的、科学的に考える力を養う。

到達目標

- ・家族とは何かを説明できる。
- ・家族の機能を説明できる。
- ・家族形成の原理と家族の人間関係について説明できる。
- ・ライフサイクルと家族の役割について説明できる。
- ・現代日本の家族の動向について理解できる。
- ・口腔保健衛生活動を展開する者の立場から解決しなければならない家族の問題点を列举できる。

授業計画 4 学年後期・必修 1 単位・15 時間

回	授業題目	授業内容
1, 2	家族とは何か	家族の概念、機能、家族形成の原理
3, 4	現代家族の動向	現代社会と家族、家族の構造
5, 6	子どもの社会化とその援助	親としての役割、社会化、家庭教育 他
7, 8	ジェンダーと家父長制家族	ジェンダーとは何か、男女共同参画 他
9, 10	家族支援	家族支援の展開
11, 12	家族をめぐる諸問題と支援	家族内の人間関係、ドメスティック・バイオレンス、虐待 等
13, 14	〃	発表
15	まとめ	まとめ

評価方法

期末の客観試験、記述試験で総括的な評価を行う。

出席・授業態度を総括的に加味する。

参考図書等

- ・「新しい家族社会学」 森岡清美、望月嵩著 培風館
- ・「テキストブック家族社会学」 山根常男、玉井美知子、石川政信 他編著 ミネルヴァ書房
- ・「家族看護学」 鈴木和子、渡辺裕子著 日本看護協会

留意事項

事前に資料の配付、e-learning へのアップロードなどがあった場合は、各自予習して授業に臨むこと。

科目名	介護概論
授業形態	講義
開講時期・単位・時間数	4 学年前期・必修・15 時間 4 学年後期・必修・15 時間
科目責任者	小野寺光江
授業担当者	小野寺光江、新井武志（東京都老人総合研究所）
主な授業場所	修士課程講義室

学習目標

介護の役割を理解し、介護についての基礎知識および基本的な介護技法を修得する。

到達目標

- ・介護の原理・原則を説明できる。
- ・介護予防の重要性を説明できる。
- ・介護の必要性を説明できる。
- ・介護活動の展開法を説明できる。
- ・介護に必要な基本的介護技術を説明できる。
- ・要支援者・要介護者の身体的特徴を説明できる。
- ・介護に関わる保健・医療・福祉等の関連職種との連携を説明できる。
- ・福祉用具を説明できる。

授業計画

4 学年前期・必修・15 時間

回	授業題目	授業内容
1, 2	介護とは何か	介護の概念他
3, 4	介護の対象	要支援者・要介護者の心身の特長
5, 6	介護技術Ⅰ	介護活動の展開Ⅰ
7, 8	介護技術Ⅱ	介護活動の展開Ⅱ
9, 10	介護技術Ⅲ	日常生活援助のための基本的な介護Ⅰ
11, 12	介護技術Ⅳ	日常生活援助のための基本的な介護Ⅱ
13, 14	介護技術Ⅴ	医療の継続と介護
15	まとめ	まとめ

4 学年後期・必修・15 時間

回	授業題目	授業内容
16, 17	介護予防Ⅰ	介護予防の重要性
18, 19	介護予防Ⅱ	介護予防活動の展開
20, 21	介護予防Ⅲ	介護予防活動の実際Ⅰ
22, 23	介護予防Ⅳ	介護予防の実際Ⅱ
24, 25	介護予防Ⅴ	介護予防の実際Ⅲ
26, 27	介護予防Ⅵ	介護予防の実際Ⅳ
28, 29	介護予防Ⅶ	介護予防の実際Ⅴ
30	まとめ	まとめ

評価方法

期末の客観試験、記述試験で総括的な評価を行う。

出席・授業態度を総括的に加味する。

参考図書等

新版 社会福祉士養成講座 14 「介護概論」 福祉士養成講座編集委員会編 中央法規出版

留意事項

事前に資料の配付、e-learning へのアップロードなどがあった場合は、各自予習して授業に臨むこと。

科目名	地域福祉論
授業形態	講義
開講時期・単位・時間数	4 学年前期・必修 1 単位・15 時間 4 学年前期・選択 1 単位・15 時間
科目責任者	杉本久美子
授業担当者	黒岩亮子（日本女子大学）
主な授業場所	口腔保健学科 第1講義室

学習目標

- ・今日の社会において「地域福祉の推進」が必要とされる背景を理解し、具体的な事例を取り上げながら、その現状（地域福祉にかかわる活動や政策）を学び、今後のあり方について考察する。
- ・ボランティア活動や NPO 活動などの住民による活動に焦点をあて、自ら住みよい地域をつくっていく主体であることを理解する。

到達目標

- ・日本における地域福祉の歴史を説明できる。
- ・民生委員・児童委員、社会福祉協議会、ボランティア、NPO、NGO など、地域福祉を推進する機関や人びとについて説明できる。
- ・地域で行われている様々な住民による活動の実態や課題について説明できる。
- ・地域福祉計画の策定された経緯やその内容について説明できる。
- ・住民の活動と行政の協働のあり方など、今後の地域福祉の方向性について考察できる。

授業計画

4 学年前期・必修 1 単位・15 時間

回	授業題目	授業内容
1	イントロダクション 1	「地域福祉」とは何か～福祉のイメージを探る
2	イントロダクション 2	「地域」と「福祉」の関係性
3	地域の問題とは何か	「孤独死」にみる地域の変化
4	家族と地域の変化	家族・地域の変化と新たな動き
5	地域福祉の歴史 1	日本の地域における相互扶助とコミュニティの概念
6	地域福祉の歴史 2	住民参加型在宅福祉サービス活動
7	地域福祉の歴史 3	COS 活動とセツルメント活動

8	地域福祉の歴史 4	日本における社会事業家の活動からボランティア元年まで
9	地域福祉を支える機関・人びと 1	社会福祉協議会の働き
10	地域福祉を支える機関・人びと 2	民生委員・児童委員の働き
11	NPO 活動の実態	NPO 法制定の経緯と実態
12	NPO 活動の課題	具体的事例から考える
13	住民と行政の協働 1	地域福祉計画の策定
14	住民と行政の協働 2	住民参加による福祉のまちづくり ～ワークショップを体験する
15	まとめ	ミニテスト

4 学年後期・選択 1 単位・15 時間

回	授業題目	授業内容
1	地域福祉の主流化	社会福祉法を読む～なぜ「地域福祉の推進」なのか改めて考える
2	市民社会とは何か 1	ボランティア大国～アメリカの事例から（ビデオ）
3	市民社会とは何か 2	討論
4	地域福祉論のまとめ 1	戦後社会福祉の発展と考え方
5	地域福祉論のまとめ 2	イギリスの 4 つの報告書を中心に
6	地域福祉論のまとめ 3	地域福祉に関する法と整備
7	地域福祉論のまとめ 4	社会福祉基礎構造改革後の社会福祉の特徴を中心に
8	地域福祉論のまとめ 5	地域福祉計画の意義と内容
9	地域福祉論のまとめ 6	地域福祉活動計画、地域福祉計画、地域福祉支援計画の違い
10	新しいボランティア活動	ホームレスへのボランティアの事例から（ビデオ）
11	ボランティアの課題	討論
12	新市民としての活動 1	身近な活動についての事例発表会
13	新市民としての活動 2	討論
14	新市民としての活動 3	これからのボランティア、NPO、社会的企業などのあり方
15	まとめ	ミニテスト

評価方法

成績評価は、出席状況、授業への参加態度、ミニテスト、レポート提出などにより、総合的評価を行う。

参考図書等

- ・「現代日本の人間関係～団塊ジュニアからのアプローチ」 高橋勇悦 他著 学文社 2007 年
- ・そのほか、授業時にプリントを配付する。

留意事項

私語はつつしみ、積極的に授業に参加すること。

今日、「住みよい地域を自分たちの手でつくること」「地域の様々な問題を自分たちの手で解決すること」が目指され、住民による様々な活動が行われるようになっている。また、地域福祉計画の策定が各市区町村に義務付けられるなど、「地域福祉の推進」は今日の社会にとって大きな課題となっている。このように今日的課題となっている地域福祉について理解を深めてもらいたい。

科目名	歯科口腔介護基礎実習
授業形態	実習
開講時期・単位・時間数	4 学年前期・必修 1 単位・30 時間
科目責任者	下山和弘、吉田直美（PBL テュートリアル）
授業担当者	下山和弘、武井典子（非常勤講師）、宮本智行（麻酔・生体管理学分野）、本村一朗（高齢者歯科学分野）、齋藤やよい（生体・生活機能看護学分野）、本田彰子（在宅ケア看護学分野）、口腔保健学科教員、歯学科教員
主な授業場所	口腔保健学科 第1～第4 演習室、第4 講義室、実習室 保健衛生学講義室4（医歯学総合研究棟Ⅰ期棟7階）、実習室1 医歯学総合研究棟Ⅰ期棟17階）

学習目標

要介護者等に、歯科医学にもとづく療養の管理、機能訓練ならびに日常生活の支援を行うための基本的な知識、技術を修得する。

到達目標

- ・脳梗塞後遺症患者のかかえる問題を説明できる。
- ・脳梗塞後遺症患者に対する基本的な介護技術が実践できる。
- ・歯科・口腔領域の基本的な介護技術が実践できる。

授業計画 4 学年前期・必修 1 単位・30 時間

回	授業題目	授業内容
1-3	PBL セッション 1	シナリオ 1
4-6	PBL セッション 2	シナリオ 2
7-9	PBL セッション 3	発表とまとめ
10-12	口腔清掃	口腔清掃の基本的な方法の実際
13-16	人工呼吸器の管理	人工呼吸器の基本的な操作と管理
17-20	高齢者疑似体験	高齢者の日常生活の理解
21-24	介護技術実習 1	移動、移乗、体位変換の技術
25-28	介護技術実習 2	衣服の着脱、身体の清潔の技術
29, 30	歯科口腔介護実習の総括	実習から得たものを考える

評価方法

セッション毎に、チューターによる形成的評価を行う。期末の筆記試験、実技試験および提出レポートまたは課題により評価を行う。授業態度・意欲および授業参加度を総括的評価に加味する。

参考図書等

- ・「はじめて学ぶ歯科口腔介護」 新井俊二、小椋秀亮監修 医歯薬出版
- ・「高齢者歯科ガイドブック」 植松 宏、稲葉 繁、渡辺 誠編集、医歯薬出版
- ・「実践訪問口腔ケア」 上巻、下巻 高江洲義矩監修 クインテッセンス出版
- ・「歯科衛生士のための高齢者歯科学」 渡邊誠、岩久正明監修、永末出版
- ・「脳卒中患者の口腔ケア」 植田耕一郎 医歯薬出版

留意事項

事前の資料の配布、e-learning へのアップロード等があった場合は、予習して授業に臨むこと。

科目名	地域口腔保健衛生臨地実習
授業形態	実習
開講時期・単位・時間数	4学年後期・必修2単位・90時間
科目責任者	遠藤圭子、吉増秀實
授業担当者	遠藤圭子、近藤圭子、茂木美保（非常勤講師）、実習先職員
主な授業場所	実習先、講義室、演習室

学習目標

職域、地域、学校等において、口腔保健活動を展開できる基礎的能力を修得する。

到達目標

- ・各場所における口腔保健活動が説明できる。
- ・対象者に関わるアセスメントから、問題点を判断できる。
- ・歯科衛生診断、プランニング、計画実施、評価ができる。
- ・対象のニーズを判断した活動が説明できる。
- ・対象に応じた口腔健康教育が実践できる。
- ・活動プランや実施内容の評価法が説明できる。
- ・実習報告書が作成できる。

授業計画 4 学年後期・必修 2 単位・90 時間

回	授業題目	授業内容
1, 2	オリエンテーション	臨地実習の目的と意義、実習時の諸注意 倫理的な配慮、実習報告書の作成
3-5	障害者を対象とした口腔保健活動	心身障害者口腔保健センターにおける口腔保健 活動の実際
5, 7	職域における歯科衛生活動	企業内における歯科診療室の役割、感染防止対 策、海外赴任前後の健康教育、個人情報管理
8-10	地域保健活動の実際	当該地域の口腔保健状況、業務内容とその意義
11-16	〃	専門職種との協働の実際、事業実施後の資料作成 と管理
17-22	〃	所外における活動の展開
23-28	学校健診	学校健診の意義、学童・保護者に対する事後処

		理、統計処理
29-34	学校健診	健康づくり支援活動
35-40	〃	〃
41-46	〃	学校と地域の連携、住民とのネットワークづくり
47-52	総合病院における口腔保健活動	総合病院の機能、歯科・口腔外科の役割 歯科衛生士、歯科医師、看護師の活動の実際
53-58	〃	患者接遇、術中の配慮、事後指導の実際
59-64	〃	多職種との協働、情報公開と管理
65-70	企業内歯科診療室における口腔保健活動	職員の健康問題と対応、健康教育の実際
71-76	〃	診療設備、診療室内における動線、
77-82	個人開業医院における口腔保健活動	診療設備、スタッフ間の協働の実際
83-88	〃	患者接遇、歯科診療の補助
89, 90	臨地実習の総括	まとめ、場による口腔保健活動の実際と専門職種 の役割

評価方法

報告書、出席状況を基に総括的評価を行う。

実習態度、受け入れ施設からの評価を総括的評価に加味する。

留意事項

事前配付資料は、繰り返し読んで、確認して実習に臨む。

服装、態度、言葉遣いに留意する。

実習への取り組み、出席状況、報告書の提出状況などが不適切の場合には、実習停止とすることがある。

科目名	障害者口腔保健衛生臨床実習
授業形態	実習
開講時期・単位・時間数	4 学年前期・必修 1 単位・45 時間
科目責任者	篠塚修（障害者歯科学分野）、吉田直美
授業担当者	篠塚修（障害者歯科学分野）、歯学部附属病院臨床系教員・職員
主な授業場所	歯学部附属病院スペシャルケア外来

学習目標

歯科受診に対して障害を有する患者とスムーズにコミュニケーションをとった上で、患者が安心して歯科治療・予防処置・保健指導を受けられるように、知識を確認して、必要な基本的態度、専門的技術を身につける。

到達目標

- ・患者および保護者・介護者と挨拶、会話を交わすことができる。
- ・患者を治療椅子へ導入することができる。
- ・治療中に、患者に対して、適切に言葉かけができる。
- ・精神鎮静法の準備・片付けをすることができる。
- ・患者の全身状態、行動の観察をして、対応できる。
- ・患者の情報収集・分析ができる。
- ・問診結果から、保健指導に必要な情報を分析して、活用できる。
- ・保健指導記録を書くことができる。
- ・自分が行った指導について評価することができる。

授業計画 4 学年前期・必修 1 単位・45 時間

回	授業題目	授業内容
1-3	障害者歯科外来における対応	患者および保護者・介護者との対応
4-6	患者の導入と安全確保	患者の治療椅子への導入
7-12	患者の観察と評価	患者の全身状態の観察
13-18	治療の準備と補助 1	バイタルサイン（脈拍、血圧等）の測定
19-24	治療の準備と補助 2	精神鎮静法下の治療の準備と補助
25-30	精神鎮静法後の患者管理	精神鎮静法後の患者管理
31-36	情報収集・分析	問診票、口腔保健行動・生活習慣に関する質問票、口腔

		内観察（現在歯、治療状況、清掃状態等）
37-42	保健指導	生活習慣、保健行動、ブラッシングなど 記録の作成
43-45	評価	障害者歯科外来実習の振り返りと総括

評価方法

実習記録提出、出席状況、ケース履修状況をもって、総括的評価を行う。

参考図書等

- ・「障害者歯科ガイドブック」 森崎市治郎 他編 医歯薬出版
- ・最新歯科衛生士教本 「障害者歯科」 全国歯科衛生士教育協議会監修 医歯薬出版

留意事項

附属病院等では服装、態度等に留意すること。不適切な場合は実習停止とする場合がある。

科目名	社会福祉援助技術現場実習
授業形態	実習
開講時期・単位・時間数	3 学年後期（春季集中）・選択・12 日間（90 時間）以上 4 学年前期（夏季集中）・選択・12 日間（90 時間）以上 単位認定（4 単位）は4 年の実習終了時に行う
科目責任者	杉本久美子
授業担当者	実習先の実習指導者
主な授業場所	社会福祉施設・機関

学習目標

現場での実習体験を通して、社会福祉専門職としての仕事をする上で必要な専門知識、専門援助技術および関連知識について理解を深める。

到達目標

- ・福祉ニーズを抱えている個人、家族、小集団、地域などに対する総合的援助過程の中で、現場の実習指導者の指導を得ながら、社会福祉援助技術を活用できる。
- ・スーパービジョンを通して、自己の社会福祉援助者としての実践力を高め、補正することができる。
- ・社会福祉援助技術を活用するにあたっての課題、その解決方法を学び、将来の実践におけるその活用の展望について整理できる。
- ・社会福祉援助技術の実践に必要な知識、技術を高め、援助者として適切な態度と行動がとれる。
- ・各人の実習計画に基づき実習を遂行できる。

授業計画 4 学年前期（夏季集中）・選択・12 日間（90 時間）以上

実習日程等については、実習受け入れ先と相談の上、決定する。

評価方法

実習計画、実習記録ノート、実習報告書および実習指導者評価表により、総括的評価を行う。

科目名	社会福祉援助技術現場実習指導
授業の形態	実習
開講時期・単位・時間数	3 学年後期・選択・18 時間 3 学年後期（春季集中）・選択・27 時間 4 学年前期・選択・20 時間 4 学年前期（夏季集中）・選択・19 時間 4 学年後期・選択・6 時間 単位認定（2 単位）は 4 学年後期終了時に行う } 2 単位
科目責任者	杉本久美子
授業担当者	杉本久美子、田中恵美子、堀江明子
主な授業場所	口腔保健学科 第1講義室、修士課程講義室

学習目標

社会福祉施設・機関での現場実習を行う意義を理解し、実習の前から終了後にわたって指導を受け、現場実習を実効性のあるものとする。

到達目標

- ・各社会福祉施設における実習の流れを説明できる。
- ・各施設における実習目標、実習計画を立てられる。
- ・現場実習における心構え、留意点を説明できる。
- ・実習現場における行動の取り方を身につける。
- ・実習記録ノートを作成できる。
- ・スーパービジョン・リンケージを説明できる。
- ・実習先の特徴、利用者の特徴について説明できる。
- ・実習内容について発表ができる。
- ・実習終了後の振り返りができ、改善点を見いだせる。

授業計画

4 学年前期・選択・20 時間

回	授業題目	授業内容
1-3	社会福祉現場実習報告会 1	学生による春季社会福祉援助技術現場実習の報告
4-6	社会福祉現場実習報告会 2	学生による春季社会福祉援助技術現場実習の報告

7, 8	実習先の選択準備	夏季実習に向けて課題の見直し
9, 10	実習先の選択準備	実習先タイプ別グループ討議
11, 12	個人表作成指導	個人票の作成、完成
13, 14	実習計画書の作成指導	実習前訪問を経て課題の設定
15-17	実習計画書の作成指導	実習計画書の作成、推敲、完成
18-20	実習前確認	個人情報保護、リスクマネジメント等注意点、礼状の書き方再確認

4 学年前期（夏季集中）・選択・19 時間

回	授業題目	授業内容
21-27	実習後指導 1	個人面接による実習の振り返り、実習報告書の作成指導等
28-33	実習後指導 2	個人面接による実習の振り返り、実習報告書の作成指導等
34-39	実習後指導 3	個人面接による実習の振り返り、実習報告書の作成指導等

4 学年後期・選択・6 時間

回	授業題目	授業内容
40-42	実習報告 1	学生による社会福祉援助技術現場実習の報告
43-45	実習報告 2	学生による社会福祉援助技術現場実習の報告

評価方法

発表内容、提出課題、出席状況および授業態度による総括的評価を行う。

参考図書等

随時「実習の手引き」等の資料を配付する。

科目名	訪問歯科口腔介護臨地実習
授業形態	実習
開講時期・単位・時間数	4 学年後期・必修 2 単位・60 時間
科目責任者	下山和弘、遠藤圭子
授業担当者	訪問歯科衛生士、口腔保健学科教員
主な授業場所	居宅、高齢者施設、修士課程講義室

学習目標

施設や居宅において、対象者本位の口腔保健活動を実践するために必要な態度・知識・技能を習得する。

到達目標

- ・対象者の身体的・精神的・社会的苦痛に配慮し、問題点を抽出・整理できる。
- ・対象者の不安・不満や表情・行動の変化に適切に対応できる。
- ・診療に必要な器材を説明できる。
- ・対象者および家族と信頼関係を築くことができる。
- ・個人的、社会的背景が異なる対象者に、わけへだてなく対応できる。
- ・対象者の価値観は多様であることを認識して、柔軟に対応できる。
- ・わかりやすい口頭健康指導ができる。

授業計画 4 学年後期・必修 2 単位・60 時間

回	授業題目	授業内容
1, 2	訪問歯科口腔介護臨地実習のオリエンテーション	訪問歯科診療の実際、訪問による歯科口腔介護の意義、訪問歯科口腔介護の現状、居宅・施設訪問時の留意点、実習の概要
3-7	訪問歯科診療	必要器材の確認、準備、補助、感染予防対策
8-13	特別養護老人ホームにおける実習	特別養護老人ホームの施設概要と現状理解、入所者に関する事前情報の収集および整理、分析
14-19	〃	利用者の観察と体調確認
20-25	〃	口腔ケアの実践、実施内容の報告

26-31	実習のまとめ	事後評価、記録作成、実習報告書の作成
32-37	対象者の理解、コミュニケーション	対象者の現状把握、対象者・家族とのコミュニケーションのとり方
38-43	信頼関係の構築	インフォームドコンセント、対象者・家族との信頼関係構築
44-49	アセスメント	アセスメントの実際、診療計画、口腔保健活動目標の設定・プランニング
50-55	口腔ケア	体調確認、口腔ケアのためのアセスメントの実際、前処置および口腔ケア実施
56-60	記録・報告	診療記録の作成・報告

評価方法

実習計画書・報告書により総括的評価を行う。

実習態度、出席状況、受け入れ先からの評価を総括的評価に加味する。

参考図書

- ・随時、「実習の手引き」等の資料を配付する。
- ・「はじめて学ぶ歯科口腔介護」 新井俊二、小椋秀亮監修 医歯薬出版
- ・「脳卒中患者の口腔ケア」 植田耕一郎 医歯薬出版

留意事項

実習先の状況に合わせて、実習計画を立てる。内容によって、時間が変わることがある。

訪問先の状況をよく把握して、配慮ある適切な行動をとること。服装、態度等に留意すること。

不適切な場合は実習停止とする場合がある。

科目名	特論（卒業研究）
授業形態	実習
開講時期・単位・時間数	4 学年前期・必修・30 時間 4 学年後期・必修・105 時間 } 3 単位
科目責任者	杉本久美子
授業担当者	口腔保健学科教員、口腔保健教育研究センター教員、歯学科教員
主な授業場所	修士課程講義室

学習目標

各人の興味、将来の方向性にそって、テーマを選定し、計画・立案に基づいて研究を実施して、その結果を論文にまとめることにより、研究への理解と意欲を培う。

到達目標

- ・自分の興味、方向性に即して研究テーマを設定できる。
- ・研究論文の検索と科学的吟味ができ、知見を整理できる。
- ・EBM・EBHC の概念を説明できる。
- ・研究の計画・立案ができる。
- ・実験・調査などの研究を実施できる。
- ・実験・調査などの結果を整理、分析できる。
- ・結果分析に基づき、新たな課題を抽出、提起できる。
- ・一連の研究成果を論文にまとめられる。

授業計画

4 学年前期・必修・30 時間

回	授業題目	授業内容
1, 2	卒業研究オリエンテーション 1	卒業研究の概要、研究デザイン・研究方法について
3, 4	卒業研究オリエンテーション 2	Evidence-based Medicine (EBM)・Evidence-based Health Care (EBHC) とは
5, 6	研究テーマの検討 文献検索ガイダンス	研究テーマの検討、情報収集・文献検索の方法
7, 8	文献検索	文献検索の実施、検索文献の読解と科学的吟味、研究テーマの決定

9-14	研究計画の検討	研究概要、研究方法の具体的検討
15, 16	研究計画の決定	研究計画の決定、研究計画書作成
17-19	研究計画発表会	研究計画の発表と吟味
20, 21	研究計画の再検討・調整	発表会の評価に基づく研究計画の再検討と調整
22, 23	研究計画最終決定	研究計画書完成
24-30	研究実施	研究計画に基づく研究の実施

4 学年後期・必修・105 時間

回	授業題目	授業内容
31-34	研究結果の中間総括	研究データの整理・分析とまとめ
35, 36	研究の中間発表準備	研究成果の中間発表準備
37-39	研究中間発表会	研究成果の中間発表と討論
40, 41	中間評価に基づく研究の再検討	中間評価に基づく研究内容および進め方の再検討と調整
42-82	研究の実施と研究結果の分析	再検討後の研究計画に基づく研究の追加実施 研究結果の整理と分析
83-103	研究結果のまとめ、研究論文作成	研究結果のまとめ、研究論文作成、研究成果発表の準備
104-135	研究論文修正、卒業研究発表会の準備	研究論文の修正、卒業研究発表会の準備

評価方法

研究成果発表会および卒業研究論文により総括的評価を行う。出席状況、研究態度を総括的評価に加味する。

参考図書等

- ・「歯科衛生研究の進め方・論文の書き方」 金澤紀子、武井典子、合場千佳子、岩久正明編 医歯薬出版
- ・「保健・医療のための研究法入門」 朝倉隆司監訳 協同医書出版社
- ・「医学的研究のデザイン」第2版 木原雅子、木原正博訳 メディカル・サイエンス・インターナショナル
- ・「看護研究―原理と方法」 D.F. ポーリット、B.P. ハングラー、押尾 祥子著 医学書院
- ・「よくわかる 看護研究の進め方・まとめ方 エキスパートをめざして」 横山三江編 医歯薬出版

留意事項

- ・ 研究テーマに応じて指導分野を設定するので、常に指導教員と常に密接な連絡を取り、助言を得ながら研究を進めること。
- ・ 研究内容、進行状況によっては、割り当てられた授業時間だけで完遂することが難しい場合がある。
- ・ 平成21年1月9日(金)までに論文集用卒業研究論文をe-learning上で提出すること。
- ・ 平成21年2月9日(月)に卒業研究発表会を実施予定。